

小金井市

公園等整備基本方針



平成31年3月
小金井市

目次

第1章 基本事項	1
1-1. 策定の趣旨.....	1
1-2. 関連計画との整合性.....	1
1-3. 対象公園等.....	4
1-4. 区域区分.....	7
第2章 小金井市の地域特性	8
2-1. みどりの特徴.....	8
(1) 小金井のみどり.....	8
(2) みどりの分布.....	9
2-2. 社会的現況.....	11
(1) 人口.....	11
(2) 文化財.....	13
(3) スポーツ施設.....	13
第3章 公園・緑地等の現状	14
3-1. 公園・緑地等の整備状況.....	14
(1) 公園・緑地等の整備量の推移.....	14
(2) 公園種別の公園・緑地等面積が地域に占める割合.....	15
(3) 管理者別の整備量.....	15
3-2. 公園・みどり等の配置状況.....	16
(1) 種別の分布.....	16
(2) 管理者別の分布.....	17
(3) 公園・みどり等利用圏.....	18
(4) 借地公園等の分布.....	19
(5) 寄附により整備した公園等の分布.....	20
(6) 開発提供公園等の分布.....	21
3-3. 機能別配置状況.....	22
(1) 防災機能.....	22
(2) レクリエーション機能.....	24
(3) 休息機能.....	27
(4) 景観・環境保全機能.....	30

3-4. 公園等の維持管理	31
(1) 維持管理費	31
(2) 管理・活用団体	31
3-5. 公園等に対するニーズ	33
(1) 利用実態調査結果	33
(2) 公園等に関する要望	37
第4章 公園等の評価	40
4-1. 公園等の評価	40
(1) 評価方法	40
(2) 評価結果	44
(3) 評価結果のまとめ	69
第5章 課題のまとめ	72
5-1. 市全体を取り巻く課題	72
5-2. 地域別の課題	73
第6章 基本方針	74
6-1. 基本理念	74
6-2. 基本方針	75
6-3. 取組の方向性	76
方針Ⅰ 地域資源の活用、多分野との連携による公園等の多面的利用	76
方針Ⅱ 人口減少と人口構成の変化を見据えた適正な配置・機能の誘導	78
方針Ⅲ 既存低未利用公園等の解消	83
方針Ⅳ 公民協働や地域主体による公園等の維持・管理	84
第7章 基本方針の推進に向けて	85
7-1. 推進方策	85
7-2. 庁内の連携	92
7-3. 市民参加の推進	92

資料編	93
1. 検討会議等.....	93
(1) 庁内検討会議の開催.....	93
(2) 緑地対策審議会の開催.....	94
2. 市民参画.....	95
(1) 市民ワークショップの開催.....	95
3. 例規等.....	96
(1) 都市計画施行令（抜粋）.....	96
(2) 小金井市まちづくり条例（「小金井宅地開発等の手引き」より抜粋）.....	96

第1章 基本事項

1-1. 策定の趣旨

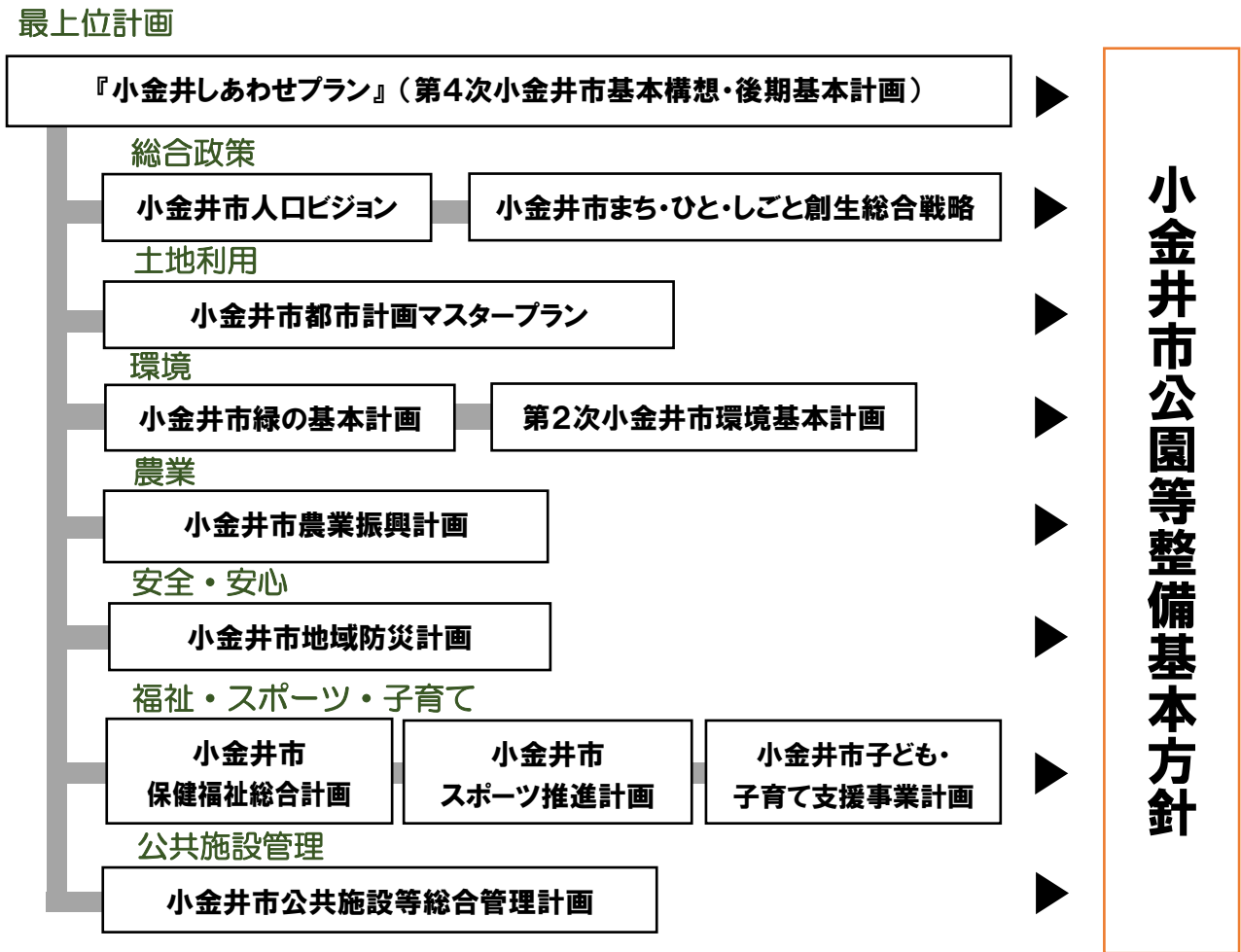
現在、市内には235か所の公園・緑地等¹が供用されており、そのうち約140か所が開発等による提供公園等²です。そのため、地域によって公園等の整備状況に差が生じており、機能の偏在化による低未利用公園等の発生やそれに係る維持管理が課題となっており、公園等の更なる適正整備が必要となっています。

このため、小金井市に相応しい公園等に対する概念の検討や低未利用公園等の課題を整理し、本市における公園等のあり方を構築するため、公園等整備基本方針を策定しました。

1-2. 関連計画との整合性

小金井市公園等整備基本方針は市が管理する公園等を対象とするため、関係部署とも連携し、市の各計画における公園等と連携した事業について整合性を図ります。

図 1-1 市計画の体系図



¹ 本方針においては、公園・緑地等とは、都立公園や東京都住宅供給公社等が管理する公園・緑地を含む、市内の全ての公園・緑地をいう。

² 本方針においては、公園等とは、小金井市が管理する公園・緑地をいう。

関連計画との整合性を図るポイントは以下の通りです。

計画名称	公園・緑地に関連して整合性を図るポイント
『小金井しあわせプラン』（第4次小金井市基本構想・後期基本計画）（平成28年3月）	将来像「みどりが萌える・子どもが育つ・きずなを結ぶ 小金井市」 ・意識啓発や市民による公園・緑地づくり等のみどりを育む仕組みづくり ・国分寺崖線や残存樹林等緑地の保全 ・計画的な整備によるみどりのネットワークの形成 ・自然と調和した住環境の整備 ・計画的な都市整備
小金井市人口ビジョン（平成28年3月）	・魅力の発信と移住・定住への誘引 ・安心して子育てができるまちづくり ・安全安心な住環境と自己充足の実現
小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成28年3月）	・豊かな緑と良好な住環境を守るまちづくりの推進 ・子どもの育ち・学びのための環境の充実
小金井市都市計画マスタープラン（平成24年3月）	まちづくりのテーマ「人・水・みどり ふれあいのまち 小金井」 ・次世代に誇れる小金井の景観づくり ・水とみどりの再生とネットワーク化 ・武蔵小金井地域、東小金井地域、野川地域の3つの地域別構想
小金井市緑の基本計画（平成23年3月）	基本理念「私たちのみどり、育てるみどり、活かすみどり」 ・みどりを守り、活かす（緑地保全） ・みどりをつくり、育て、活かす（都市公園の整備と活用） ・市民参加でみどりを守り、つくり、活かす（活動の仕組みと支援体制づくり）
第2次小金井市環境基本計画（平成27年3月）	将来の環境像「緑・水・生きもの・人 …わたしたちが心豊かにくらすまち小金井」 ・公園・緑地の保全と市民参加による管理 ・新たな公園緑地等の確保・整備と緑化の推進 ・水とみどりのネットワークの形成、一体的な回復と創造
小金井市農業振興計画（平成23年3月）	基本理念「農がみんなの笑顔をつくる 12万人の小金井都市農業」 ・生産緑地を買い取り、シティファーム（農業公園）のような活用を図る ・公園や道路の街路樹などに市内産植木・花きの活用を促進 ・オープンガーデンの設置
小金井市地域防災計画（平成27年2月（修正））	・公園の新設や既存の公園の整備により、防災機能の高い公園をつくる。 ・防災公園ネットワークの形成を図る。 ・避難場所指定を受けている公園の、避難場所としての安全性向上を図る。

計画名称	公園・緑地に関連して整合性を図るポイント
小金井市保健福祉総合計画（平成 24 年 3 月）	第 1 節 地域における多様な交流や活動の推進（2）多様な交流の推進 施策「都市公園、児童遊園等遊び場の確保・充実」 地域の人々の憩いの場、交流の場として、また、子どもたちが元気で安全・安心に遊べる公園・児童遊園の整備に努めます。
小金井市スポーツ推進計画（平成 29 年 4 月）	基本目標 スポーツ環境の充実 小金井市には緑豊かな公園と学校（高校・大学等）があり、連携・協力していくことで、「だれでも、いつでも、どこでも」スポーツ活動に親しめる環境づくりを推進していきます。
小金井市子ども・子育て支援事業計画（平成 27 年 3 月）	目標 2 子どものゆたかな体験と仲間づくりを支えます 事業 2-3 校庭、公園等遊べる場の整備等 子どもからお年よりまでの憩いの場・交流の場、青少年が安心して遊べる魅力ある場（小学校の校庭開放、プレーパークなど）の確保と環境づくりを行う。
小金井市公共施設等総合管理計画（平成 29 年 3 月）	基本目標：人口に合わせた総量抑制と更新費及び維持管理費の縮減努力 ・計画的な施設更新 ・安全安心の確保 ・市民サービスの向上

また、東京都の公園に関する方針に対しても整合性を図ります。

計画名称	整合性を図るポイント
東京都長期ビジョン（平成 26 年 12 月）	・避難所や災害時活動拠点としての公園の防災機能強化 ・安心して産み育てられ、子供たちが健やかに成長できるまちの実現 ・水と緑に囲まれ、環境と調和した都市の実現
都市計画公園・緑地の整備方針（改定）（平成 23 年 12 月）	・防災機能を高める公園整備 ・環境負荷を低減し、自然と共生する都市環境の形成 ・潤いと安らぎを与え、レクリエーションの場となる公園の整備 ・都市の魅力を向上させる公園の整備
みどりの新戦略ガイドライン（平成 18 年 1 月）	・みどりの質、機能の向上 ・みどりの「拠点」と「軸」をベースとした、みどりのネットワークの形成 ・公民協働によるみどりのネットワーク形成の推進
緑確保の総合的な方針（改定）（平成 28 年 3 月）	・都と区市町村とが共同して、緑の減少傾向の緩和と機能の継続に努める ・行政、都民、NPO、企業等の協働により、緑の保全に努めていく

1-3. 対象公園等

本方針では、市が管理する 216 か所の公園等を対象とします。(配置等を検討する際は、市が管理していない都立公園等も含めて検討します。)

対象となる公園・緑地等の一覧

・公園³ (市が管理する公園 142 か所、市以外が管理する公園 19 か所)

名称	種別	名称	種別
上水公園	都市公園 ⁴	ゆずりは公園	都市公園以外の公園
上の原公園	都市公園	桜町こぶし公園	都市公園以外の公園
桜町公園	都市公園	かわせみ公園	都市公園以外の公園
三楽公園	都市公園	貫井北町二丁目児童遊園	都市公園以外の公園
浴恩館公園	都市公園	コウヤマキ公園	都市公園以外の公園
栗山公園	都市公園	木の実公園	都市公園以外の公園
前原町三丁目公園	都市公園	貫井橋公園	都市公園以外の公園
ぐみの木公園	都市公園	貫井北町五丁目児童遊園	都市公園以外の公園
小長久保公園	都市公園	ネムノキ公園	都市公園以外の公園
梶野公園	都市公園	貫井南遊歩道公園	都市公園以外の公園
貫井けやき公園	都市公園	かきの木公園	都市公園以外の公園
シャラノキ公園	都市公園以外の公園	貫井南町緑の森公園	都市公園以外の公園
やまばと公園	都市公園以外の公園	貫井南花木公園	都市公園以外の公園
東町二丁目第2児童遊園	都市公園以外の公園	ムクロジ公園	都市公園以外の公園
東町三丁目児童遊園	都市公園以外の公園	アオダモ公園	都市公園以外の公園
東町三丁目第2児童遊園	都市公園以外の公園	貫井南町四丁目第4児童遊園	都市公園以外の公園
パンダ公園	都市公園以外の公園	貫井南町大けやき公園	都市公園以外の公園
東町シナノキ公園	都市公園以外の公園	貫井かしのき公園	都市公園以外の公園
東町トチノキ公園	都市公園以外の公園	貫井もちのき公園	都市公園以外の公園
東町四丁目児童遊園	都市公園以外の公園	貫井南つつじ公園	都市公園以外の公園
マルメロ公園	都市公園以外の公園	サンシュユ公園	都市公園以外の公園
アオギリ公園	都市公園以外の公園	なつみかん公園	都市公園以外の公園
梶野町くぬぎ公園	都市公園以外の公園	リーフィア貫井南公園	都市公園以外の公園
もくれん公園	都市公園以外の公園	もみじの里公園	都市公園以外の公園
梶野町ハナノキ公園	都市公園以外の公園	桜町なかよし公園	都市公園以外の公園
緑水郷公園	都市公園以外の公園	ナツグミ広場	都市公園以外の公園
梶野町四丁目児童遊園	都市公園以外の公園	東町いちょう広場	都市公園以外の公園
さるすべり公園	都市公園以外の公園	東町三丁目第2子供広場	都市公園以外の公園
梶野町クルミ公園	都市公園以外の公園	東町ポケット広場	都市公園以外の公園
関野町エノキ公園	都市公園以外の公園	梶野町まつのき広場	都市公園以外の公園
緑町二丁目児童遊園	都市公園以外の公園	雑木林広場	都市公園以外の公園
四本けやき公園	都市公園以外の公園	梶野町四丁目子供広場	都市公園以外の公園
梅の木公園	都市公園以外の公園	梶野広場	都市公園以外の公園
ナナカマド公園	都市公園以外の公園	リンゴ広場	都市公園以外の公園
緑町コニファー公園	都市公園以外の公園	クワノキ広場	都市公園以外の公園
緑町三丁目児童遊園	都市公園以外の公園	シデザクラ広場	都市公園以外の公園

³ 本方針では、公園とは、主として自然的環境の中で、休息、鑑賞、散歩、遊戯、運動等のレクリエーション及び大震災等災害時の避難等の用に供することを目的とする公共空地のことをいう。

⁴ 都市公園とは地方自治体が都市計画区域内に設置し、都市公園法に定められる公園または緑地のこと。

名称	種別	名称	種別
みどり公園	都市公園以外の公園	もみじ広場	都市公園以外の公園
緑町キンモクセイ公園	都市公園以外の公園	緑町五丁目第2子供広場	都市公園以外の公園
緑町さくら公園	都市公園以外の公園	中町一丁目第2子供広場	都市公園以外の公園
やまざくら公園	都市公園以外の公園	中町三丁目暫定広場	都市公園以外の公園
やまもも公園	都市公園以外の公園	中町三丁目子供広場	都市公園以外の公園
ひさかき公園	都市公園以外の公園	中町三丁目第2子供広場	都市公園以外の公園
はぐくみ公園	都市公園以外の公園	ハケの上広場	都市公園以外の公園
中町シダレザクラ公園	都市公園以外の公園	前原町一丁目第2子供広場	都市公園以外の公園
ヤマボウシ公園	都市公園以外の公園	前原町一丁目第4子供広場	都市公園以外の公園
ムジナ坂上公園	都市公園以外の公園	七軒家広場	都市公園以外の公園
中町二丁目児童遊園	都市公園以外の公園	前原町二丁目第2子供広場	都市公園以外の公園
中町二丁目第2児童遊園	都市公園以外の公園	前原町二丁目第3子供広場	都市公園以外の公園
中町二丁目第3児童遊園	都市公園以外の公園	ナツメ広場	都市公園以外の公園
前原やなぎ公園	都市公園以外の公園	前原坂ポケット広場	都市公園以外の公園
野川緑地公園	都市公園以外の公園	はなもも広場	都市公園以外の公園
モッコク公園	都市公園以外の公園	前原町五丁目子供広場	都市公園以外の公園
前原町四丁目公園	都市公園以外の公園	前原町さくら広場	都市公園以外の公園
前原町四丁目児童遊園	都市公園以外の公園	ピラカンサ広場	都市公園以外の公園
イチョウ公園	都市公園以外の公園	ゆりのき広場	都市公園以外の公園
もみの木公園	都市公園以外の公園	大尽の坂広場	都市公園以外の公園
前原町クスノキ公園	都市公園以外の公園	桜町一丁目第4子供広場	都市公園以外の公園
メグスリノキ公園	都市公園以外の公園	楓の木広場	都市公園以外の公園
丸山台公園	都市公園以外の公園	クスノキ広場	都市公園以外の公園
前原町ハナミズキ公園	都市公園以外の公園	ザイフリボク広場	都市公園以外の公園
ふじのき公園	都市公園以外の公園	貫井南町一丁目第2子供広場	都市公園以外の公園
ハナミズキ公園	都市公園以外の公園	貫井南町一丁目第3子供広場	都市公園以外の公園
本町ハナミズキ公園	都市公園以外の公園	貫井南町カリン広場	都市公園以外の公園
本町公園	都市公園以外の公園	下弁天子広場	都市公園以外の公園
タブノキ公園	都市公園以外の公園	ロウバイ広場	都市公園以外の公園
本町さくら公園	都市公園以外の公園	貫井けやき広場	都市公園以外の公園
むさこぶらっと公園	都市公園以外の公園	貫井南町四丁目第2子供広場	都市公園以外の公園
本町カツラ公園	都市公園以外の公園	貫井南町四丁目第3子供広場	都市公園以外の公園
こもれび公園	都市公園以外の公園	貫井南町五丁目子供広場	都市公園以外の公園
さくら公園	都市公園以外の公園	貫井南町五丁目第3子供広場	都市公園以外の公園
きりの木公園	都市公園以外の公園	ヤマボウシ広場	都市公園以外の公園

※市以外が管理する公園

名称	種別	名称	種別
小金井公園	東京都管理公園	貫井北町三丁目第1アパート内公園	東京都住宅供給公社自主管理公園
武蔵野公園	東京都管理公園	貫井北町三丁目第2アパート内公園	東京都住宅供給公社自主管理公園
野川公園	東京都管理公園	貫井住宅内公園	東京都住宅供給公社自主管理公園
東町一丁目アパート内公園	東京都住宅供給公社自主管理公園	グリーンタウン小金井内公園(北側)	都市再生機構自主管理公園
トミンハイム小金井中町公園	東京島住宅供給公社自主管理公園	グリーンタウン小金井内公園(南側①)	都市再生機構自主管理公園
前原町三丁目アパート内公園	東京都住宅供給公社自主管理公園	グリーンタウン小金井内公園(南側②)	都市再生機構自主管理公園
本町五丁目アパート内公園	東京都住宅供給公社自主管理公園	貫井第一公園	関東財務局自主管理公園 ⁵

⁵ 関東財務局とは財務省の管轄業務のうち、財政及び国有財産の業務など税務以外の全ての業務を行う地域に根差した総合経済官庁で埼玉県さいたま市に所在する。

名称	種別	名称	種別
本町第一公園	東京都住宅供給公社自主管理公園	緑町二丁目みんなの広場	総務省自主管理公園
本町第二公園	東京島住宅供給公社自主管理公園	本町五丁目みんなのひろば	総務省自主管理公園
桜町二丁目アパート内公園	東京都住宅供給公社自主管理公園		

・緑地⁶（市が管理する緑地 74 か所）

名称	種別	名称	種別
東町二丁目緑地	都市公園以外の緑地	はけのうえ竹の子緑地	都市公園以外の緑地
東町しだれざくら緑地	都市公園以外の緑地	前原町シラカシ緑地	都市公園以外の緑地
ぶどう緑地	都市公園以外の緑地	はなみずきの庭	都市公園以外の緑地
エンジュ緑地	都市公園以外の緑地	野川サクラ緑地	都市公園以外の緑地
東町五丁目緑地	都市公園以外の緑地	ユズ緑地	都市公園以外の緑地
二枚橋上緑地	都市公園以外の緑地	西の台緑地	都市公園以外の緑地
堀端緑地	都市公園以外の緑地	雑木林緑地	都市公園以外の緑地
梶野町雑木緑地	都市公園以外の緑地	サクランボ緑地	都市公園以外の緑地
サルスベリ緑地	都市公園以外の緑地	アンズ緑地	都市公園以外の緑地
緑町一丁目緑地	都市公園以外の緑地	スモモ緑地	都市公園以外の緑地
緑町雑木林緑地	都市公園以外の緑地	ワダスメモリー緑地	都市公園以外の緑地
うめの木緑地	都市公園以外の緑地	本町二丁目緑地	都市公園以外の緑地
ヤマモモ緑地	都市公園以外の緑地	本町木の実緑地	都市公園以外の緑地
亀久保緑地	都市公園以外の緑地	上山谷緑地公園	都市公園以外の緑地
木の実緑地	都市公園以外の緑地	ネムノキ緑地	都市公園以外の緑地
砂川用水ポケット緑地	都市公園以外の緑地	白樺緑地	都市公園以外の緑地
仙川緑地	都市公園以外の緑地	築樋緑地	都市公園以外の緑地
孟宗竹緑地	都市公園以外の緑地	エゴノキ緑地	都市公園以外の緑地
イチジク緑地	都市公園以外の緑地	アラカシ緑地	都市公園以外の緑地
緑町ポケット緑地	都市公園以外の緑地	桜町二丁目緑地	都市公園以外の緑地
緑町ポケット緑地 2	都市公園以外の緑地	ナツメ緑地	都市公園以外の緑地
下山谷の森	都市公園以外の緑地	貫井北町カリン緑地	都市公園以外の緑地
緑町シダレザクラ緑地	都市公園以外の緑地	玉川上水ポケット緑地	都市公園以外の緑地
キンカン緑地	都市公園以外の緑地	貫井北町五丁目緑地	都市公園以外の緑地
四割堰緑地	都市公園以外の緑地	貫井南町シャラノキ緑地	都市公園以外の緑地
中町さくら緑地	都市公園以外の緑地	モクレン緑地	都市公園以外の緑地
美術の森緑地	都市公園以外の緑地	三楽緑地	都市公園以外の緑地
中町マンサク緑地	都市公園以外の緑地	貫井南町三丁目緑地	都市公園以外の緑地
こぶし緑地	都市公園以外の緑地	マユミ緑地	都市公園以外の緑地
かしの木緑地	都市公園以外の緑地	貫井南町サクラ緑地	都市公園以外の緑地
中町雑木緑地	都市公園以外の緑地	サンシュユ緑地	都市公園以外の緑地
ヤマボウシ緑地	都市公園以外の緑地	ハナダイコン緑地	都市公園以外の緑地
中町シダレザクラ緑地	都市公園以外の緑地	滄浪泉園緑地	特別緑地保全地区 ⁷
天神橋緑地	都市公園以外の緑地	三楽の森公共緑地	公共緑地
はけの森緑地	都市公園以外の緑地	どんぐりの森公共緑地	公共緑地
中町四丁目緑地	都市公園以外の緑地	中町四丁目公共緑地	公共緑地
はけの森緑地 2	都市公園以外の緑地	緑町竹林緑地帯	緑地帯

⁶ 本方針では、緑地とは、主として自然環境を有し、環境の保全、公害の緩和、災害の防止、景観の向上及び緑道の用に供することを目的とする公共空地のことをいう。都市緑地法等に規定する緑地も本方針の対象とする。

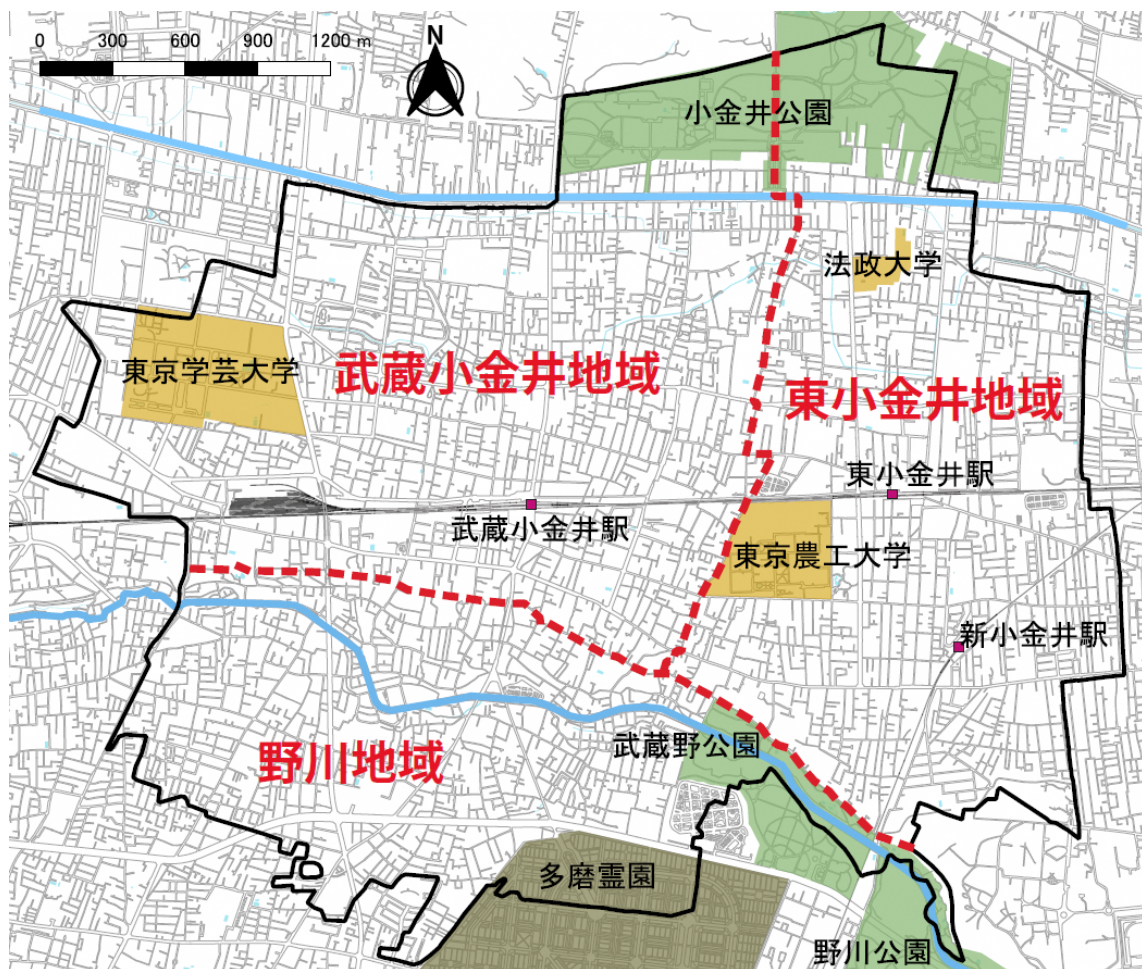
⁷ 特別緑地保全地区とは都市における良好な自然的環境となる緑地において、建築行為など一定の行為の制限などにより現状凍結的に保全する制度で、市町村が計画決定を行い、建築行為や売買に制限が掛かる一方で、所有者には相続税や固定資産税等の面で優遇措置が敷かれる。

1-4. 区域区分

本方針における区域区分は、都市計画マスタープランをはじめとした他計画との整合性を図っていくため、JR武蔵小金井駅を中心とした武蔵小金井地域、JR東小金井駅及び西武多摩川線新小金井駅周辺を中心とした東小金井地域、国分寺崖線以南の野川地域の三地域とします。

地域	対応する町丁目
武蔵小金井地域	関野町2丁目、緑町3丁目、緑町4丁目、緑町5丁目、中町1丁目（一部）、中町2丁目、前原町3丁目（一部）、本町、桜町、貫井北町、貫井南町3丁目（一部）
東小金井地域	東町、梶野町、関野町1丁目、緑町1丁目、緑町2丁目、中町1丁目（一部）、中町3丁目、中町4丁目（一部）
野川地域	中町1丁目（一部）、中町4丁目（一部）、前原町1丁目、前原町2丁目、前原町3丁目（一部）、前原町4丁目、貫井南町1丁目、貫井南町2丁目、貫井南町3丁目（一部）、貫井南町4丁目、貫井南町5丁目

図 1-2 区域区分(武蔵小金井地域/東小金井地域/野川地域)



第2章 小金井市の地域特性

2-1. みどりの特徴

(1) 小金井市のみどり

小金井市には地形の特徴である国分寺崖線、野川、歴史的に重要な玉川上水、人々が憩う公園、大規模な大学、閑静な寺社や屋敷林などさまざまな豊富なみどりがあります。みどりの総量は 300ha 弱程度で、そのうち施設緑地は 6 割程度、地域性緑地は 4 割程度となっています(小金井市緑の基本計画より)。本方針ではこれらの国分寺崖線がもたらす地形的特徴と、複数の大学及び広い都立公園が立地する環境を踏まえたものとします。

緑地の種類		面積
全緑地の合計		297.59ha
施設緑地		198.28ha
公園緑地		127.36ha
都市公園等		99.21ha
住区基幹公園	街区公園	1.35ha
	近隣公園	4.69ha
	地区公園	0.00ha
都市基幹公園	総合公園	0.00ha
	運動公園	0.00ha
特殊公園	風致公園	10.31ha
広域公園		60.46ha
都市計画墓園		22.40ha
公共施設緑地		28.12ha
市条例等による公園・広場・緑地と市民農園	児童遊園	2.67ha
	子供広場	2.32ha
	市民農園等	1.05ha
	その他の緑地	1.40ha
教育施設	小中学校	20.71ha
民間施設緑地		70.92ha
大学		58.27ha
寺社境内		5.82ha
グラウンド		6.83ha
地域性緑地		99.29ha
法によるもの		92.66ha
特別緑地保全地区（滄浪泉園）		1.20ha
風致地区（玉川上水風致地区（第2種））		10.54ha
生産緑地地区（市内全域）		70.26ha
河川区域（野川、仙川）		8.36ha
その他の法によるもの（文化財保護法に基づく史跡玉川上水）		2.30ha
条例によるもの		7.22ha
緑地保全地域（国分寺崖線保全地域指定区域）		1.31ha
環境緑地		5.25ha
公共緑地		0.66ha
地域制緑地間の重複		-0.59ha

※面積は平成 21 年又は 22 年時点のもの（小金井市緑の基本計画より）

(2) みどりの分布

本市の主要なみどりとして公園や緑地のほか、河川、学校があります。北部には都立小金井公園や玉川上水が、南部には都立武蔵野公園や都立野川公園、都立多磨霊園があり、その間にその他の公園や学校が広がっています。市内西部中央から南東にかけては国分寺崖線や野川が伸びており、生態系豊かな自然緑地や歴史の深い寺社もあります。

図 2-1 市内の主要なみどりの分布

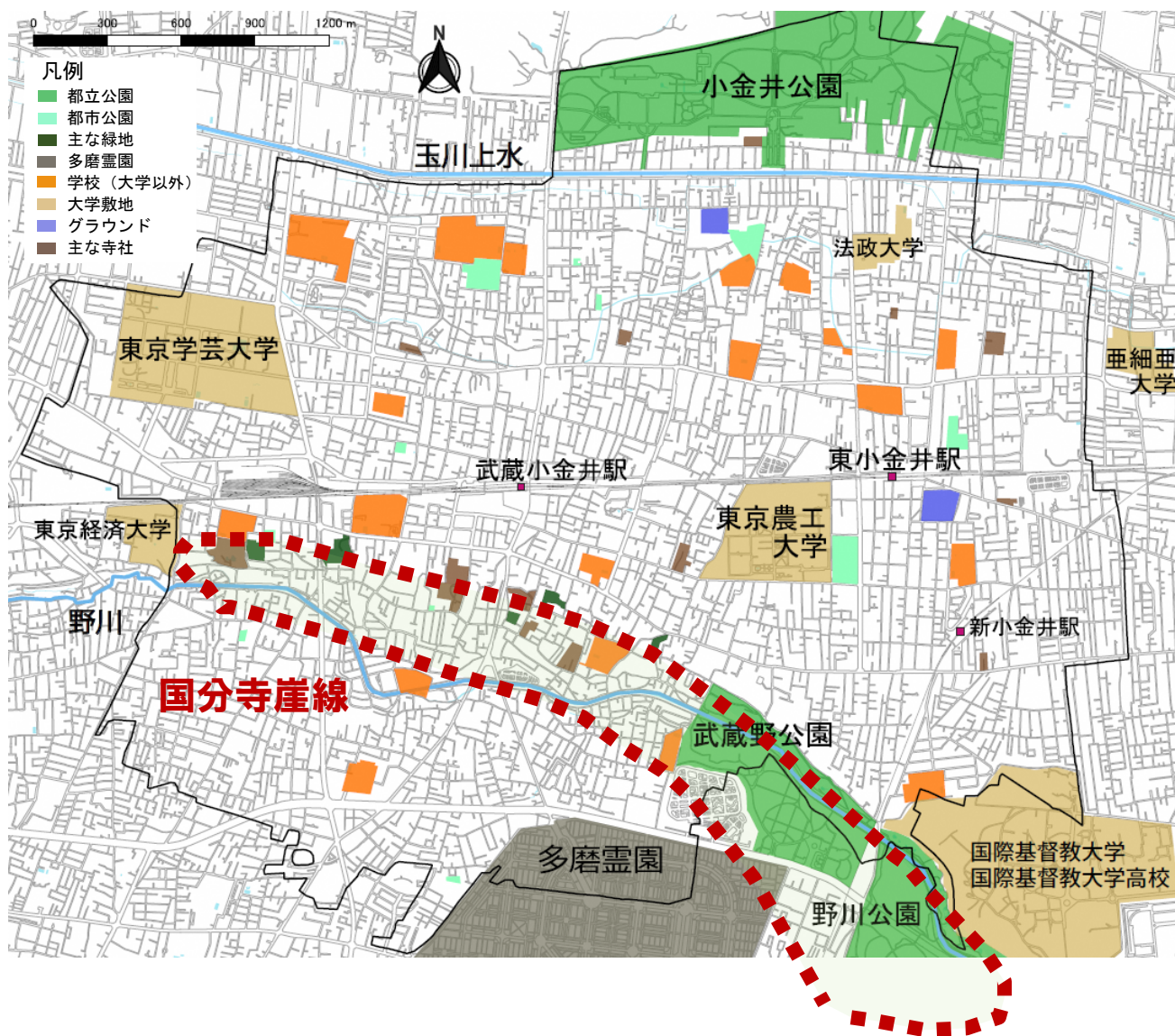
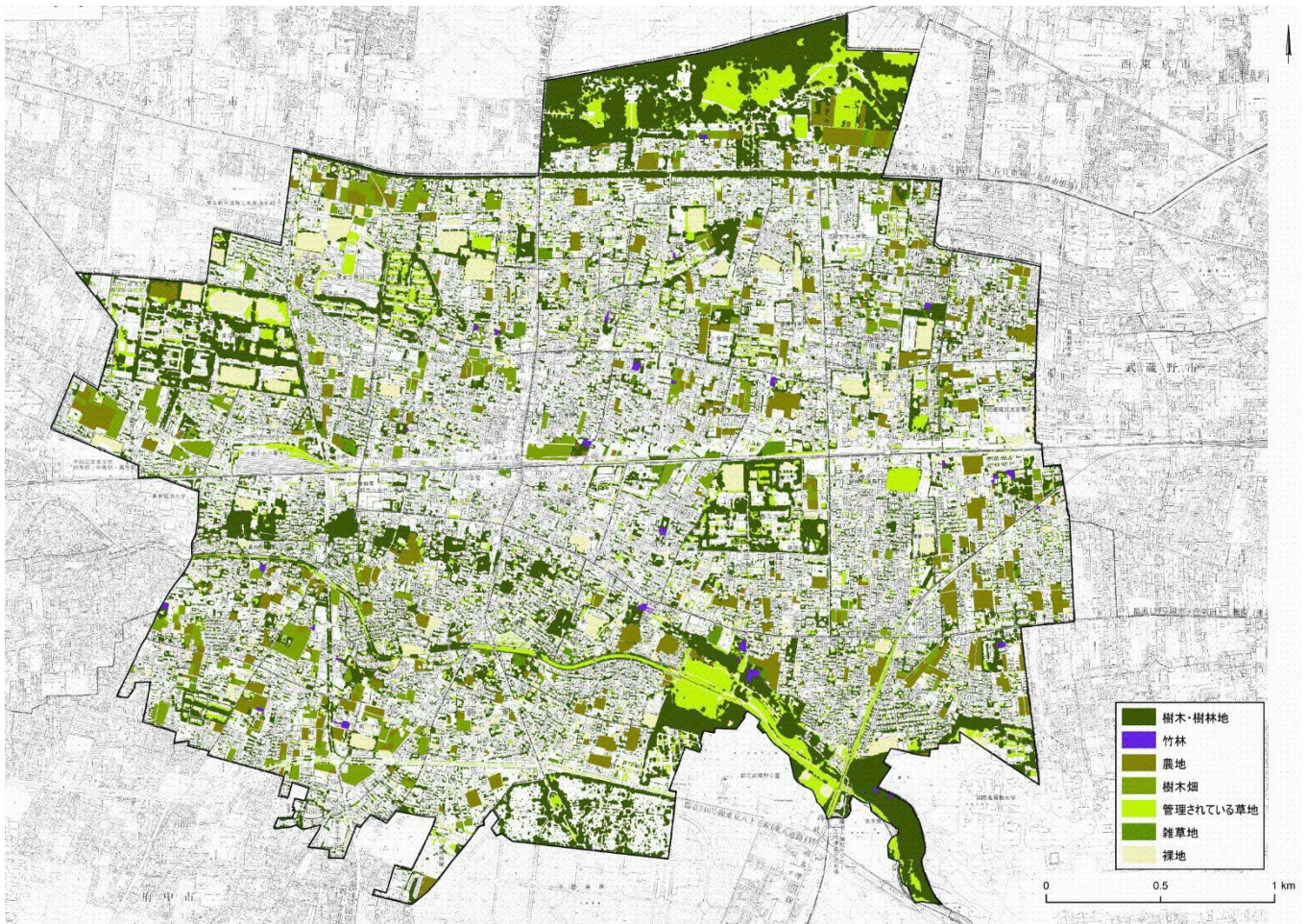


図 2-2 (参考) 緑被分布図



小金井市緑の基本計画（平成 23 年 3 月）より

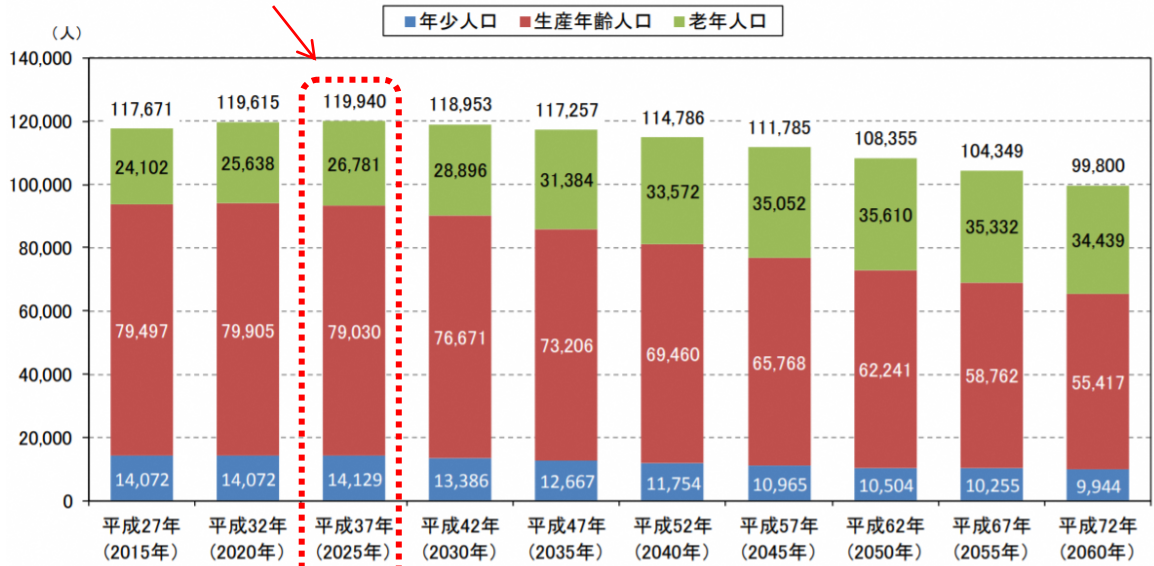
2-2. 社会的現況

(1) 人口

本市の人口は2025年頃まで増加する見込みですが、少子高齢化が進んでおり、近い将来に人口減少に転じる見込みです。人口分布には偏りがあり、駅周辺に集中しています。

図 2-3 将来人口推計

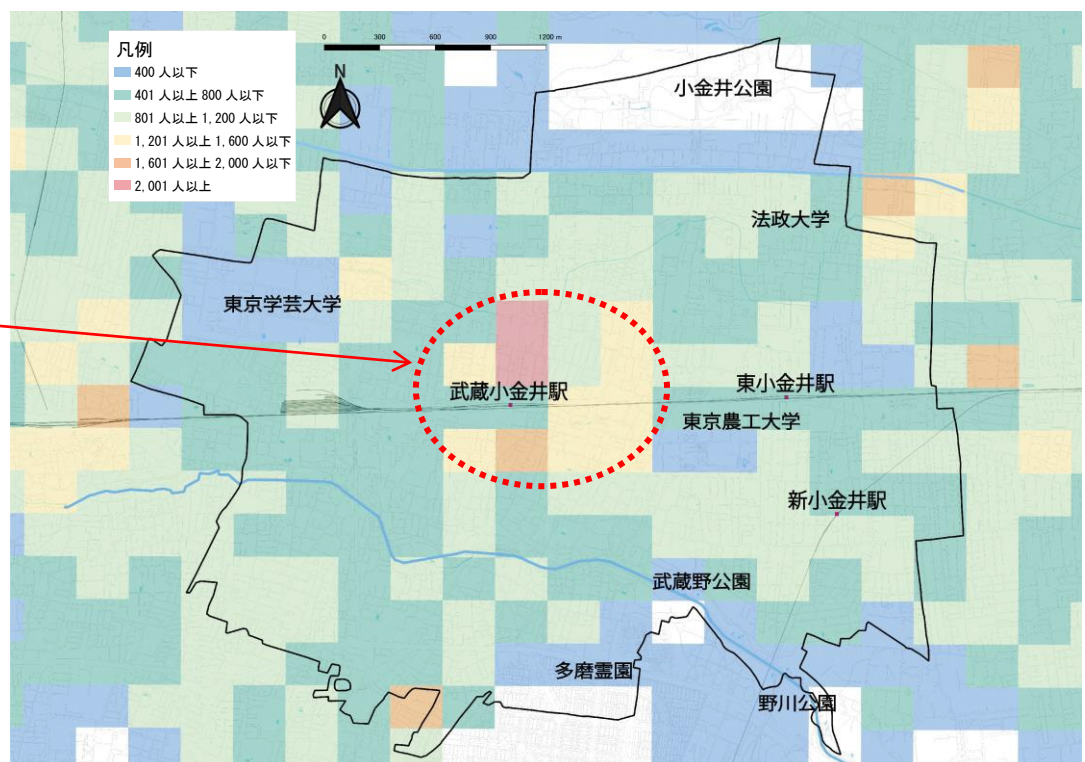
小金井市の人口のピーク



出典：小金井市人口ビジョン

図 2-4 人口分布(250mメッシュ)

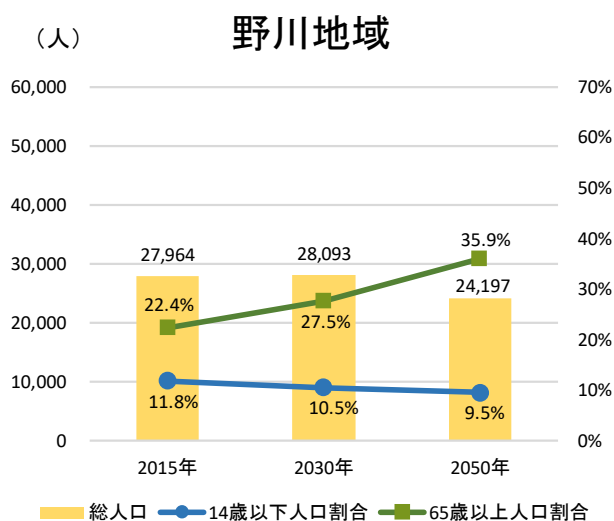
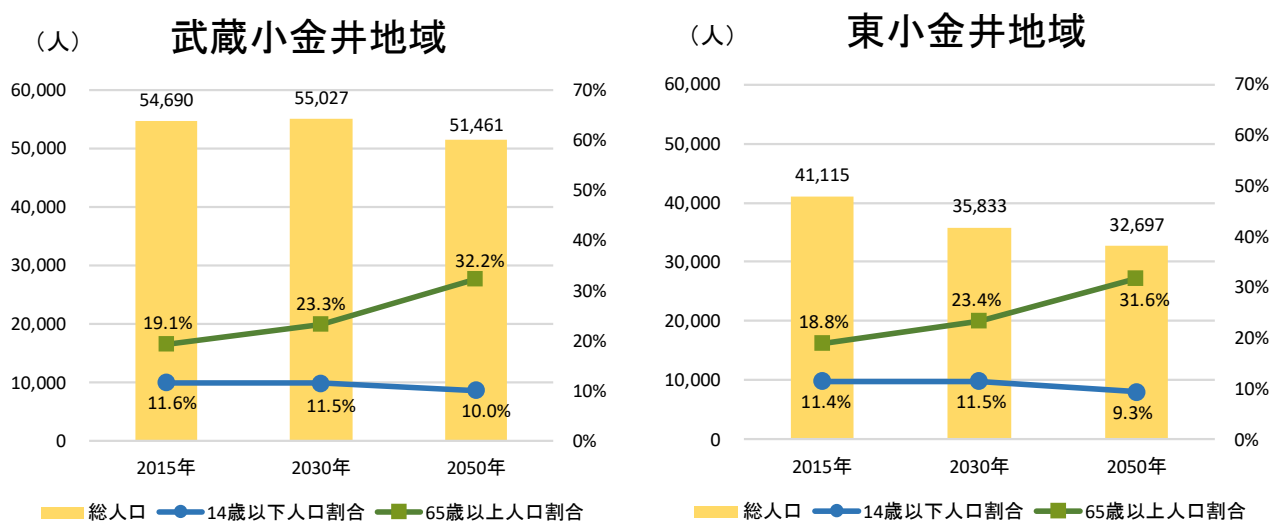
市内で人口が集中している地域



出典：国勢調査 (2015年)

地域別の人口推計は大きな傾向の差はみられません。野川地域では現状高齢化率が高いですが、少子高齢化の速度は緩やかになっていくと見込まれます。

図 2-5 地域別の人口推計

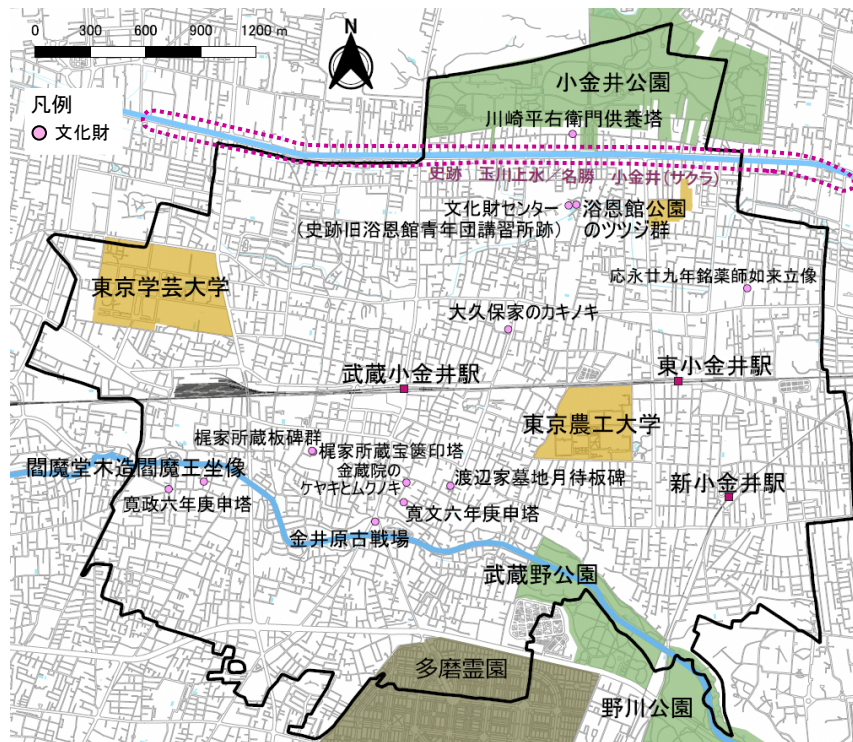


出典：国勢調査（2015年）、小金井市人口ビジョン（2030年、2050年）

(2) 文化財

市内には文化財が各地にあり、浴恩館公園では文化財を活用した公園づくりが進んでいます。

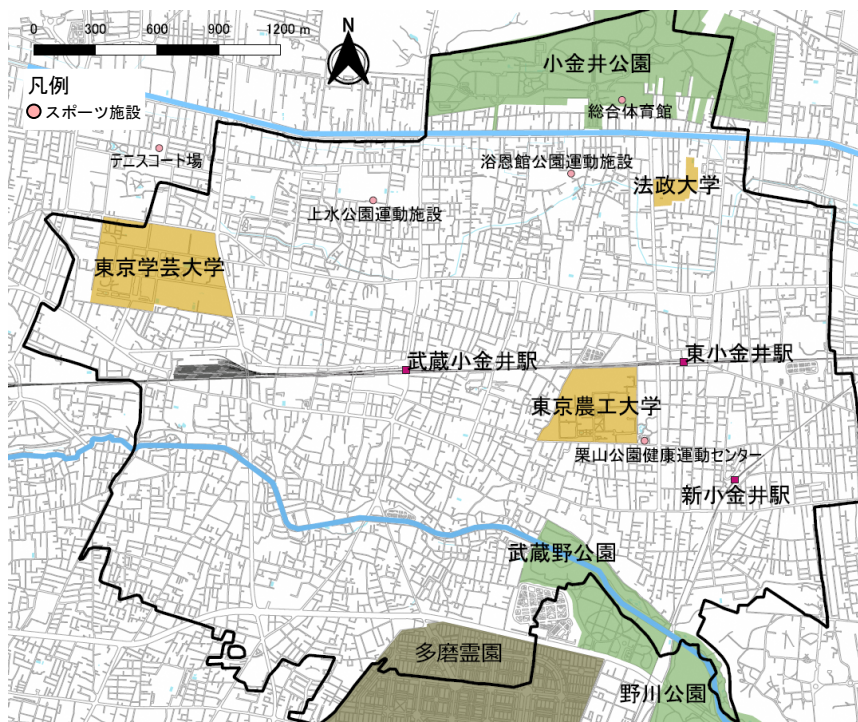
図 2-6 主な文化財の位置



(3) スポーツ施設

市所有のスポーツ施設は5か所あり、総合体育館（都立小金井公園）、上水公園運動施設（上水公園）、栗山公園健康運動センター（栗山公園）、浴恩館公園運動施設（浴恩館公園）は公園と一体となった施設です。

図 2-7 スポーツ施設の位置



第3章 公園・緑地等の現状

3-1. 公園・緑地等の整備状況

(1) 公園・緑地等の整備量の推移

本市では都立公園をはじめとして公園・緑地等の整備が順調になされてきており、近隣市と比べて、市域面積に占める公園・緑地等の面積の割合は7.5%と高く（平成30年4月1日現在東京都公園調書）、整備できる土地に限界があると考えられます。一方で1か所当たりの平均の面積は小さくなってきています。

本市の人口は増加しているため、公園・緑地等の面積は増えても、市民一人当たりの面積は平成30年4月1日時点で一人当たり約6.8㎡となっております。（東京都公園調書ベース）。しかし2025年頃には人口はピークに達し、その後減少に転じることから、こうした動向も見据えながら計画的に公園等の整備を進める必要があります。

図3-1 公園・緑地等の供給面積の推移

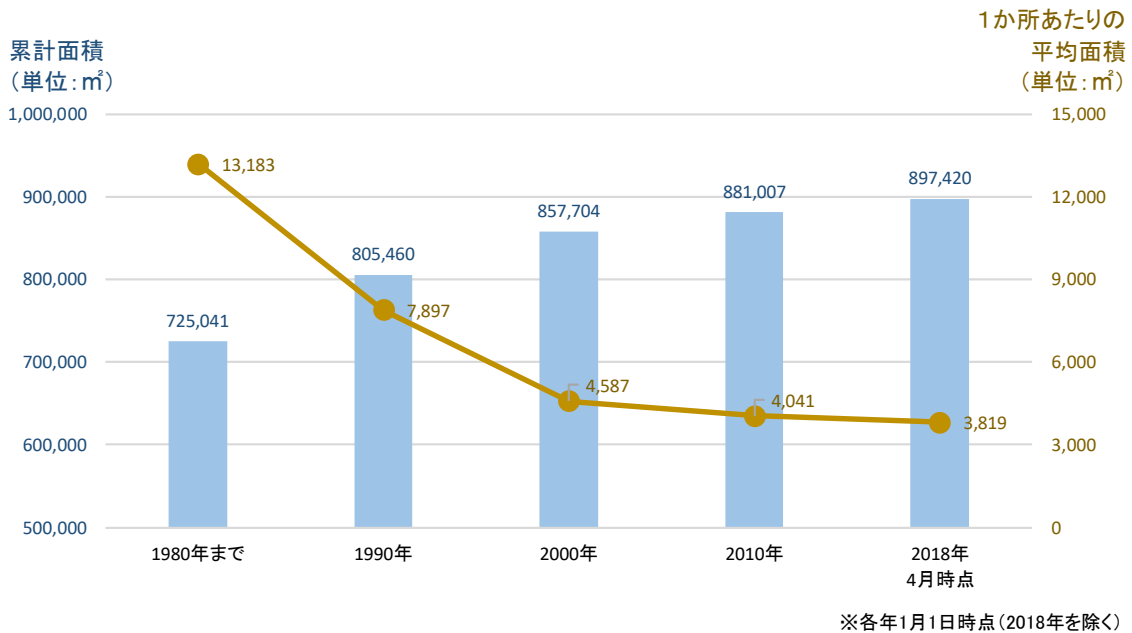
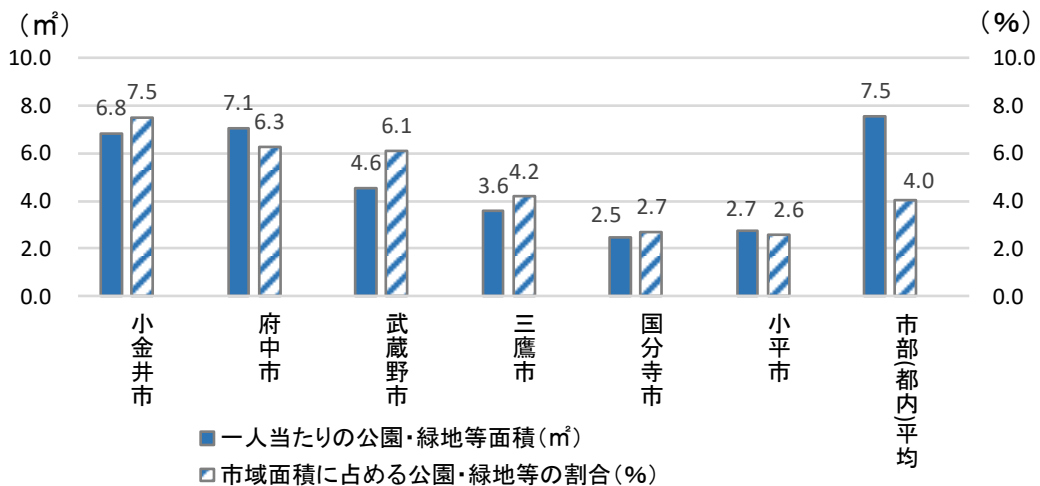


図3-2 近隣市との比較

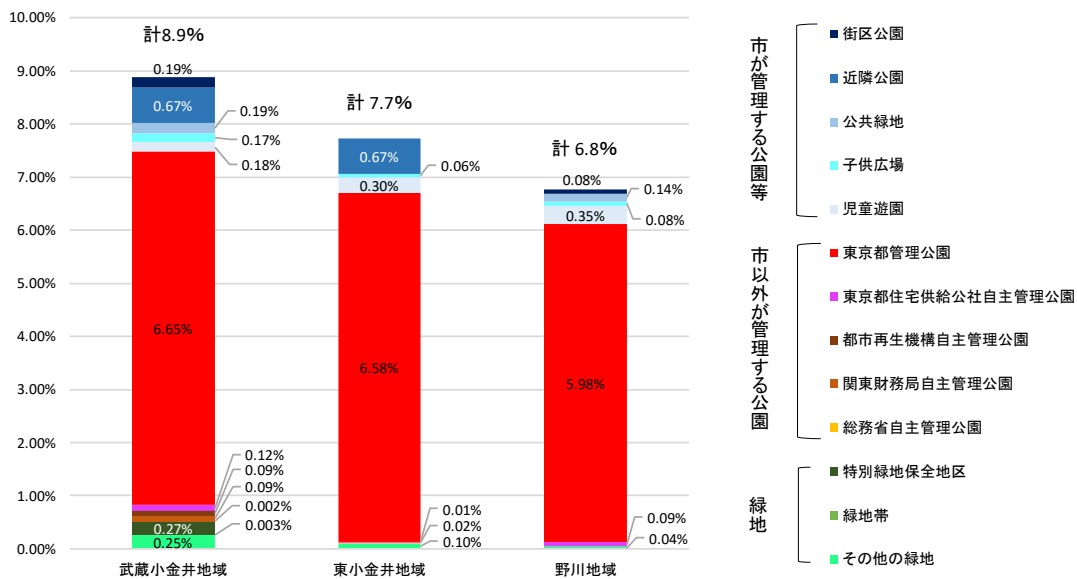


出典: 東京都公園調書(平成30年4月1日現在)

(2) 公園種別の公園・緑地等面積が地域に占める割合

本市には都立公園等を含めると 235 か所の公園・緑地等があり、街区公園が 7 か所、近隣公園が 4 か所、公共緑地が 3 か所、子供広場が 46 か所、児童遊園が 85 か所、東京都管理公園が 3 か所、東京都住宅供給公社自主管理公園が 10 か所、都市再生機構自主管理公園が 3 か所、関東財務局自主管理公園が 1 か所、総務省自主管理公園が 2 か所、特別緑地保全地区が 3 か所、緑地帯が 1 か所、その他の緑地が 69 か所あります。それぞれの公園・緑地等が地域の面積に占める割合をみると、武蔵小金井地域については市が管理する公園等の割合も一定程度ありますが、いずれの地域でも東京都管理公園が最も高くなっています。

図 3-3 公園種別の公園・緑地等面積が地域の面積に占める割合

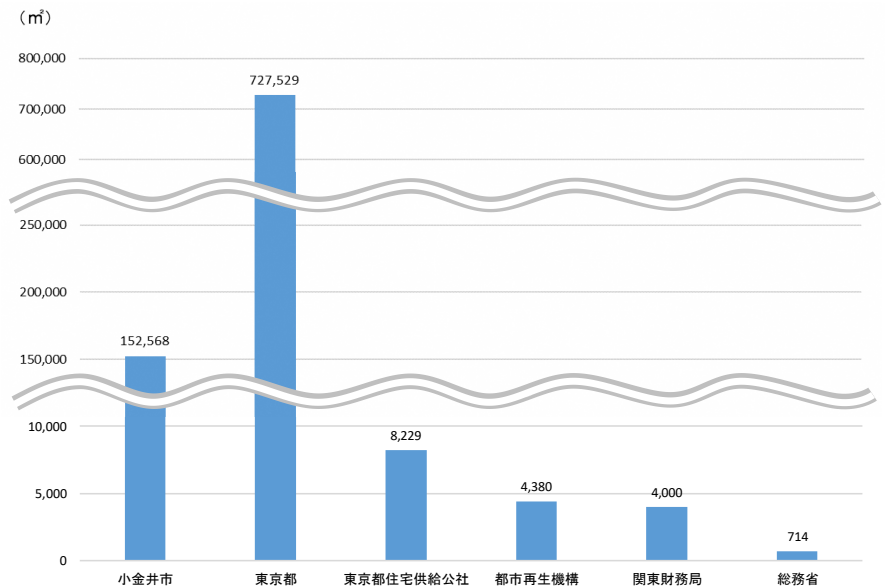


※都立小金井公園は武蔵小金井地域と東小金井地域で按分している。

(3) 管理者別の整備量

管理者別の整備量は、東京都の管理するものが最も多く (727,529 m²)、全体の 8 割以上を占めています。市が管理するものは全体の約 17% (152,568 m²) となっています。

図 3-4 管理者別の公園・緑地等の合計面積



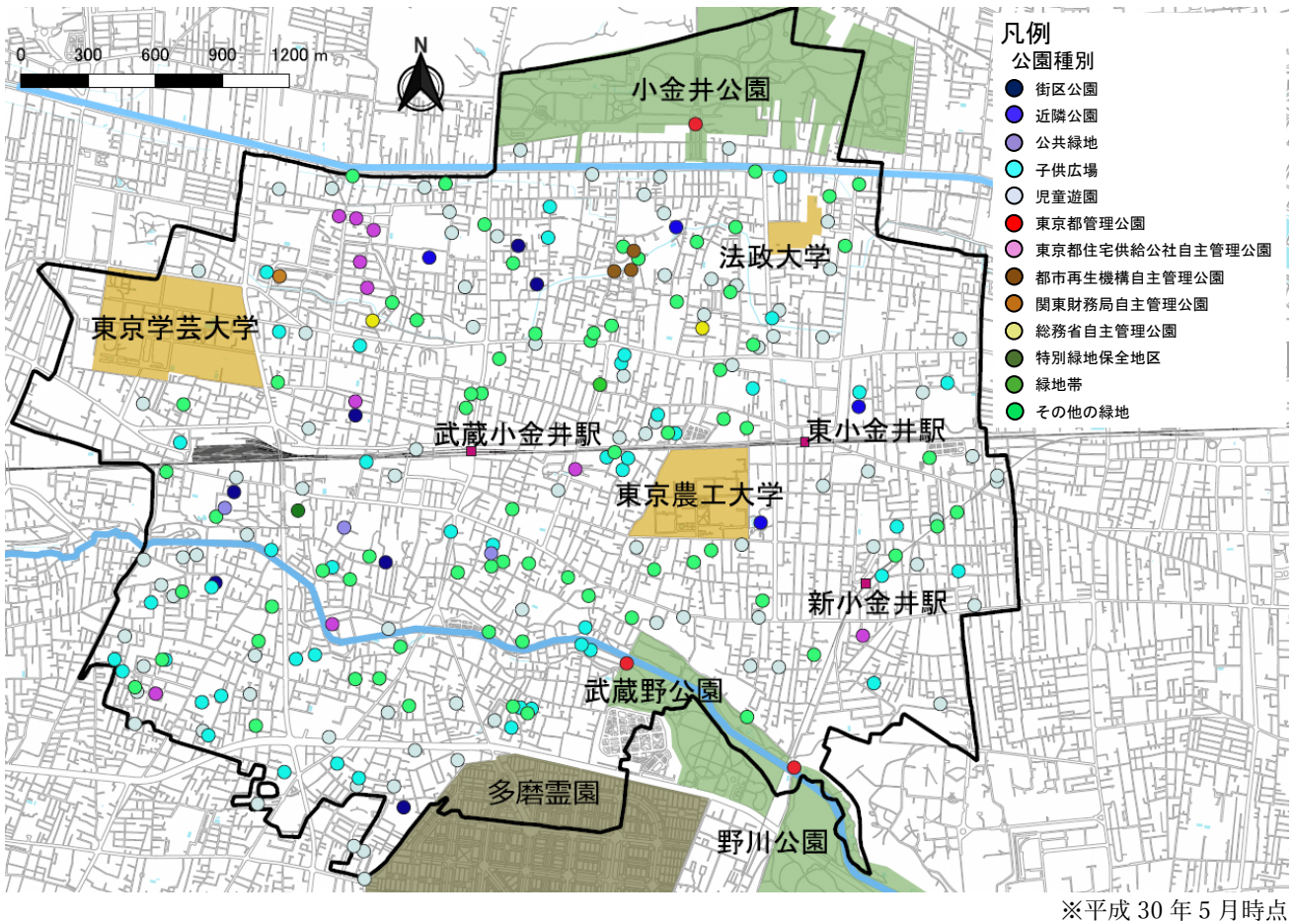
※平成30年5月時点

3-2. 公園・みどり等⁸の配置状況

(1) 種別の分布

種別の分布では、街区公園⁹や近隣公園¹⁰といった大きな公園は武蔵小金井駅の北部や国分寺崖線沿いに集中する一方で、子供広場や児童遊園といった小さな公園は国分寺崖線以南や武蔵小金井駅と東小金井駅の駅間の北部に集中しております。

図 3-5 種別の分布



⁸ 本方針では、公園・みどり等とは、市が管理する公園等のみならず、都立公園、民間が管理する公園、近隣市の公園、大学及び寺社等とする。

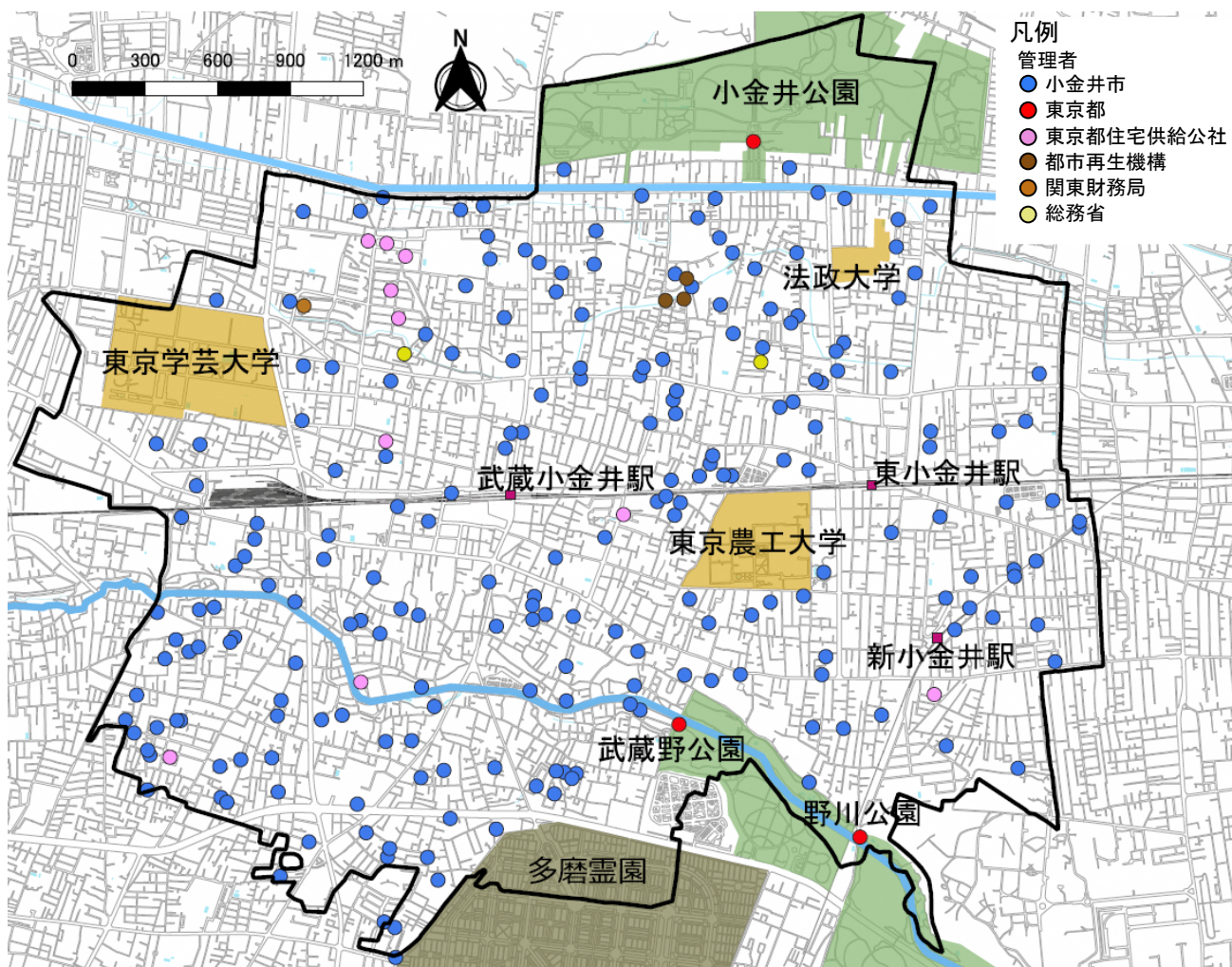
⁹ 街区公園とはもっぱら街区に居住する者の利用に供することを目的とする公園で誘致距離 250m の範囲内で 1 箇所当たり面積 0.25ha を標準として配置する。

¹⁰ 近隣公園とは主として近隣に居住する者の利用に供することを目的とする公園で近隣住区当たり 1 箇所を誘致距離 500m の範囲内で 1 箇所当たり面積 2 ha を標準として配置する。

(2) 管理者別の分布

管理者別の分布では市の管理する公園等は全域にわたりますが、住宅公社や都市再生機構等が管理する公園・緑地等はそれぞれ偏りがみられます。東京都が管理する公園は南北の市境に分布しており、市内で人口が集中する武蔵小金井駅周辺からは遠い立地となっています。

図 3-6 管理者別の分布

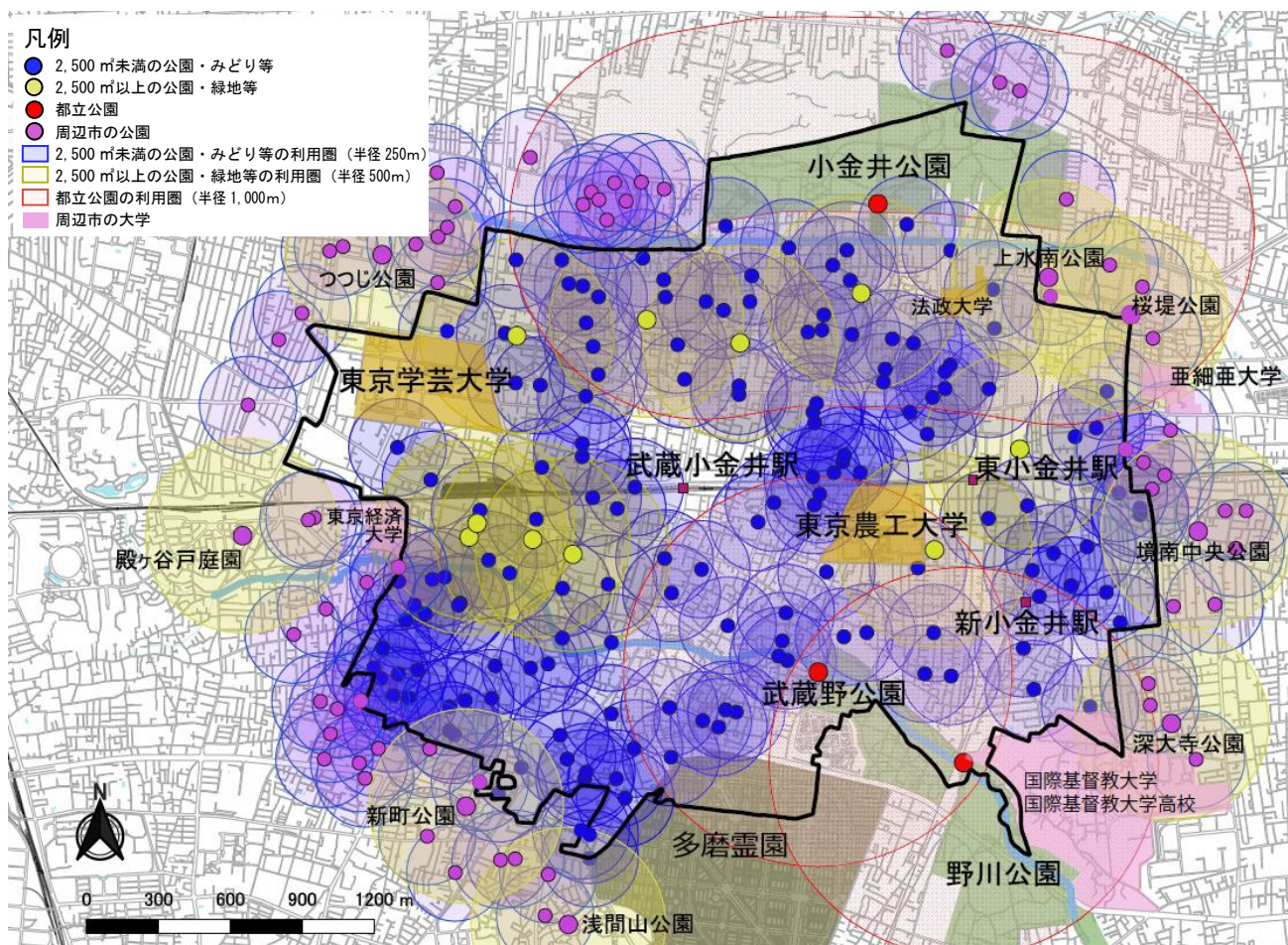


※平成 30 年 5 月時点

(3) 公園・みどり等利用圏

公園・みどり等利用圏¹¹を規模別に設定すると、武蔵小金井駅周辺や東京学芸大学周辺の一部を除き、市域のほぼ全域がいずれかの公園利用圏内にあります。また、東京学芸大学の敷地の西部は周辺市の広い公園が利用できるほか、東京学芸大学の敷地自体も公園的な空間として活用できる地域であると考えられます。

図 3-7 公園・みどり等利用圏

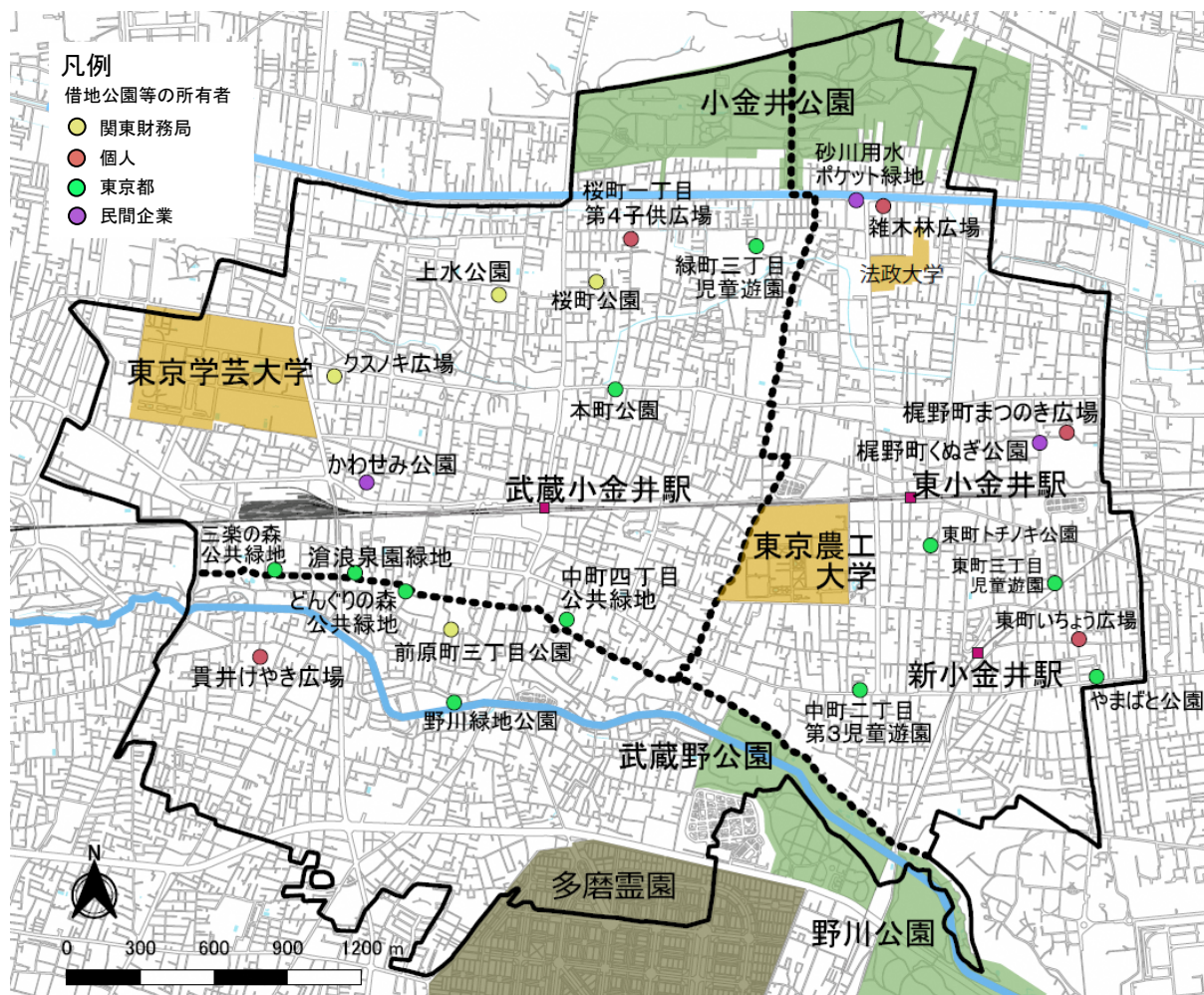


¹¹ 公園を利用すると思われる近隣住民等が住んでいる、あるいは活動している範囲のこと。ここでは 2,500 m²未満の公園・緑地等について半径 250m、2,500 m²以上の公園・緑地等について半径 500m、都立公園について半径 1,000mを設定した。なお、閉鎖管理の公園等については原則として公園・みどり等利用圏を設定していない。また、この図においては市外の公園についても、小金井市民が利用する可能性がある(概ねその利用圏が小金井市域内に掛かる)ものについて、表示している。

(4) 借地公園等の分布

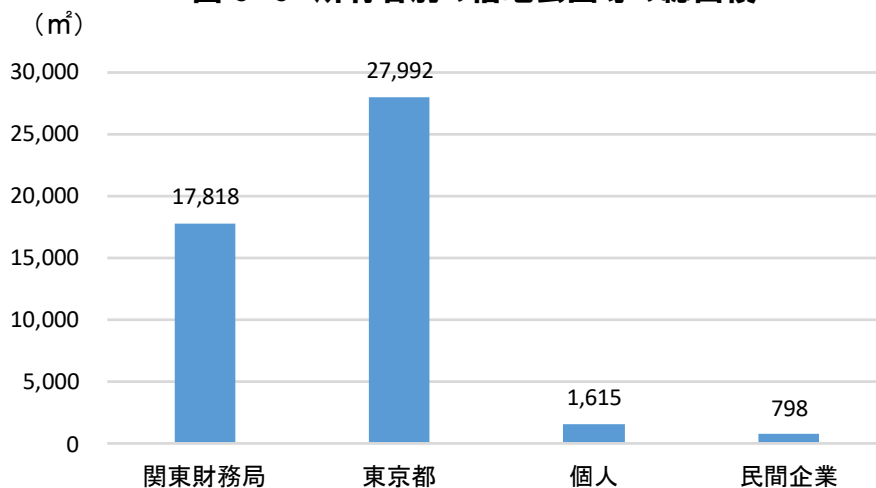
借地公園等は市内に 23 か所あり、大部分が関東財務局と東京都からの借地です。武蔵小金井地域と東小金井地域に多く分布しています。

図 3-8 借地公園等の分布



※平成 30 年 5 月時点

図 3-9 所有者別の借地公園等の総面積

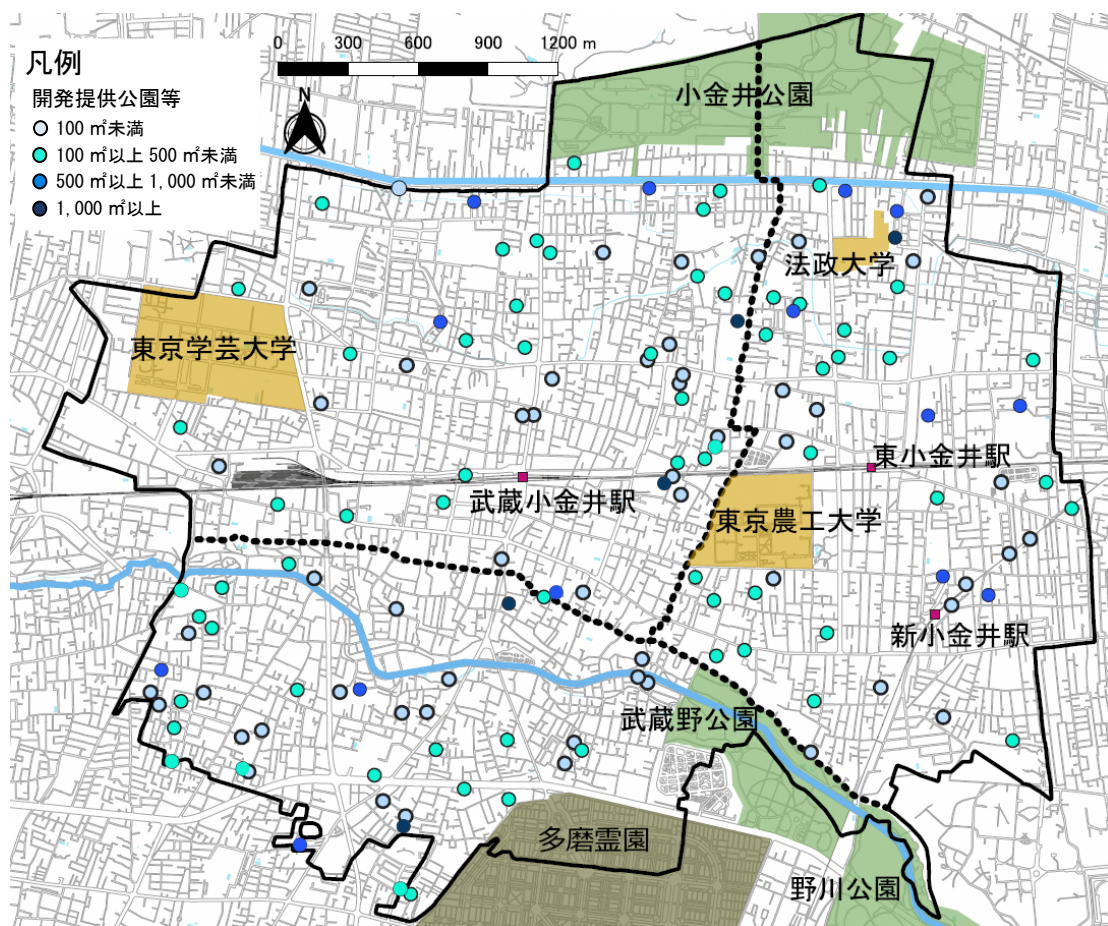


※平成30年5月時点

(6) 開発提供公園等の分布

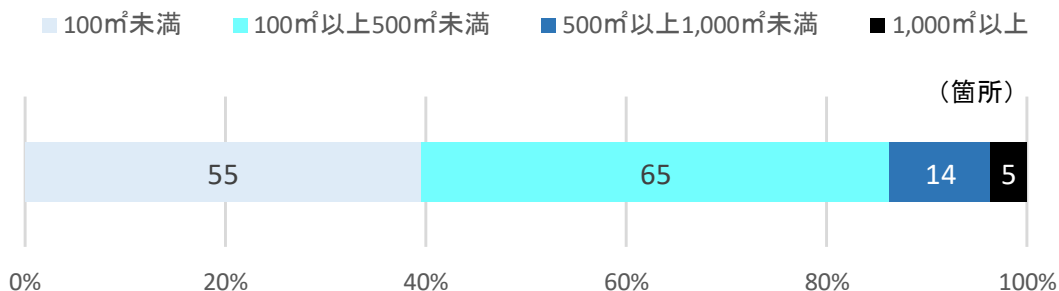
開発に伴い整備され、市に帰属された公園等は 139 か所あり、うち 4 割近くが 100 m²未満の小さな公園等となっています¹²。分布としては野川以南や東京農工大学と法政大学の間のエリアに多く分布しています。

図 3-11 開発提供公園等の分布



※平成 30 年 5 月時点

図 3-12 開発提供公園等の面積別整備数



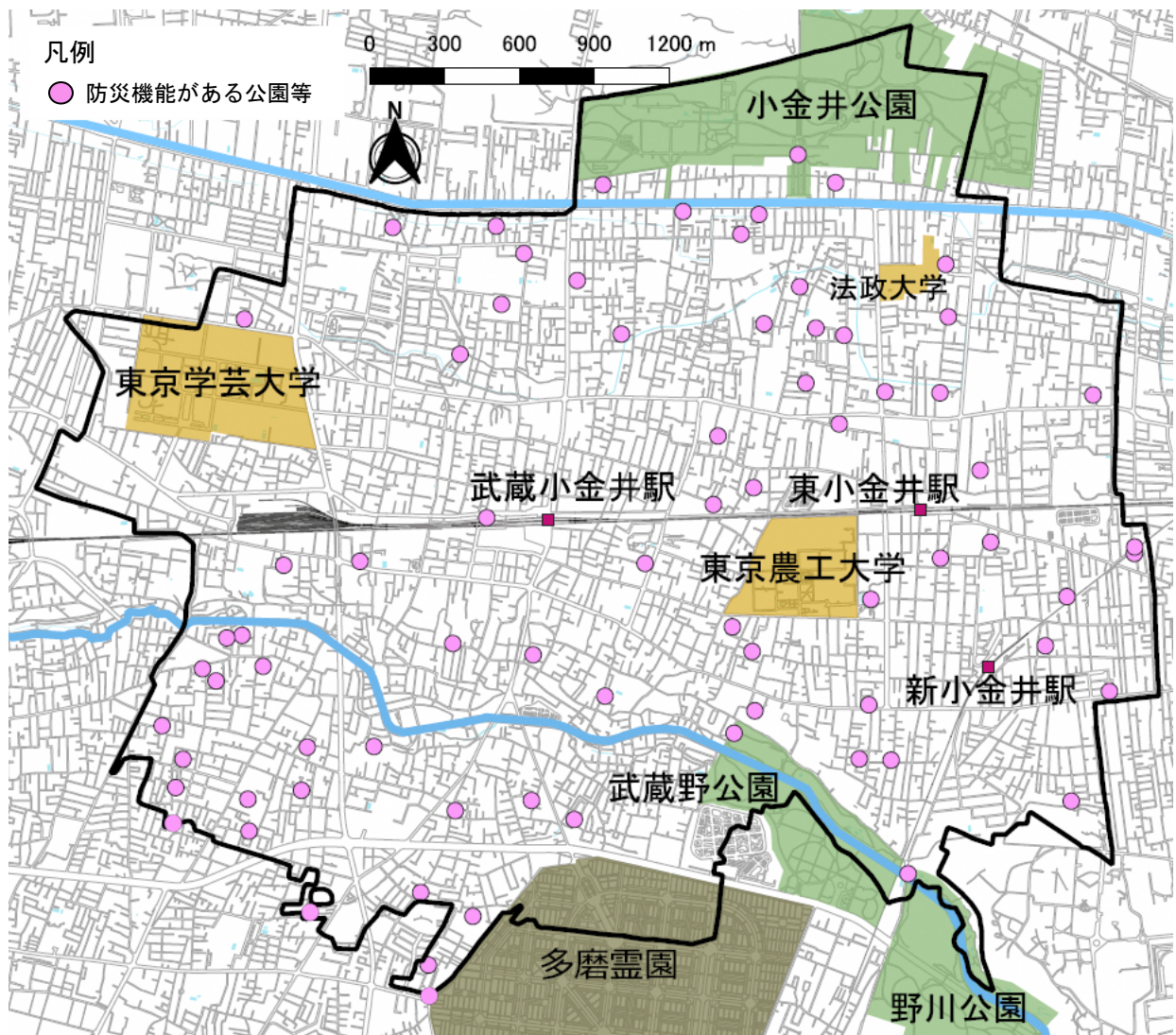
¹² 市では平成 18 年に小金井市まちづくり条例が施行され、3,000 m²以上の開発行為又は中高層建築行為について 6%以上の公園又は緑地の提供を定めているため、平成 18 年以降は 180 m²未満の提供公園等は発生していない。

3-3. 機能別配置状況

(1) 防災機能

公園等の防災機能を「避難場所指定されていること」「防災倉庫（自主防災倉庫も含む）があること」「防火水槽があること」「防災無線があること」とした際に、いずれかの防災機能を有している公園等は市内に75か所あります。

図 3-13 防災機能のある公園等の分布



※平成 30 年 5 月時点

※防災機能の内訳

※避難場所に指定されている公園等

避難場所に指定されている公園等は市内に 6 か所あります。東小金井地域に多く分布します。

図 3-14 避難場所指定されている公園等の分布



※平成 30 年 5 月時点

※防災倉庫（自主防災倉庫も含む）のある公園等

防災倉庫のある公園等は市内に 15 か所あり、うち 8 か所が野川地域に分布します。

図 3-15 防災倉庫のある公園等の分布



※平成 30 年 5 月時点

※防火水槽のある公園等

防火水槽のある公園等は市内に 63 か所あり、東小金井地域や野川地域に多く分布しています。

図 3-16 防火水槽のある公園等の分布



※平成 30 年 5 月時点

※防災無線のある公園等

防災無線のある公園等は市内に 12 か所あり、南東部に集中しています。

図 3-17 防災無線のある公園等の分布



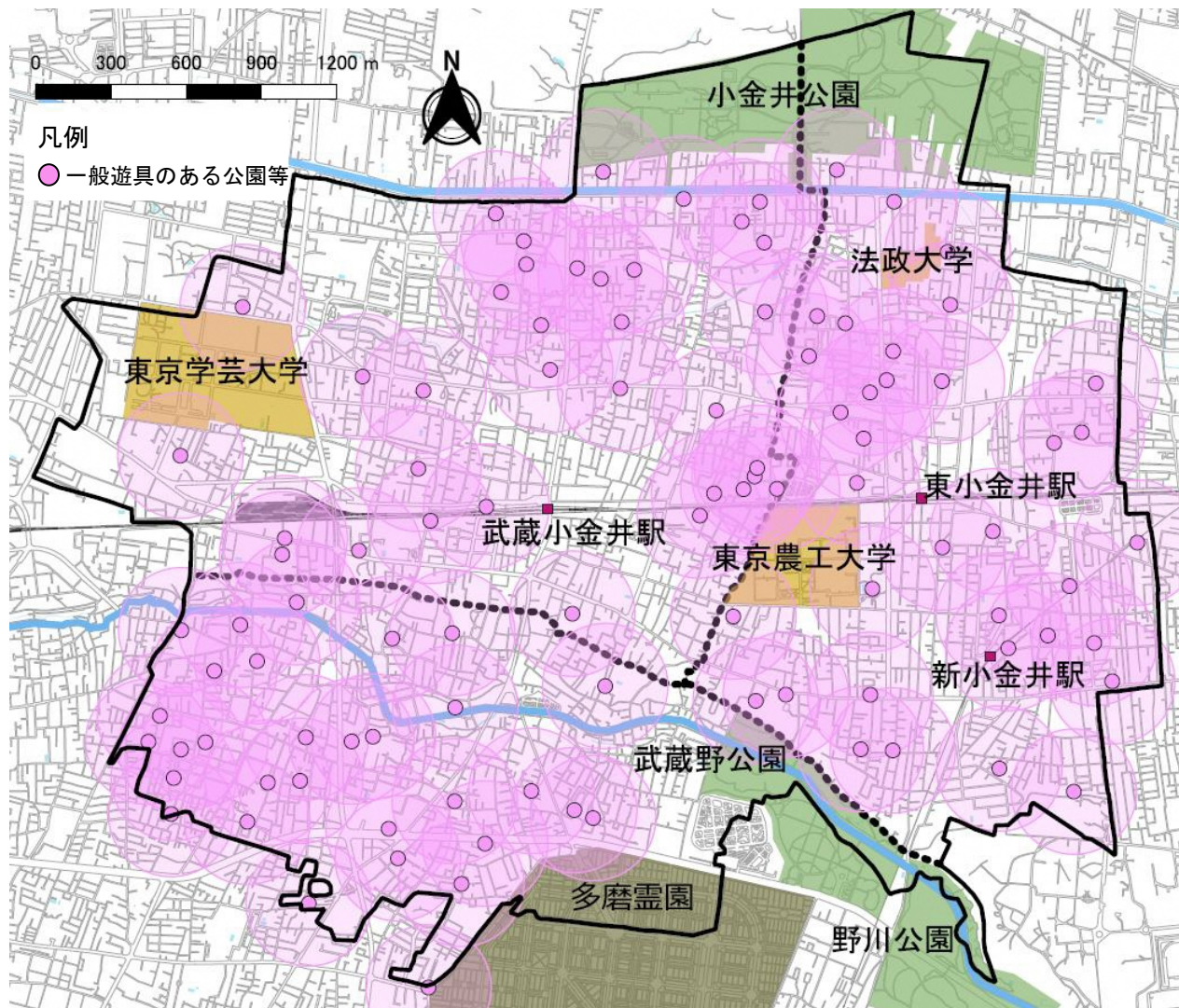
※平成 30 年 5 月時点

(2) レクリエーション機能

①一般遊具のある公園等

一般遊具のある公園等は 101 か所あります。分布としては東小金井地域や野川地域に多くなっています。

図 3-18 一般遊具のある公園等の分布



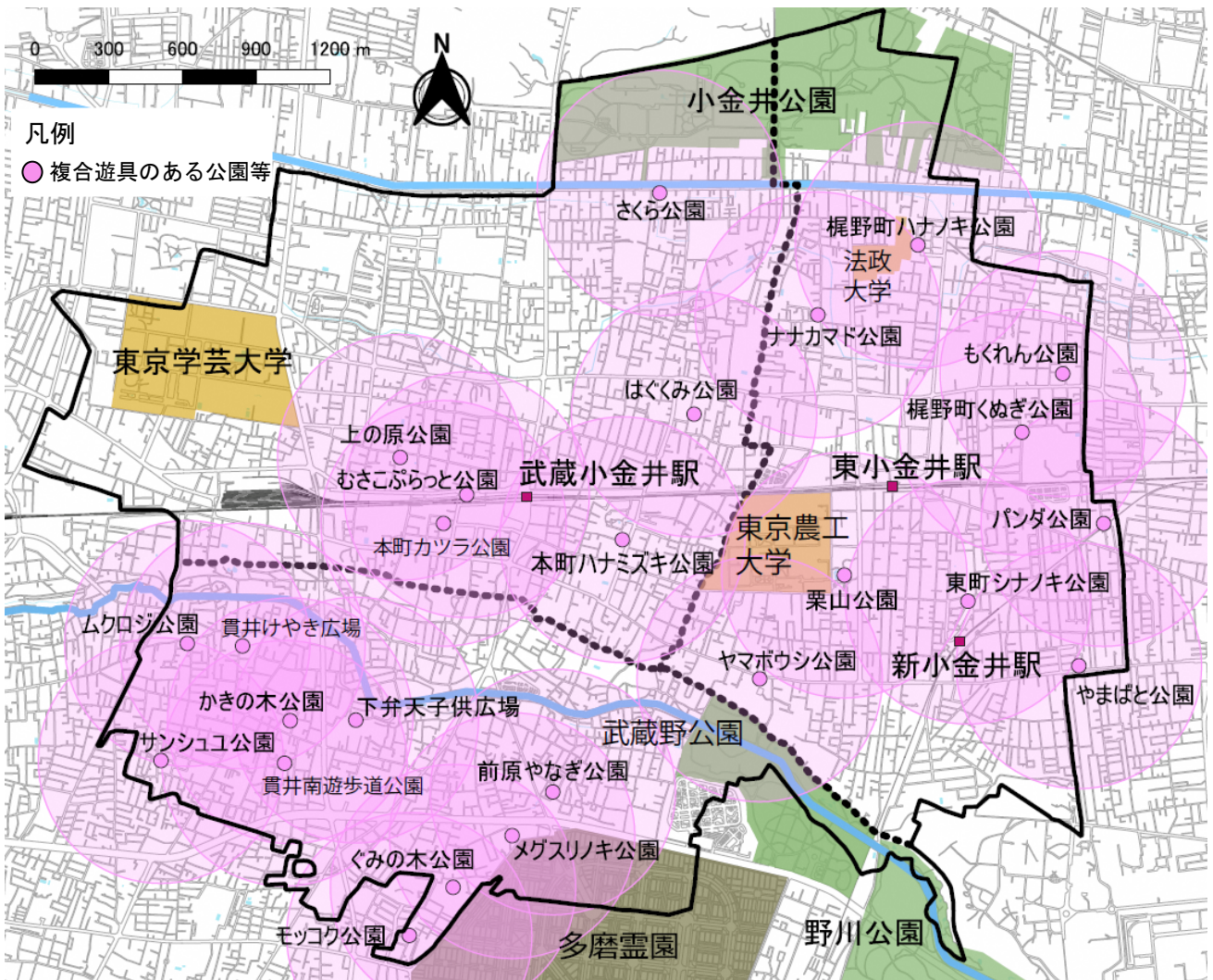
※公園利用圏は半径 250m に設定

※平成 30 年 5 月時点

②複合遊具のある公園等

複合遊具¹³のある公園等は 25 か所あります。分布としては東小金井地域や野川地域に多くなっています。

図 3-19 複合遊具のある公園等の分布

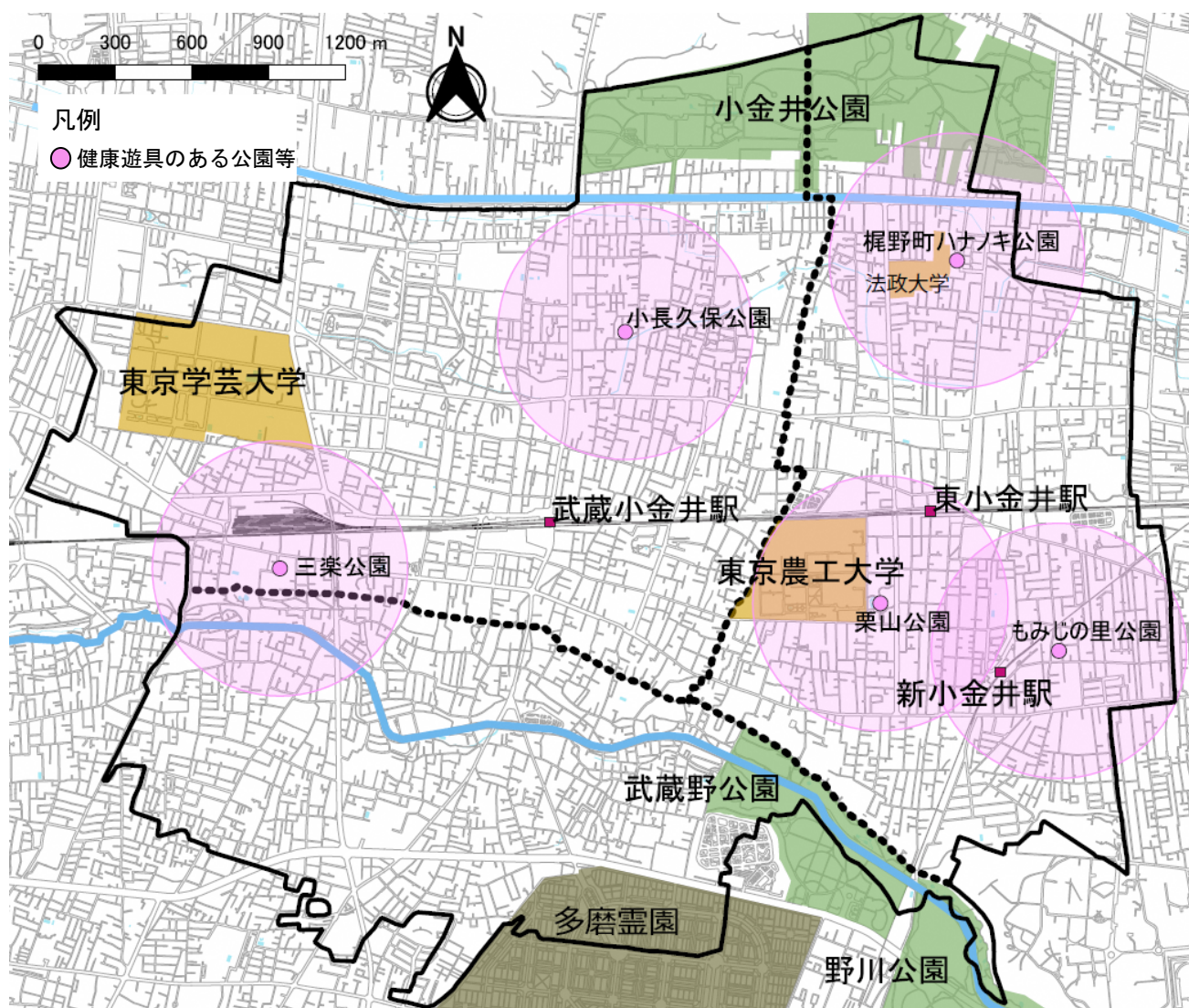


¹³ 滑り台、ブランコ、鉄棒、雲梯、ジャングルジムなどの遊具を組み合わせた複合遊具のこと。コンビネーション遊具とも呼ばれる。

③健康遊具のある公園等

健康遊具のある公園は栗山公園、三楽公園、小長久保公園、梶野町ハナノキ公園、もみじの里公園の5か所です。

図 3-20 健康遊具のある公園等の分布



※公園利用圏は半径 500m に設定

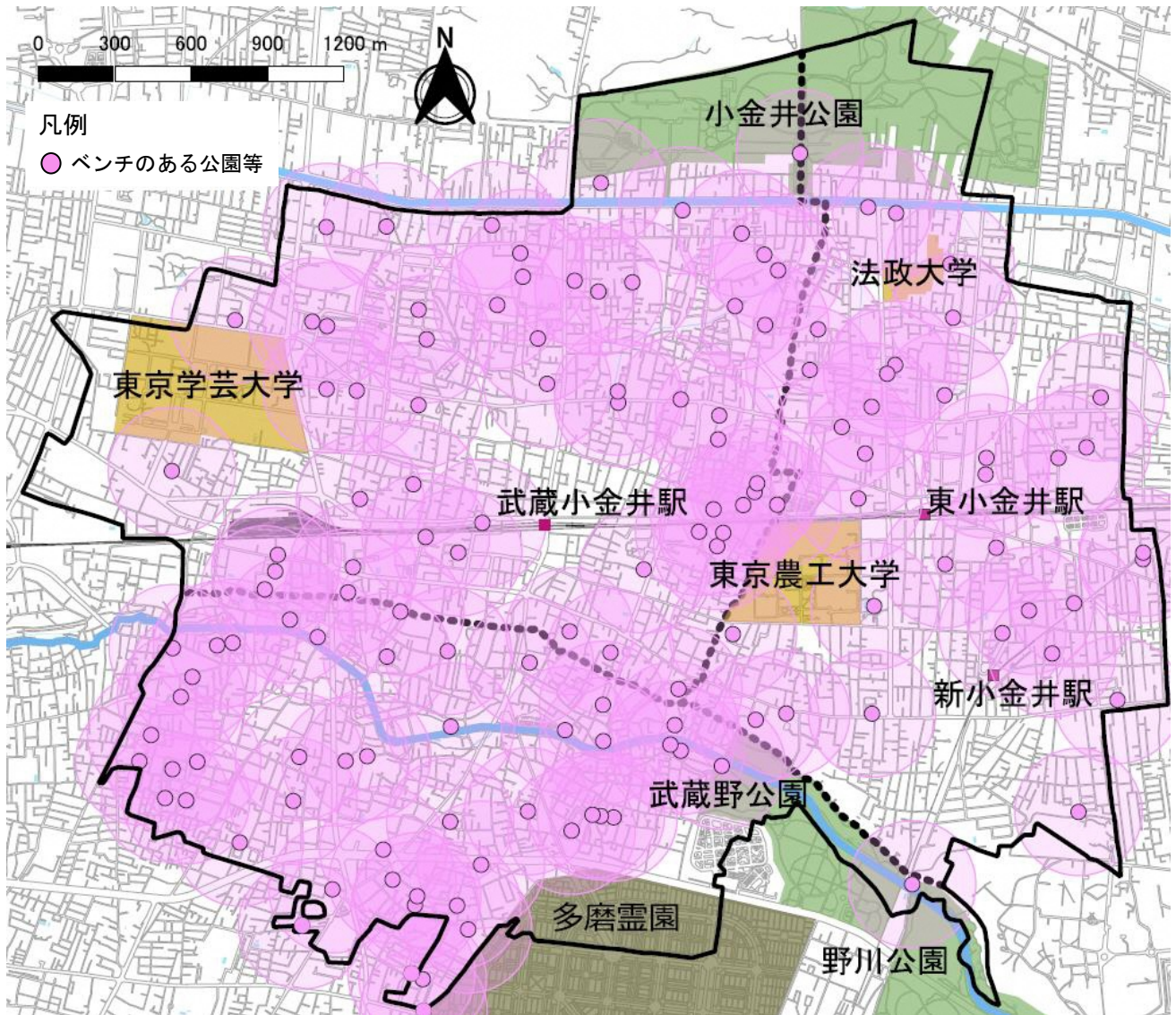
※平成 30 年 5 月時点

(3) 休息機能

①ベンチのある公園等

ベンチのある公園等は137か所あります。新小金井駅周辺の公園にやや少なくなっています¹⁴。

図 3-21 ベンチのある公園等の分布



※公園利用圏は半径250mに設定

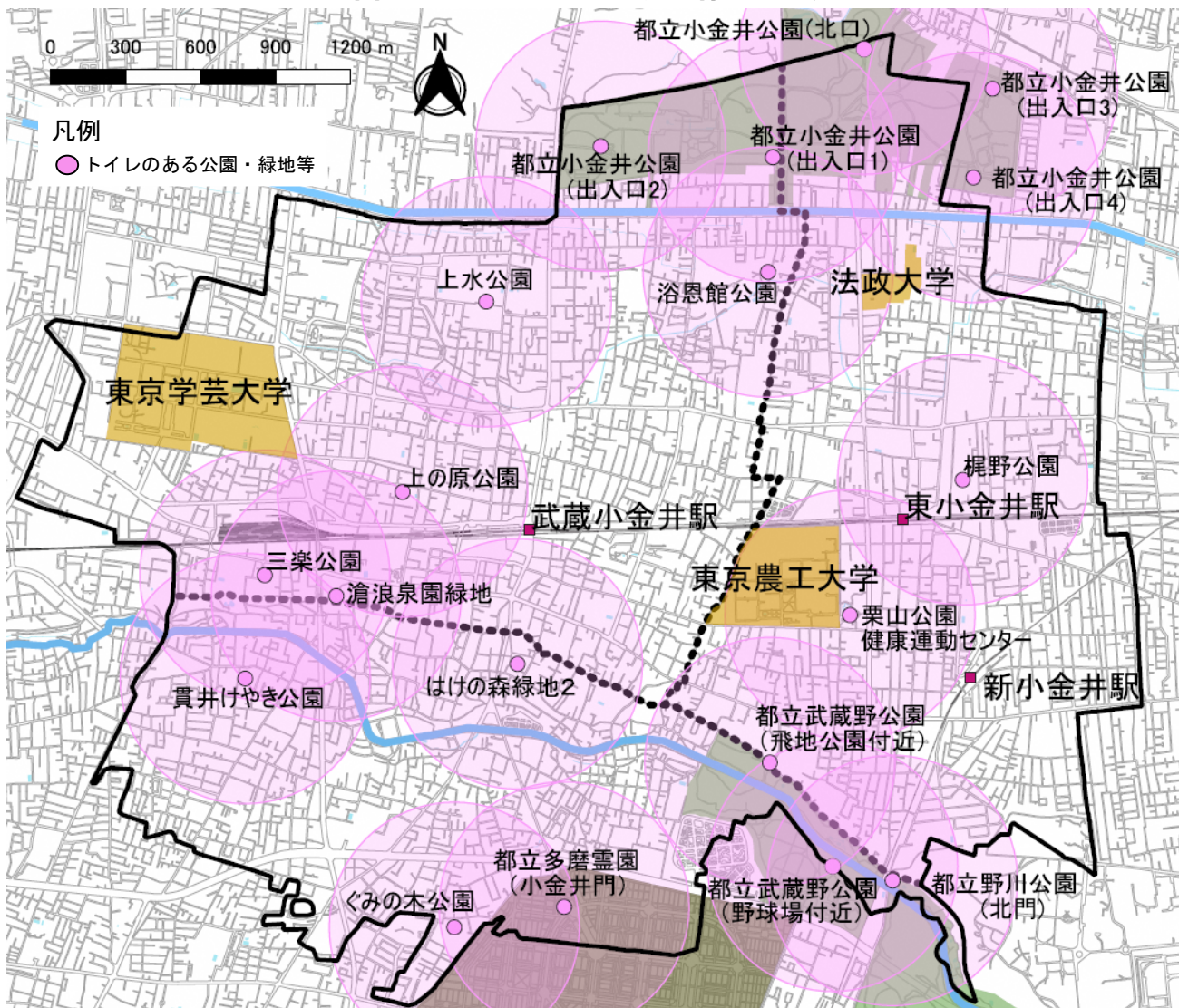
※平成30年5月時点

¹⁴ なお、その他の上図における空白地帯（武蔵小金井駅周辺等）にはそもそも公園自体が少ない。

③トイレのある公園等

トイレのある公園等は19か所あります（小金井公園等の一部市域外のものも含む）。武蔵小金井駅の東部や新小金井駅の東部、野川以南の地域の一部に空白地帯がみられます。

図 3-23 トイレのある公園・緑地等の分布



※公園利用圏は半径500mに設定

※平成31年3月時点

(4) 景観・環境保全機能

公園等の景観・環境保全機能として、みどりのネットワークとの整合性¹⁵についてみると、109か所の公園等がネットワークと整合性の取れた位置に分布していることがわかります。武蔵小金井地域では比較的満遍なく分布していますが、東小金井地域では北部と野川周辺、西武多摩川線沿いの緑化地帯に集中しており、野川地域では多くが野川沿いに集中しています。

図 3-24 みどりのネットワークとの整合性のある公園等の分布



※みどりの将来像は「小金井市緑の基本計画」を基に凡例を一部加工したもの

※公園・緑地の分布は平成30年5月時点

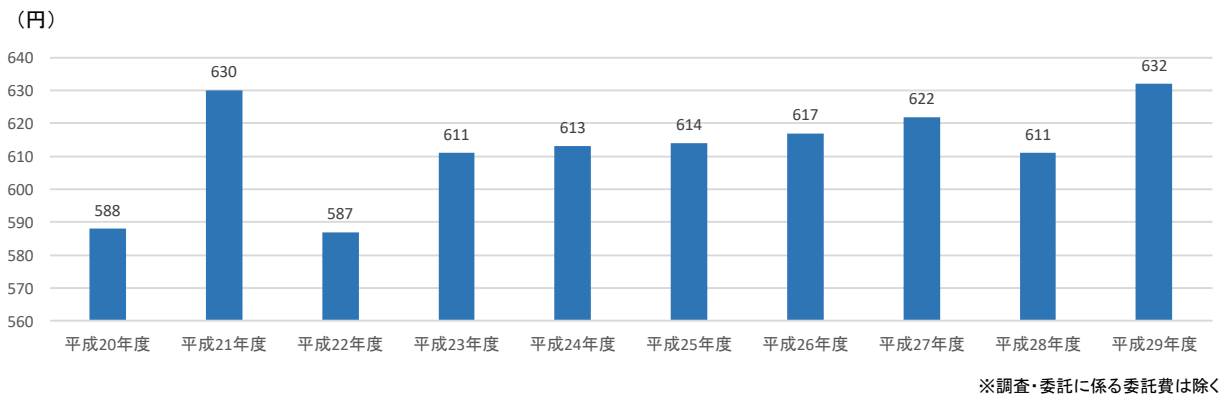
¹⁵ 「整合性が取れていること」の判断基準としては「みどりの将来像」の「各種ゾーン内に存在している」又は「各種ネットワーク等（水系も含む）に接している」又は「拠点そのものと位置付けられている」こと等に該当する場合とした。

3-4. 公園等の維持管理

(1) 維持管理費

市が管理する公園等へ掛けられている維持管理費は1㎡あたり600円程度です。今後、人口減少に伴い財政も縮減する中で、将来にわたって同程度に維持管理費を捻出できるためには効率の良い整備・管理が必要です。

図 3-25 市が管理する公園等の面積1㎡あたりに掛けられた維持管理費



(2) 管理・活用団体

・管理団体

市内では計27か所の公園・緑地にて、22団体(約200名)が環境美化サポーター協定やみどりのパートナーシップ協定を結び、市内の公園等でボランティア活動を行っています。

また、8つの子供会が市内の公園等で清掃及び除草を行っています。

図 3-26 ボランティア団体が活動している公園等の分布



※平成30年5月時点

・団体利用

市内では比較的大きな栗山公園や梶野公園等7か所の公園等で定期的な団体利用がみられ、曜日では土曜日、時間帯では午前中の利用が多くみられます。

図 3-27 曜日別の公園利用団体数

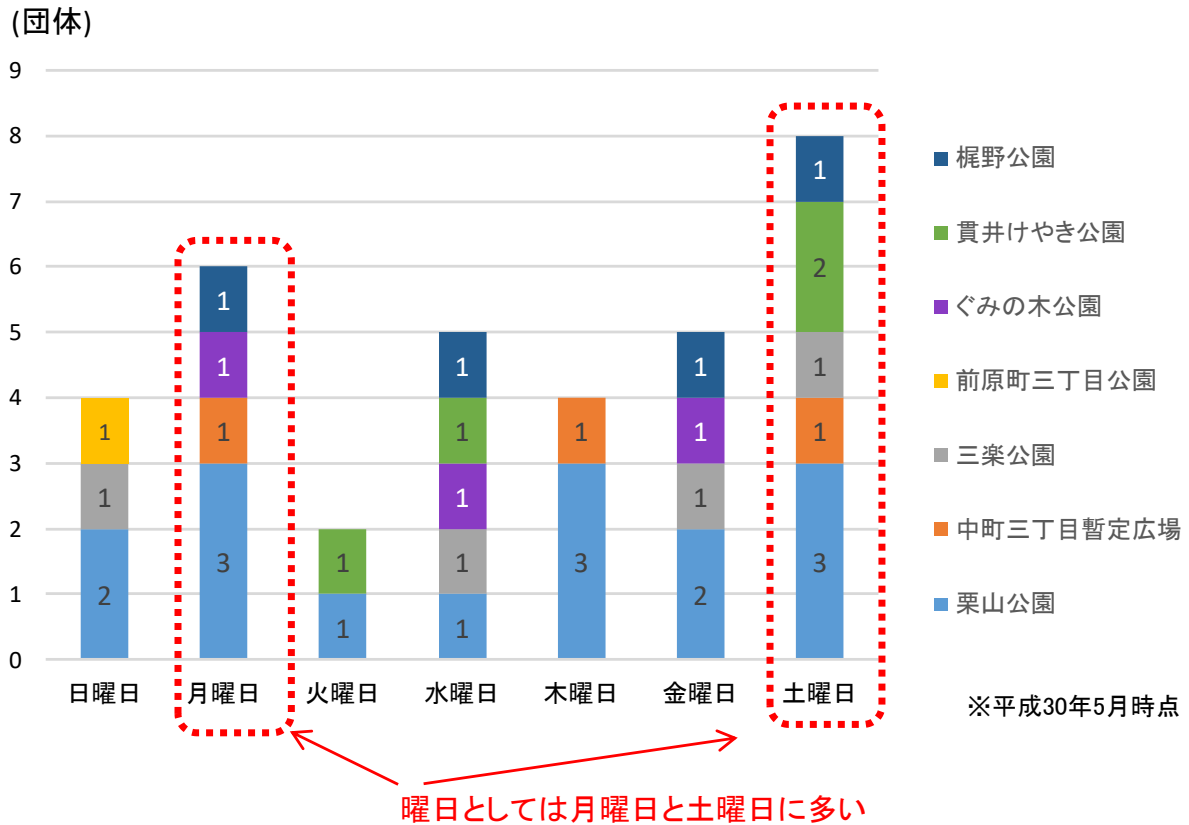
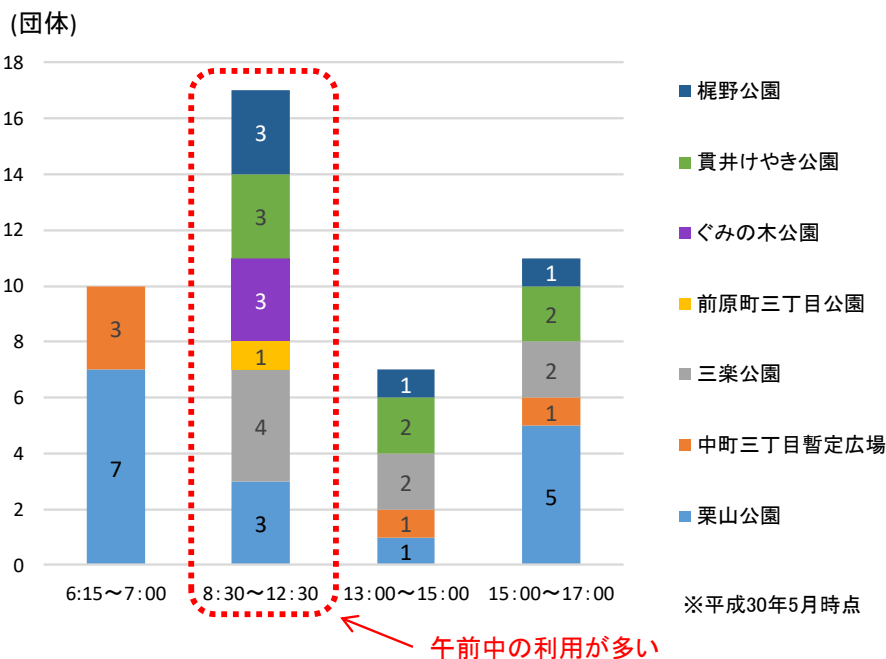


図 3-28 時間帯別公園利用団体数



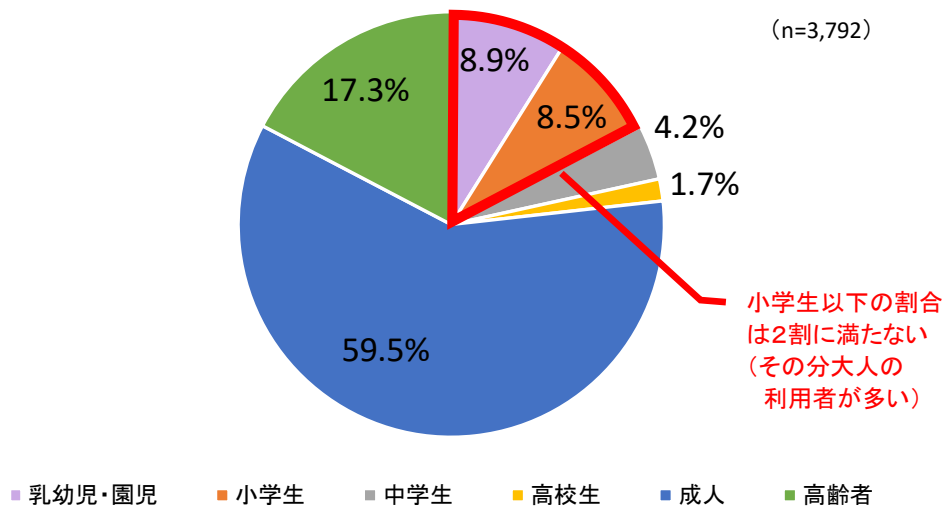
3—5. 公園等に対するニーズ

(1) 利用実態調査結果

①規模別・年代別に異なるニーズ

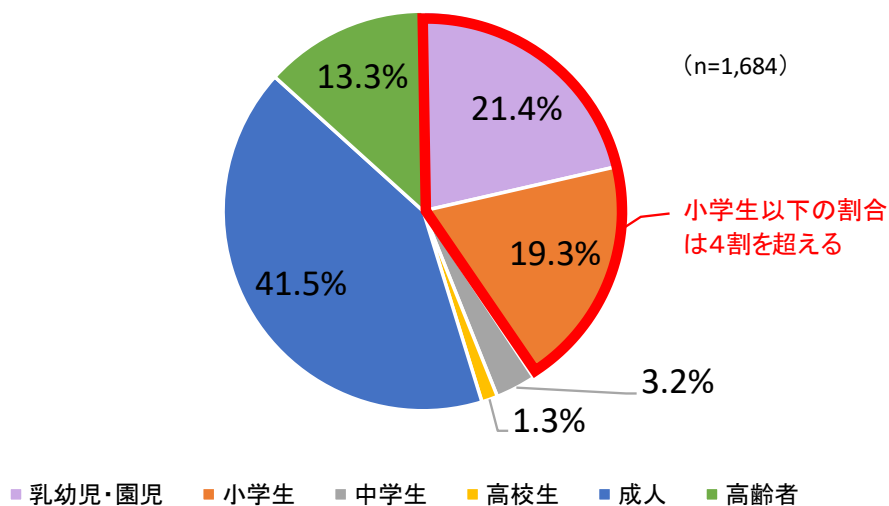
公園等利用実態調査(H27)¹⁶によると、公園利用者の過半が現役世代の大人で、規模の大きい公園等(ここでは2,500㎡超)では成人及び高齢者の割合が高く、合わせて4分の3を占めています。一方で規模の小さい公園等(ここでは1,000㎡以下)では小学生以下の子どもたちの利用が多くなり、4割強となっています。

図 3-29 公園入園者の年代(一日あたりの平均)(2,500㎡超の公園)



出典:公園等利用実態調査(H27)

図 3-30 公園入園者の年代(一日あたりの平均)(1,000㎡以下の公園)

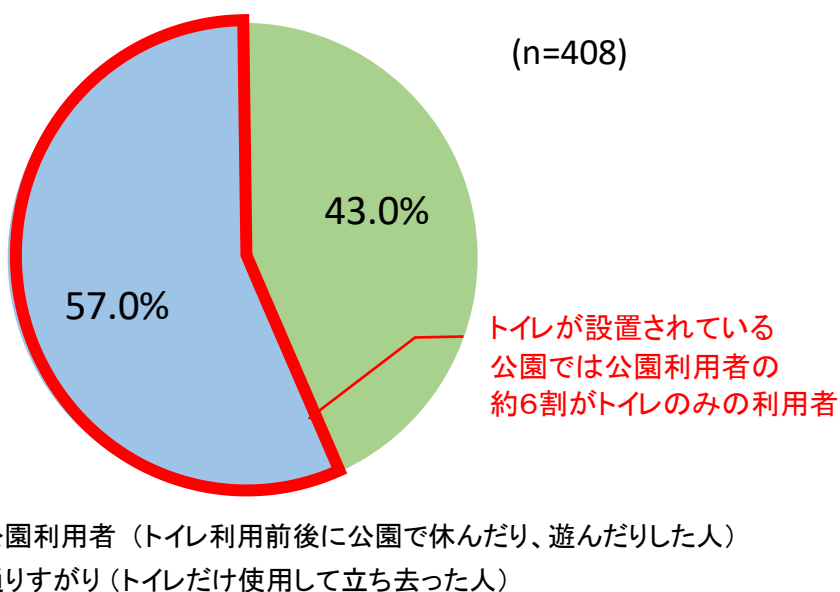


出典:公園等利用実態調査(H27)

¹⁶ 平成26年3月から平成27年2月にかけて行われた調査で、乳幼児、園児、小学生、中学生、高校生、成人、高齢者を対象に昼夜間の利用状況を把握した。昼間(6時~18時)調査は都市公園11か所(休日を含む8日間)、児童公園42か所(休日を含む5日間)にて実施。夜間(18時~翌朝6時)調査は都市公園・児童公園11か所(休日を含む8日間)にて実施。

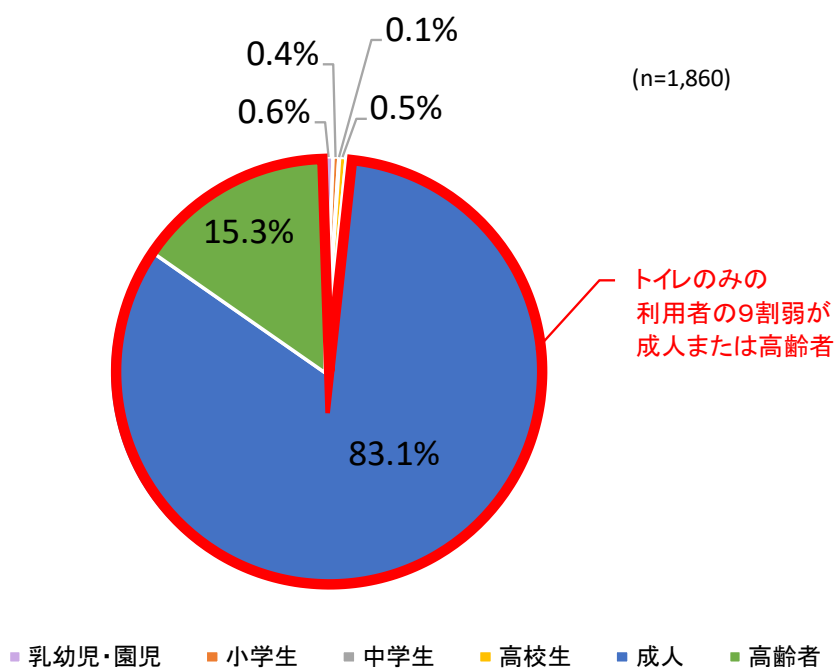
トイレの利用については、トイレのみの利用者が全体の約6割で、トイレのみの利用者の9割弱が成人または高齢者となっています。

図 3-31 公園利用者のうちトイレ利用者の割合



出典:公園等利用実態調査(H27)

図 3-32 通りすがり(トイレだけ使用して立ち去った人)の年代



出典:公園等利用実態調査(H27)

②共通する公園等へのニーズ

公園等利用実態調査 (H27) によると、来園手段の6割が徒歩で、3割が自転車となっています。また、公園に至る時間も8割以上が15分圏内となっており、距離的に身近な公園等としての需要があります。また、広さやベンチの有無、清掃・衛生環境等、快適な公園環境についてのニーズもあります。

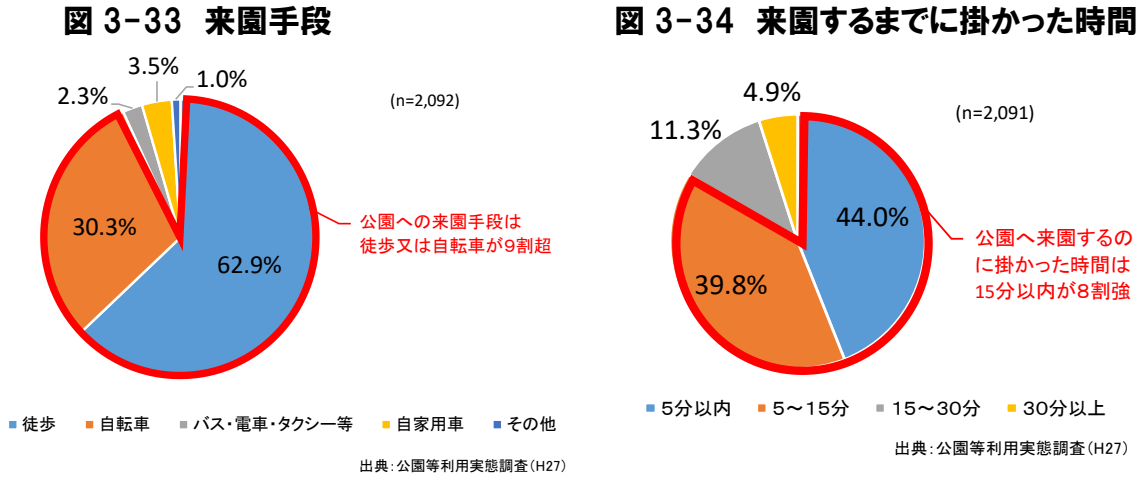
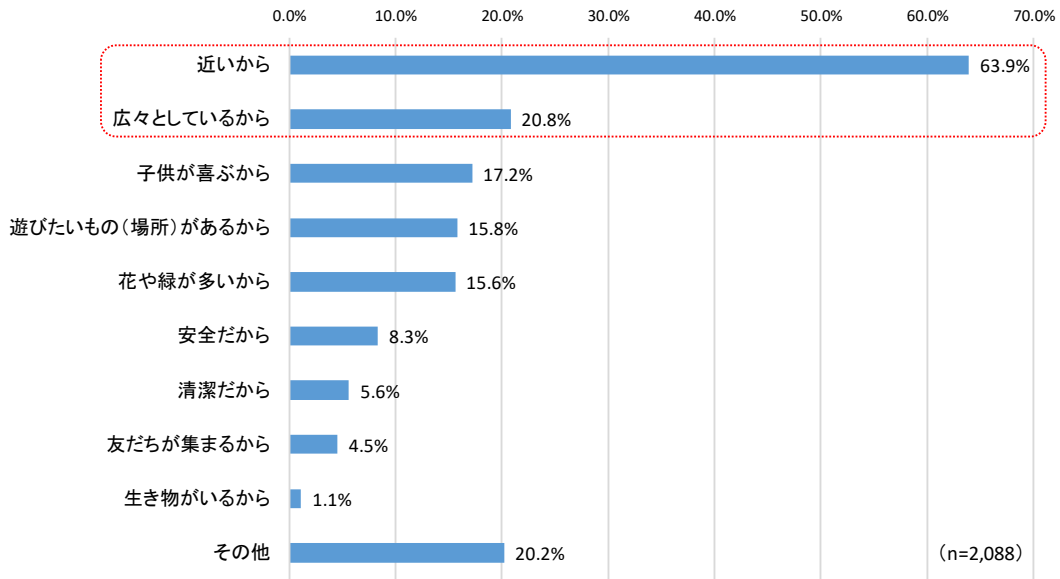


図 3-35 来訪した公園を選んだ理由



出典：公園等利用実態調査 (H27)

※利用者の多い公園等の特徴

公園等利用実態調査では実際に利用者の多い公園等の上位は面積の広い公園等であることがわかります。

<一日当たりの平均利用人数でみた上位3公園>

順位	公園名	一日当たりの平均利用人数	公園面積
1位	栗山公園	1,901人	15,882 m ²
2位	浴恩館公園	757人	14,278 m ²
3位	上水公園	627人	16,663 m ²

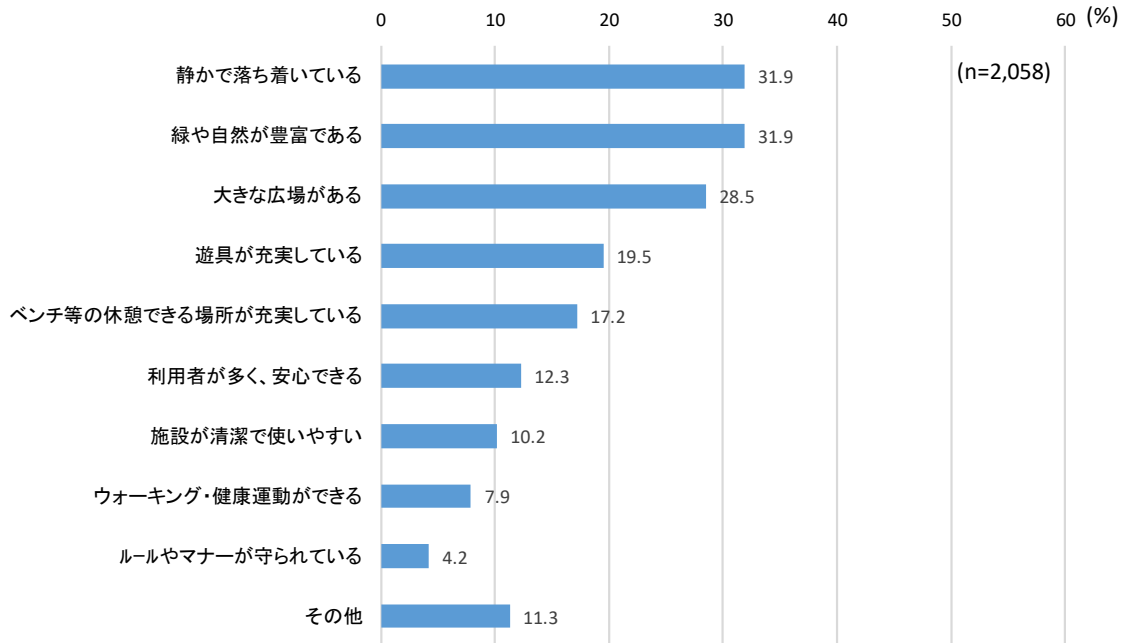
<一日当たりの平均利用人数でみた下位3公園>

順位	公園名	一日当たりの平均利用人数	公園面積
1位	楓の木広場	0.4人	47 m ²
2位	木の実公園	1.0人	235 m ²
3位	桜町一丁目第4子供広場	1.4人	35 m ²

出典：公園等利用実態調査 (H27)

公園等利用実態調査（H27）によると、公園の良いところとしては「静かで落ち着いている」や「緑や自然が豊富である」「大きな広場がある」等が多く挙げられ、不満なところとしては「遊具が足りない」「公園が狭い」「ベンチなど、休憩できる場所が少ない」等が多く挙げられています。

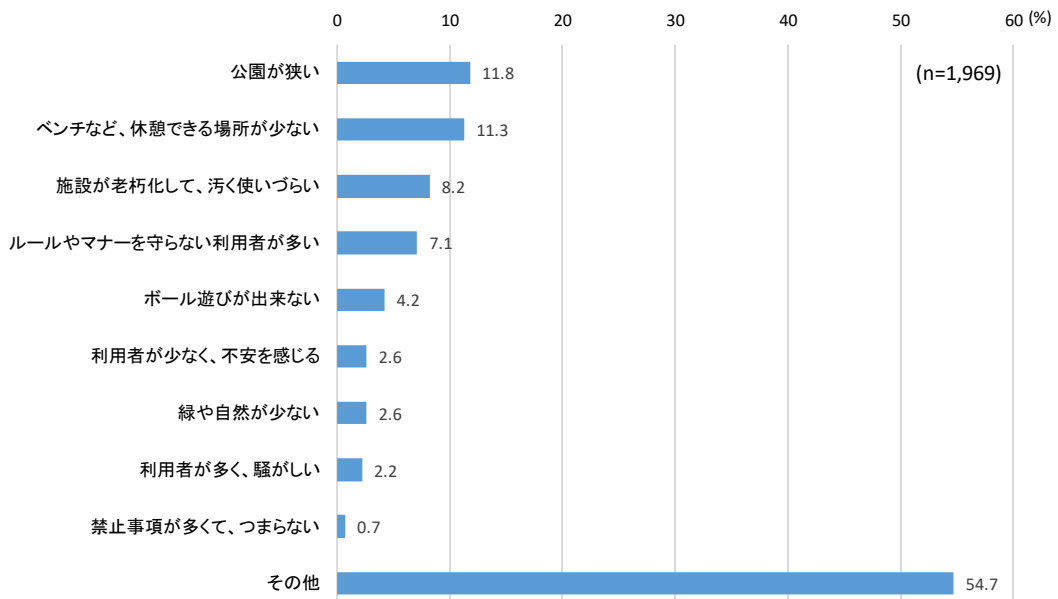
図 3-36 公園の良いところ・好きなところ



※その他:トイレがある、トイレが綺麗、駅・コンビニ・スーパー等に近く利便性が高い、水道がある、車椅子で利用できる等の回答。

出典: 公園等利用実態調査(H27)

図 3-37 公園の不満なところ・嫌いなところ



※その他:トイレ関係、水道がない、ゴミが多い、広場の状態が良くない(小石が多い・砂埃がひどい)等の回答。

出典: 公園等利用実態調査(H27)

(2) 公園等に関する要望

①市に寄せられる要望

市に寄せられる公園等に対する要望としては、「剪定・伐採」に関するものが最も多く約4割を占めています。次いで「不法投棄」や「改修・補修」に関するものなどとなっています。月別では、樹木が生い茂る6月から9月にかけて件数が多くなります。

図 3-38 市に寄せられた公園等に対する要望
(平成 29 年度)

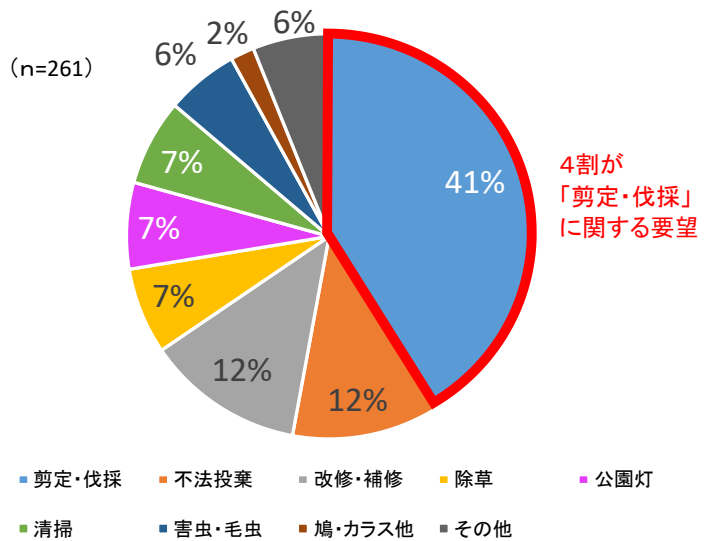
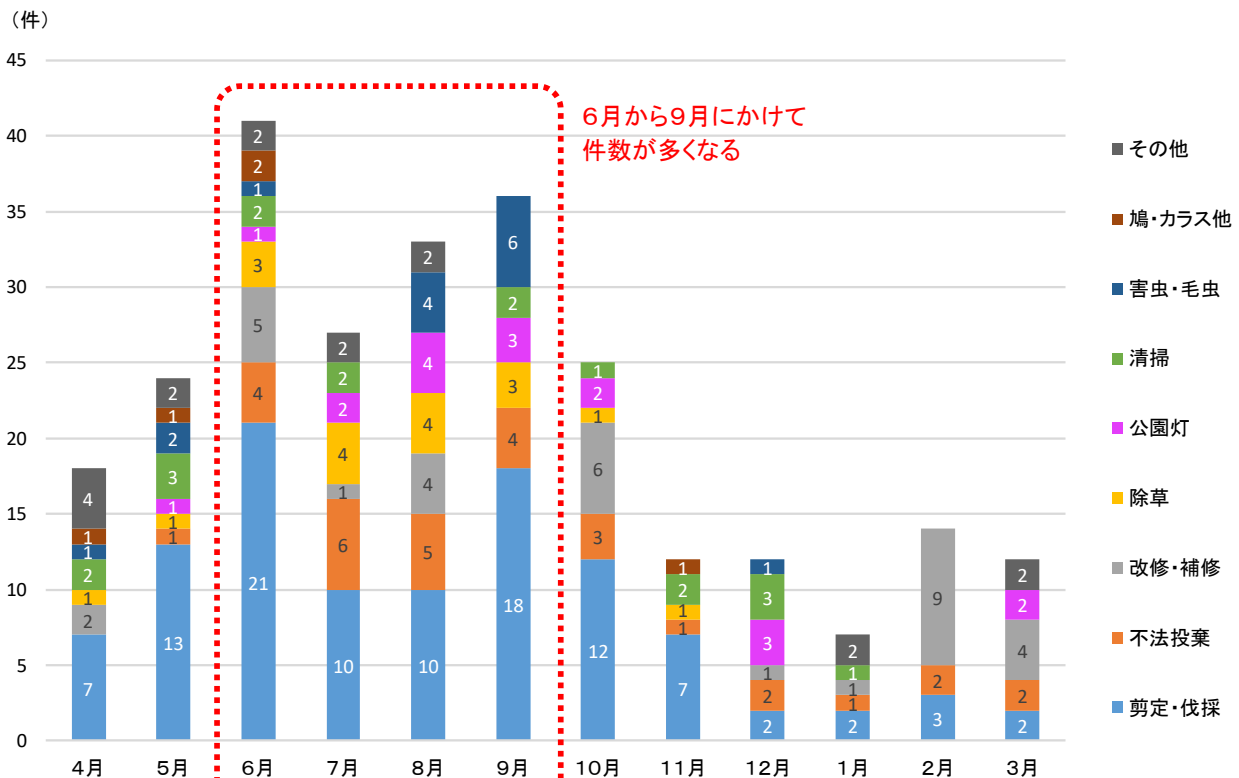


図 3-39 市に寄せられた公園等に対する要望(月別)



※平成29年度のもの

②市民ワークショップからわかるニーズ

本方針の策定にあたって、地域の課題抽出や市民意向の把握のためワークショップを行いました。公園等の役割として魅力を活かす空間であること、多世代交流の場であること、市民主体で利活用できる場であること等の意見が多数挙がっています。

【実施概要】

実施時期：平成 30 年 9 月～11 月（計 3 回）

実施場所：小金井市商工会館

参加者：市民、市議会議員、剪定ボランティア及び花壇ボランティア等（延べ 53 名）

内容：地域ごとに公園・緑地に関する課題の抽出と、公園活用のアイデアと実現手法を検討

【実施結果】（主な意見）

■課題

✓ 管理について
・ボランティア頼りの管理になっているうえ、ボランティア同士もまとまりが不足。 ・地域住民による維持管理をできるようにしたい。 ・ゴミの多さや放置自転車が目立つ。 等
✓ 設備機能について
・防災機能が不足している。 ・保育園の代替庭園になるような小さな公園が不足している。 ・大小公園の偏在が起きていてバランスのいい整備が必要。 等
✓ 活用について
・地域の意向を反映した公園・緑地にしていきたいが、市と地域が話し合う機会や場がない。 ・制約やルールが多く、情報発信も不足している。「○○ができる公園」がリスト化されるといい。 情報発信がないから市民も無関心になっていく。 等

■活用に向けた取組案

✓ 公園等でしたいこと
<ul style="list-style-type: none">・公園ごとのワークショップ開催する中で、子どもたちと一緒にワークショップを行い、秘密基地、自然利用の遊び、いきもの学習等、子どもたちが楽しくなる公園をつくる。・イベントとともにボランティア清掃活動も同時開催し、管理と活用を同時に行う。・歴史文化財や自然等の資源を活かした案内ツアー等のイベントを行う。・広場でのボール遊びやリサイクルバザー等地域交流の機会をつくる。 等
✓ 仕組みづくり
<ul style="list-style-type: none">・ホームページやSNSで市民が自由に発信、シェアできる仕組み、またネットで利用できる予約システムを構築する。・公園税を創設し、管理維持費を集める。・市がボランティアや利用団体同士の話し合いの場づくりをサポートし(防災のためにも)、一人からでも公園の管理運営に参加しやすくする。 等
✓ 設備・機能
<ul style="list-style-type: none">・カフェやレストラン、移動販売車の拠点等民間活力で盛り上げる。・マンホールトイレ、かまどベンチ、災害用井戸(手動)等防災の拠点として強化する。・多世代交流できる遊び場として東屋、足湯、ベンチなどを設置する。・生態系を守った緑の連続性を保持する。 等
✓ 管理
<ul style="list-style-type: none">・地域住民、公園ボランティア、シルバー人材センター、マンション等で公園見守り隊を作り、地域住民が主体的に公園・緑地に関することを決定するようにする(制限を少なくし、活動団体の自由度を高める)。・学校で子供たちの話し合いの機会を設置し、子どもにも管理活用に関与してもらう。・美化サポーター制度等ボランティアへの補助についての情報公開をする。 等

第4章 公園等の評価

4-1. 公園等の評価

(1) 評価方法

市が管理する既存の公園等について、量や質、利用者人口、多面的機能などの視点から評価指標を設けて評価をしました。さらに公園配置の適正化の検討等のため、市全体を武蔵小金井地域、東小金井地域、野川地域の三地域に分けて¹⁷、地域ごとに比較しました¹⁸。

①公園等の評価指標

次の7の指標を設けました。公園等について全市の平均に対する偏差値を算出し、偏差値をもとに点数化¹⁹を行いました。

No	指標	出典・算出方法等
1	面積（単位：㎡）	公園等の面積
2	公園利用圏 ²⁰ の重複度（単位：省略 ²¹ ）	各公園等の利用圏に含まれる公園・緑地等の数 ²² を基に点数化（重複が少ないほど指標値が高くなるように設定）
3	公園利用圏人口に対する利用率（単位：%）	各公園等の利用者数 ²³ （H27 公園等利用実態調査）を、各公園等の利用圏内総人口（2015 年国勢調査）で除算
4	みどりのネットワークとの整合性（単位：%）	各公園等について、みどりの将来像（小金井市緑の基本計画(H23)）のうち、みどりの拠点や地区の核となる公園等、みどりのネットワーク等のライン上やエリア内に合致するものについて点数化

¹⁷ 都立公園については実態として複数地域からの利用があると考えられることから、面積以外のデータについて公園の敷地の境界線が各地域に接する距離を基本に各指標データを地域に按分した。具体的には都立小金井公園についての指標値は武蔵小金井地域(55%)、東小金井地域(45%)に按分し、都立武蔵野公園は野川地域に含まれるものの地域の東端に位置し、過半が東小金井地域との境界に接することから指標値を東小金井地域(60%)、野川地域(40%)に按分し、野川公園についても同様の考えで指標値を東小金井地域(50%)、野川地域(50%)に按分した。

¹⁸ 比較にあたっては全市平均値と偏差値も算出したが、ここでの全市平均値は公園等（一部の指標は閉鎖管理の公園等を除く）や全市民、全地域面積等に対しての値であり、三地域の各値の単純な平均値ではない。

¹⁹ 点数化は偏差値 50 未満=1 点、偏差値 55 未満=2 点、偏差値 60 未満=3 点、偏差値 64 未満=4 点、偏差値 64 以上=5 点とした。なお、指標のうち「みどりのネットワークとの整合性」は 0 点と 4 点のみ、「団体・ボランティア活動の状況」は 0 点と 5 点のみとなった。これは指標値の性質が「複数のレベル」を持つものではなく「有るか無いか」に二極化しているため。また「みどりのネットワークとの整合性」は統計的な手法のもとで同様にデータ処理をしたところ、平均値に対して評価値の高いデータがなかったため、5 点ではなく 4 点が最高値となった。

²⁰ 公園利用圏の半径は都立公園 1,000m、2,500 ㎡以上の公園・緑地等は 500m、2,500 ㎡未満の公園・みどり等は 250m とした。都市公園の整備の目安として、一般に誘致距離 250m の範囲内で 1 箇所当たり面積 0.25ha の公園（街区公園）、誘致距離 500m の範囲内で 1 箇所当たり面積 2ha の公園（近隣公園）とされていることから、2,500 ㎡を境に誘致距離を分けている。なお、閉鎖管理の公園等については原則として公園利用圏を設定していない。

²¹ この評価作業にのみにおいて使われる単位であり一般的な単位のような単位記号が存在しないため省略（他も同様）。

²² 重複は同規模の公園同士について計算している。例えば 2,500 ㎡未満の小さな公園は同じく 2,500 ㎡未満の小さな公園同士との重複状況について比べている。規模は①2,500 ㎡未満、②2,500 ㎡以上、③都立公園の三段階である。

²³ 公園利用者数は一日当たりの利用者人数で、都立公園については東京都の公園マネジメントプランより H25 の推計値から算出した。その他公園のうち、53 箇所については公園等利用実態調査（H27）の結果を使用した。それ以外の公園については前述の利用実態調査から公園面積と利用者人数の相関関係に注目し近似式（累乗近似により導かれた $y=0.0364x^{1.0455}$ （ここでの x は面積、y は利用者人数の推計値））から利用者数を推計した。

No	指標	出典・算出方法等
5	公園等の防災機能（単位：省略）	小金井市防災マップをもとに、避難所指定の有無、防災行政無線の有無、防災備蓄庫の有無、防火水槽の有無から点数化
6	総人口増減率（短期：2015年→2030年）（単位：％）	2030年の地域別の将来推計総人口（小金井市人口ビジョン（H28））を、2015年の総人口（国勢調査 500mメッシュ）について同様の手法で得られた値で除算
7	団体・ボランティア活動の状況（単位：省略）	ボランティアが管理に参加している公園等や団体利用登録のある公園等を点数化

②地域別の評価指標

次の20の指標を設けました。

分類	No	指標	出典・算出方法等
公園・緑地等に関する指標	1	公園・緑地等面積率（単位：％）	各地域の公園・緑地等の総面積を、各地域の面積で除算
	2	住民一人当たりの公園・緑地等面積（単位：㎡/人）	各地域の公園・緑地等の総面積を、各地域の総人口 ²⁴ （2015年国勢調査、2015年10月1月現在をもとに算出）で除算
	3	一か所当たりの公園・緑地等面積（単位：㎡）	各地域の公園・緑地等の総面積を、各地域の公園・緑地等の設置数で除算
人口に関する指標	4	総人口増減率（短期：2015年→2030年）（単位：％）	2030年の地域別の将来推計総人口（小金井市人口ビジョン（平成28年3月））を、2015年の総人口（国勢調査500mメッシュ）について同様の手法で得られた値で除算
	5	総人口増減率（長期：2015年→2050年）（単位：％）	2050年の地域別の将来推計総人口（小金井市人口ビジョン（平成28年3月））を、2015年の総人口（国勢調査500mメッシュ）について同様の手法で得られた値で除算
	6	年少人口率（単位：％）	2015年の年少人口 ²⁵ （国勢調査500mメッシュ）を地域別に面積按分したものを、2015年の総人口（国勢調査500mメッシュ）について同様の手法で得られた値で除算
	7	年少人口増減率（短期：2015年→2030年）（単位：％）	2030年の地域別の将来推計年少人口（小金井市人口ビジョン（平成28年3月））を、2015年の年少人口（国勢調査500mメッシュ）について同様の手法で得られた値で除算
	8	年少人口増減率（長期：2015年→2050年）（単位：％）	2050年の地域別の将来推計年少人口（小金井市人口ビジョン（平成28年3月））を、2015年の年少人口（国勢調査500mメッシュ）について同様の手法で得られた値で除算
	9	老年人口率（単位：％）	2015年の老年人口 ²⁶ （国勢調査500mメッシュ）を地域別に面積按分したものを、2015年の総人口（国勢調査500mメッシュ）について同様の手法で得られた値で除算
	10	老年人口増減率（短期：2015年→2030年）（単位：％）	2030年の地域別の将来推計老年人口（小金井市人口ビジョン（平成28年3月））を、2015年の老年人口（国勢調査500mメッシュ）について同様の手法で得られた値で除算
	11	老年人口増減率（長期：2015年→2050年）（単位：％）	2050年の地域別の将来推計老年人口（小金井市人口ビジョン（平成28年3月））を、2015年の老年人口（国勢調査500mメッシュ）について同様の手法で得られた値で除算

²⁴ なお市平均の指標の算出にあたっては、総人口123,769人として計算した。地域別の人口について500mメッシュを面積按分して算出し、三地域の合計を市の総人口としている。

²⁵ 年少人口とは15歳未満（0歳から14歳）の人口のこと。

²⁶ 老年人口とは65歳以上の人口のこと。

分類	No	指標	出典・算出方法等
公園・緑地等の利用しやすさに関する指標	12	2,500 m ² 以上の大きな公園・緑地等が利用できる地域の面積割合（単位：％）	大きな公園・緑地等は2,500 m ² の公園・緑地等としたうえで、公園利用圏を都立公園については半径1,000m、それ以外の公園・緑地等については半径500mに設定。これらの利用圏のうち一つでも該当する場所を「大きな公園が利用できる地域 ²⁷ 」と仮定
	13	公園・緑地等利用圏 ²⁸ の重複度（単位：省略 ²⁹ ）	各公園の利用圏に含まれる公園の数 ³⁰ を基に点数化し（重複が少ないほど指標値が高くなるように設定）、地域ごとに平均値を算出
	14	公園・緑地等利用圏人口に対する利用率（単位：％）	各公園・緑地等の利用者数 ³¹ （H27公園等利用実態調査）を、各公園の利用圏内総人口（2015年国勢調査）で除算して得られる利用率について、地域ごとに平均値を算出
	15	公園・緑地等の平均接道数（単位：本）	各公園・緑地等について、国土地理院地図から接道数を把握し、地域ごとに平均値を算出
公園・緑地等の多面的機能に関する指標	16	みどりのネットワークとの整合性（単位：％）	地域内の各公園・緑地等について、みどりの将来像（小金井市緑の基本計画(H23)のうち、みどりの拠点や地区の核となる公園等、みどりのネットワーク等のライン上やエリア内に合致する公園・緑地等の設置数の割合を地域ごとに算出
	17	水辺空間（野川または玉川上水）との近傍性（単位：省略）	各公園・緑地等について、野川又は玉川上水と最も近い直線距離を算出、指標化（距離が近いほど指標値が高くなるように指標を設計）
	18	住民一人当たりの公園・緑地等の防災機能指数（単位：省略）	小金井市防災マップをもとに、避難所指定の有無、防災行政無線の有無、防災備蓄庫の有無、防火水槽の有無から点数化し、総人口（2015年国勢調査）で除算
	19	公園利用圏内に存在する平均集客施設数（単位：か所）	各公園・緑地等の利用圏に含まれる集客施設（病院、診療所、市役所等（国土数値情報）や、駅前の商業ビル等）の数について、地域ごとに平均値を算出
	20	休息・レクリエーション機能指数の平均値（単位：省略）	各公園・緑地等について、遊具・ベンチ・水道・トイレの有無を点数化

²⁷ ここでは市内の公園だけでなく、近隣市の公園の利用圏も含めたものである。

²⁸ 公園・緑地等利用圏の半径は都立公園1,000m、2,500 m²以上の公園緑地等は500m、2,500 m²未満の公園・緑地等は250mとした。都市公園の整備の目安として、一般に誘致距離250mの範囲内で1箇所当たり面積0.25haの公園（街区公園）、誘致距離500mの範囲内で1箇所当たり面積2haの公園（近隣公園）とされていることから、2,500 m²を境に誘致距離を分けている。なお、閉鎖管理の公園等については原則として公園・緑地等利用圏を設定していない。

²⁹ この評価作業にのみにおいて使われる単位であり一般的な単位のような単位記号が存在しないため省略（他も同様）。

³⁰ 重複は同規模の公園同士について計算している。例えば2,500 m²未満の小さな公園・緑地等は同じく2,500 m²未満の小さな公園・緑地等同士との重複状況について比べている。規模は①2,500 m²未満、②2,500 m²以上、③都立公園の三段階である。

³¹ 公園利用者数は一日当たりの利用者人数で、都立公園については東京都の公園マネジメントプランよりH25の推計値から算出した。その他公園のうち、53箇所については公園等利用実態調査（H27）の結果を使用した。それ以外の公園・緑地等については前述の利用実態調査から公園面積と利用者人数の相関関係に注目し近似式（累乗近似）から利用者人数を推計した。

(2) 評価結果

①公園等の評価結果³²

・ A 評価

評価値

No.	名称	平均 評価点	《内訳》						
			①面積	②公園利 用圏の重 複状況	③公園利用 圏人口に対 する利用率 (2015年)	④みどりの ネットワーク との整合 性	⑤防災機 能の数	⑥利用圏内総 人口の増加率 (短期：2015 年→2030年)	⑦団体・ ボランティア の活動状 況
1	浴恩館公園	4.286	5	5	5	4	1	5	5
2	栗山公園	4.286	5	1	5	4	5	5	5
3	梶野公園	4.143	5	2	3	4	5	5	5
4	上水公園	3.857	5	3	5	4	3	2	5
5	三楽公園	3.714	4	5	1	4	3	4	5
6	小長久保公園	3.571	3	5	1	4	3	4	5
7	上の原公園	3.429	3	1	5	4	1	5	5
8	ぐみの木公園	3.429	2	1	2	4	5	5	5
9	滄浪泉園緑地	3.429	5	3	5	4	1	5	1
10	はけの森緑地2	3.333	3	-	-	4	3	-	-
11	貫井けやき公園	3.286	2	1	3	4	3	5	5
12	三楽の森公共緑地	3.286	5	5	3	4	1	4	1

参考値（下表の中には評価点の算出に用いていないデータを含む）

No.	名称	地域 分類	町名	《参考》									
				供用開始 年	面積 (㎡)	借地面積 (㎡)	管理 者	トイレ	防 火 水 槽	利用 者 数 (人)	2015年一日平均 利用者数(人)	2015 年→2030 年 増加率(短期：2015 年→2030年)	ボラ ン テ ィ ア 活 動
1	浴恩館公園	武蔵小金井	緑町	1988年	14,278	0	市	有	-	757	106%	有	-
2	栗山公園	東小金井	中町	1994年	15,882	0	市	有	有	1,901	107%	有	有
3	梶野公園	東小金井	梶野町	2011年	9,707	0	市	有	有	325	107%	有	有
4	上水公園	武蔵小金井	桜町	1964年	16,663	16,663	市	有	-	627	97%	有	-
5	三楽公園	武蔵小金井	貫井南町	1982年	3,473	0	市	有	-	144	102%	-	有
6	小長久保公園	武蔵小金井	本町	2005年	2,598	0	市	-	-	40	101%	有	-
7	上の原公園	武蔵小金井	本町	1967年	2,025	0	市	有	-	211	103%	有	-
8	ぐみの木公園	野川	前原町	2000年	747	0	市	有	-	66	105%	-	有
9	滄浪泉園緑地	武蔵小金井	貫井南町	1979年	12,346	11,231	市	有	-	690	104%	-	-
10	はけの森緑地2	野川	中町	1993年	2,269	0	市	有	-	117	102%	-	-
11	貫井けやき公園	野川	貫井南町	2012年	818	0	市	有	有	80	105%	-	有
12	三楽の森公共緑地	武蔵小金井	貫井南町	1992年	5,188	0	市	-	-	279	102%	-	-

³² 原則として各指標の評価点の平均点をもとにA～Dの4段階で評価を分けた。平成27年に実施した公園等利用実態調査の対象となっていない公園等は、利用者数等の定量的な評価はできないため、数値で測れない部分を定性的に評価している。

³³ 赤字は推計人数。公園等利用実態調査(H27)の結果より、公園等面積と利用者人数の相関関係について近似式で算出。次頁以降も同様。

・B評価

評価値

No.	名称	平均 評価点	＜内訳＞						
			①面積	②公園 利用圏 の重複 状況	③公園利用 圏人口に対 する利用率 (2015年)	④みどりの ネットワーク との整合 性	⑤防災機 能の数	⑥利用圏内総 人口の増加率 (短期：2015 年→2030年)	⑦団体・ ボランティア の活動状 況
13	アオギリ公園	3.143	1	2	1	4	5	4	5
14	中町シダレザクラ公園	3.143	1	5	1	4	3	3	5
15	本町ハナミズキ公園	3.143	1	3	5	4	3	5	1
16	前原町三丁目公園	3.000	1	3	1	4	3	4	5
17	東町三丁目児童遊園	3.000	1	2	1	4	3	5	5
18	さくら公園	3.000	1	2	1	4	3	5	5
19	中町四丁目公共緑地	3.000	4	-	-	4	1	-	-
20	東町シナノキ公園	2.857	2	1	2	4	1	5	5
21	東町トチノキ公園	2.857	1	3	2	1	3	5	5
22	関野町エノキ公園	2.857	1	5	1	4	3	5	1
23	緑町二丁目児童遊園	2.857	1	1	1	4	3	5	5
24	コウヤマキ公園	2.857	1	5	2	1	5	5	1
25	どんぐりの森公共緑地	2.857	5	2	2	4	1	5	1
26	緑町竹林緑地帯	2.750	1	-	-	4	1	-	5
27	桜町公園	2.714	2	1	1	4	1	5	5
28	下弁天子供広場	2.714	2	2	2	4	3	5	1
29	貫井けやき広場	2.571	1	1	1	4	1	5	5
30	むさこぶらつと公園	2.286	1	2	1	4	3	4	1
31	貫井南花木公園	2.667	1	-	-	4	3	-	-
32	美術の森緑地	2.667	3	-	-	4	1	-	-
33	シャラノキ公園	2.571	1	5	1	4	5	1	1
34	野川緑地公園	2.571	1	5	1	4	1	5	1
35	丸山台公園	2.429	1	3	1	1	5	5	1
36	上山谷緑地公園	2.333	2	-	-	4	1	-	-
37	梶野広場	2.333	2	-	-	4	1	-	1
38	前原やなぎ公園	2.286	1	1	1	1	5	2	5
39	本町公園	2.286	1	3	1	4	1	5	1
40	貫井かしのき公園	2.286	1	1	1	1	5	2	5
41	もみじの里公園	2.286	1	1	1	1	3	4	5
42	パンダ公園	2.143	2	2	1	4	3	2	1
43	梶野町くぬぎ公園	2.143	1	3	3	1	1	5	1
44	梶野町ハナノキ公園	2.143	2	3	1	4	3	1	1
45	ハナミズキ公園	2.143	1	2	1	4	1	5	1
46	きりの木公園	2.143	2	2	2	4	3	1	1
47	やまばと公園	1.857	2	3	1	1	3	2	1
48	はぐくみ公園	1.857	1	1	1	1	3	5	1
49	貫井南遊歩道公園	1.857	1	1	1	1	3	5	1
50	なつみかん公園	1.857	1	1	1	1	3	5	1

参考値（下表の中には評価点の算出に用いていないデータを含む）

No.	名称	地域分類	町名	《参考》									
				供用開始年	面積(㎡)	借地面積(㎡)	管理者	トイレ	防火水槽	利用者数 ³⁴ (人)	2015年(短期:2015年→2030年)の利用率(総人口)	ボランティア活動	団体利用
13	アオギリ公園	東小金井	東町	1963年	170	0	市	-	有	12	102%	有	-
14	中町シダレザクラ公園	野川	中町	1967年	280	0	市	-	有	30	99%	有	-
15	本町ハナミズキ公園	武蔵小金井	本町	2000年	578	0	市	-	有	538	104%	-	-
16	前原町三丁目公園	野川	前原町	2000年	705	235	市	-	有	40	101%	-	有
17	東町三丁目児童遊園	東小金井	東町	1966年	632	632	市	-	有	31	105%	有	-
18	さくら公園	武蔵小金井	桜町	1998年	575	0	市	-	有	28	102%	有	-
19	中町四丁目公共緑地	武蔵小金井	中町	2008年	3,662	0	市	-	-	-	-	-	-
20	東町シナノキ公園	東小金井	東町	1994年	744	0	市	-	-	76	105%	有	-
21	東町トチノキ公園	東小金井	東町	1984年	300	300	市	-	有	56	109%	有	-
22	関野町エノキ公園	東小金井	関野町	1979年	173	0	市	-	有	8	111%	-	-
23	緑町二丁目児童遊園	東小金井	緑町	1960年	310	0	市	-	有	47	105%	有	-
24	コウヤマキ公園	武蔵小金井	貫井北町	2011年	329	0	市	-	有	34	103%	-	-
25	どんぐりの森公共緑地	野川	前原町	1999年	4,014	0	市	-	-	213	103%	-	-
26	緑町竹林緑地帯	武蔵小金井	緑町	1994年	149	0	市	-	-	-	-	有	-
27	桜町公園	武蔵小金井	桜町	1982年	888	888	市	-	-	34	106%	有	-
28	下弁天子供広場	野川	貫井南町	1972年	970	0	市	-	有	59	106%	-	-
29	貫井けやき広場	野川	貫井南町	1970年	472	316	市	-	-	23	104%	有	-
30	むさこぷらっと公園	武蔵小金井	本町	2018年	233	0	市	-	有	11	102%	-	-
31	貫井南花木公園	武蔵小金井	貫井南町	2004年	421	0	市	-	有	14	105%	-	-
32	美術の森緑地	武蔵小金井	中町	1991年	2,419	0	市	-	-	126	104%	-	-
33	シャラノキ公園	東小金井	東町	1980年	451	0	市	-	有	25	95%	-	-
34	野川緑地公園	野川	前原町	1987年	601	601	市	-	-	29	104%	-	-
35	丸山台公園	野川	前原町	1984年	325	0	市	-	有	25	105%	-	-
36	上山谷緑地公園	武蔵小金井	本町	2013年	874	0	市	-	-	26	104%	-	-
37	梶野広場	東小金井	梶野町	1996年	739	0	市	-	-	-	-	-	-
38	前原やなぎ公園	野川	前原町	1975年	491	0	市	-	-	22	98%	有	-
39	本町公園	武蔵小金井	本町	1973年	315	315	市	-	-	60	104%	-	-
40	貫井かしのき公園	野川	貫井南町	1990年	498	0	市	-	有	24	97%	有	-
41	もみじの里公園	東小金井	東町	2016年	628	0	市	-	有	31	102%	有	-
42	パンダ公園	東小金井	東町	1980年	1,017	0	市	-	-	55	97%	-	-
43	梶野町くぬぎ公園	東小金井	梶野町	1983年	571	571	市	-	-	53	106%	-	-
44	梶野町ハナノキ公園	東小金井	梶野町	1995年	1,281	0	市	-	有	43	92%	-	-
45	ハナミズキ公園	野川	前原町	1994年	213	0	市	-	-	10	103%	-	-
46	きりの木公園	武蔵小金井	桜町	1983年	756	0	市	-	有	36	90%	-	-
47	やまばと公園	東小金井	東町	1985年	999	999	市	-	-	42	98%	-	-
48	はぐくみ公園	武蔵小金井	緑町	2013年	206	0	市	-	有	10	106%	-	-
49	貫井南遊歩道公園	野川	貫井南町	2002年	392	0	市	-	有	19	103%	-	-
50	なつみかん公園	野川	貫井南町	1984年	506	0	市	-	有	35	104%	-	-

³⁴ 赤字は推計人数。公園等利用実態調査（H27）の結果より、公園等面積と利用者人数の相関関係について近似式で算出。次頁以降も同様。

・ C評価

評価値

No.	名称	平均 評価点	《内訳》						
			①面積	②公園 利用圏 の重複 状況	③公園利用 圏人口に対 する利用率 (2015年)	④みどりの ネットワーク との整合 性	⑤防災機 能の数	⑥利用圏内総 人口の増加率 (短期：2015 年→2030年)	⑦団体・ ボランティア の活動状 況
51	ムジナ坂上公園	2.571	1	3	1	4	3	5	1
52	イチョウ公園	2.571	2	1	3	1	5	5	1
53	雑木林広場	2.571	1	5	1	4	1	5	1
54	マルメロ公園	2.429	1	2	1	4	3	5	1
55	ナナカマド公園	2.429	1	1	1	1	3	5	5
56	緑町キンモクセイ公園	2.429	1	2	1	4	3	5	1
57	やまもも公園	2.429	1	1	1	1	3	5	5
58	桜町こぶし公園	2.429	1	5	1	4	3	2	1
59	はけの森緑地	2.333	2	-	-	4	1	-	-
60	もくれん公園	2.286	1	3	1	1	5	4	1
61	梶野町四丁目児童遊園	2.286	1	1	1	4	3	5	1
62	ヤマボウシ公園	2.286	1	3	1	4	1	5	1
63	中町二丁目第2児童遊園	2.286	1	5	1	1	3	4	1
64	前原町ハナミズキ公園	2.286	1	3	1	1	5	4	1
65	かわせみ公園	2.286	1	2	1	1	1	5	5
66	貫井北町五丁目児童遊園	2.286	1	3	1	1	1	4	5
67	ナツメ広場	2.286	1	3	1	4	1	5	1
68	貫井南町四丁目第2子供広場	2.286	1	3	1	4	1	5	1
69	東町四丁目児童遊園	2.143	1	3	1	1	3	5	1
70	梶野町クルミ公園	2.143	1	3	1	1	3	1	5
71	緑町さくら公園	2.143	1	1	1	1	5	5	1
72	中町二丁目児童遊園	2.143	1	5	1	1	1	5	1
73	もみの木公園	2.143	1	1	1	1	1	5	5
74	かきの木公園	2.143	1	1	1	1	5	5	1
75	貫井南町緑の森公園	2.143	1	5	1	1	1	5	1
76	貫井もちのき公園	2.143	1	2	1	4	1	5	1
77	ハケの上広場	2.143	1	2	1	4	1	5	1
78	前原坂ポケット広場	2.143	1	2	1	4	1	5	1
79	ザイフリボク広場	2.143	1	5	1	1	1	5	1
80	東町二丁目第2児童遊園	2.000	1	2	1	4	3	2	1
81	中町二丁目第3児童遊園	2.000	1	2	1	1	3	5	1
82	モッコク公園	2.000	1	2	1	1	3	5	1
83	前原町四丁目児童遊園	2.000	1	2	1	1	3	5	1
84	前原町クスノキ公園	2.000	1	1	1	4	1	5	1
85	ふじのき公園	2.000	1	3	2	1	3	3	1
86	梶野町四丁目子供広場	2.000	1	1	1	4	1	5	1
87	中町一丁目第2子供広場	2.000	1	1	1	4	1	5	1
88	前原町二丁目第2子供広場	2.000	1	1	1	4	1	5	1
89	前原町二丁目第3子供広場	2.000	1	1	1	4	1	5	1
90	ピラカンサ広場	2.000	1	1	1	4	1	5	1
91	クスノキ広場	2.000	1	3	1	4	1	3	1
92	東町二丁目緑地	2.000	1	-	-	4	1	-	-
93	東町しだれざくら緑地	2.000	1	-	-	4	1	-	-
94	ぶどう緑地	2.000	1	-	-	4	1	-	-
95	東町五丁目緑地	2.000	1	-	-	4	1	-	-
96	二枚橋上緑地	2.000	1	-	-	4	1	-	-
97	堀端緑地	2.000	1	-	-	4	1	-	-
98	梶野町雑木緑地	2.000	1	-	-	4	1	-	-

No.	名称	平均 評価点	《内訳》						
			①面積	②公園 利用圏の重複 状況	③公園利用 圏人口に対 する利用率 (2015年)	④みどりの ネットワーク との整合 性	⑤防災機 能の数	⑥利用圏内総 人口の増加率 (短期：2015 年→2030年)	⑦団体・ ボランティア の活動状 況
99	サルスベリ緑地	2.000	1	-	-	4	1	-	-
100	木の実緑地	2.000	1	-	-	4	1	-	-
101	砂川用水ポケット緑地	2.000	1	-	-	4	1	-	-
102	仙川緑地	2.000	1	-	-	4	1	-	-
103	緑町ポケット緑地	2.000	1	-	-	4	1	-	-
104	四割堰緑地	2.000	1	-	-	4	1	-	-
105	中町さくら緑地	2.000	1	-	-	4	1	-	-
106	中町マンサク緑地	2.000	1	-	-	4	1	-	-
107	天神橋緑地	2.000	1	-	-	4	1	-	-
108	中町四丁目緑地	2.000	1	-	-	4	1	-	-
109	はげのうえ竹の子緑地	2.000	1	-	-	4	1	-	-
110	野川サクラ緑地	2.000	1	-	-	4	1	-	-
111	ユズ緑地	2.000	1	-	-	4	1	-	-
112	西の台緑地	2.000	1	-	-	4	1	-	-
113	雑木林緑地	2.000	1	-	-	4	1	-	-
114	本町二丁目緑地	2.000	1	-	-	4	1	-	-
115	桜町二丁目緑地	2.000	1	-	-	4	1	-	-
116	ナツメ緑地	2.000	1	-	-	4	1	-	-
117	貫井北町カリン緑地	2.000	1	-	-	4	1	-	-
118	玉川上水ポケット緑地	2.000	1	-	-	4	1	-	-
119	三楽緑地	2.000	1	-	-	4	1	-	-
120	貫井南町三丁目緑地	2.000	1	-	-	4	1	-	-
121	緑水郷公園	1.857	1	1	1	1	3	5	1
122	梅の木公園	1.857	1	1	1	1	3	5	1
123	緑町コニファー公園	1.857	1	1	1	1	3	5	1
124	みどり公園	1.857	1	1	1	1	3	5	1
125	ひさかき公園	1.857	1	1	1	1	3	5	1
126	タブノキ公園	1.857	1	3	1	1	1	5	1
127	ゆずりは公園	1.857	1	1	1	1	3	1	5
128	木の実公園	1.857	1	3	1	1	1	5	1
129	リーフィア貫井南公園	1.857	1	1	1	1	3	5	1
130	ゆりのき広場	1.857	1	1	1	4	1	4	1
131	前原町四丁目公園	1.714	1	2	1	1	1	5	1
132	本町さくら公園	1.714	1	3	1	1	1	4	1
133	本町カツラ公園	1.714	1	2	2	1	1	4	1
134	貫井南町四丁目第4児童遊園	1.714	1	1	1	1	3	4	1
135	サンシュユ公園	1.714	1	1	1	1	3	4	1
136	ナツグミ広場	1.714	1	3	1	4	1	1	1
137	東町ポケット広場	1.714	1	1	1	4	1	3	1
138	もみじ広場	1.714	1	2	1	1	1	5	1
139	緑町五丁目第2子供広場	1.714	1	2	1	1	1	5	1
140	楓の木広場	1.714	1	3	1	1	1	4	1
141	貫井南町一丁目第2子供広場	1.714	1	1	1	1	3	4	1
142	下山谷の森	1.667	3	-	-	1	1	-	-
143	緑町シダレザクラ緑地	1.667	1	-	-	1	3	-	-
144	かしの木緑地	1.667	1	-	-	1	3	-	-
145	前原町シラカシ緑地	1.667	1	-	-	1	3	-	-
146	エゴノキ緑地	1.667	1	-	-	1	3	-	-
147	さるすべり公園	1.571	1	1	1	1	1	5	1
148	四本けやき公園	1.571	1	1	1	1	1	5	1
149	緑町三丁目児童遊園	1.571	1	1	1	1	1	5	1

No.	名称	平均 評価点	《内訳》						
			①面積	②公園 利用圏 の重複 状況	③公園利用 圏人口に対 する利用率 (2015年)	④みどりの ネットワーク との整合 性	⑤防災機 能の数	⑥利用圏内総 人口の増加率 (短期：2015 年→2030年)	⑦団体・ ボランティア の活動状 況
150	やまざくら公園	1.571	1	1	1	1	1	5	1
151	貫井北町二丁目児童遊園	1.571	1	2	1	1	1	4	1
152	貫井橋公園	1.571	1	1	1	1	3	3	1
153	ネムノキ公園	1.571	1	1	1	1	3	3	1
154	ムクロジ公園	1.571	1	1	1	1	3	3	1
155	貫井南町大げやき公園	1.571	1	1	1	1	3	3	1
156	貫井南つつじ公園	1.571	1	1	1	1	3	3	1
157	梶野町まつのき広場	1.571	1	2	1	1	1	4	1
158	東町三丁目第2児童遊園	1.429	1	2	1	1	1	3	1
159	東町いちょう広場	1.429	1	2	1	1	1	3	1
160	はなもも広場	1.429	1	2	1	1	1	3	1
161	こもれび公園	1.286	1	1	1	1	3	1	1
162	貫井南町一丁目第3子供広場	1.286	1	1	1	1	1	3	1
163	メグスリノキ公園	1.143	1	2	1	1	1	1	1
164	桜町なかよし公園	1.000	1	1	1	1	1	1	1

参考値（下表の中には評価点の算出に用いていないデータを含む）

No.	名称	地域分類	町名	《参考》									
				供用開始年	面積 (㎡)	借地面積 (㎡)	管理者	トイレ	防火水槽	利用者数 ³⁵ (人) 2015年一日平均	利用率(短期:2015年→2030年)	ポランテア活動	団体利用
51	ムジナ坂上公園	東小金井	中町	2010年	201	0	市	-	有	9	109%	-	-
52	イチョウ公園	野川	前原町	2001年	1,585	0	市	-	有	100	104%	-	-
53	雑木林広場	東小金井	梶野町	1973年	598	598	市	-	-	5	110%	-	-
54	マルメロ公園	東小金井	東町	1995年	184	0	市	-	有	8	102%	-	-
55	ナナカマド公園	東小金井	緑町	2001年	218	0	市	-	有	10	106%	有	-
56	緑町キンモクセイ公園	武蔵小金井	緑町	2000年	108	0	市	-	有	5	107%	-	-
57	やまもも公園	武蔵小金井	緑町	1979年	172	0	市	-	有	16	109%	有	-
58	桜町こぶし公園	武蔵小金井	桜町	1981年	122	0	市	-	有	6	96%	-	-
59	はげの森緑地	武蔵小金井	中町	1990年	946	0	市	-	-	-	-	-	-
60	もくれん公園	東小金井	梶野町	1998年	263	0	市	-	有	4	101%	-	-
61	梶野町四丁目児童遊園	東小金井	梶野町	1979年	140	0	市	-	有	6	105%	-	-
62	ヤマボウシ公園	東小金井	中町	2002年	206	0	市	-	-	10	107%	-	-
63	中町二丁目第2児童遊園	東小金井	中町	1979年	312	0	市	-	有	4	102%	-	-
64	前原町ハナミズキ公園	野川	前原町	2000年	335	0	市	-	有	16	101%	-	-
65	かわせみ公園	武蔵小金井	貫井北町	2012年	120	88	市	-	-	5	103%	有	-
66	貫井北町五丁目児童遊園	武蔵小金井	貫井北町	1984年	114	0	市	-	-	2	102%	有	-
67	ナツメ広場	野川	前原町	1996年	45	0	市	-	-	2	104%	-	-
68	貫井南町四丁目第2子供広場	野川	貫井南町	1974年	42	0	市	-	-	2	109%	-	-
69	東町四丁目児童遊園	東小金井	東町	2018年	221	0	市	-	有	10	110%	-	-
70	梶野町クルミ公園	東小金井	梶野町	1995年	232	0	市	-	有	31	96%	有	-
71	緑町さくら公園	武蔵小金井	緑町	1976年	231	0	市	-	有	11	104%	-	-
72	中町二丁目児童遊園	東小金井	中町	1967年	237	0	市	-	-	11	109%	-	-
73	もみの木公園	野川	前原町	2011年	110	0	市	-	-	5	105%	有	-
74	かきの木公園	野川	貫井南町	1993年	367	0	市	-	有	12	107%	-	-
75	貫井南町緑の森公園	武蔵小金井	貫井南町	2006年	165	0	市	-	-	8	105%	-	-
76	貫井もちのき公園	野川	貫井南町	1977年	275	0	市	-	-	13	108%	-	-
77	ハケの上広場	武蔵小金井	中町	1989年	71	0	市	-	-	3	105%	-	-
78	前原坂ポケット広場	武蔵小金井	前原町	2012年	44	0	市	-	-	2	103%	-	-
79	ザイフリボク広場	武蔵小金井	貫井北町	1994年	40	0	市	-	-	2	106%	-	-
80	東町二丁目第2児童遊園	東小金井	東町	1977年	129	0	市	-	-	6	97%	-	-
81	中町二丁目第3児童遊園	東小金井	中町	1983年	450	450	市	-	有	38	104%	-	-
82	モッコク公園	野川	前原町	2001年	253	0	市	-	有	12	104%	-	-
83	前原町四丁目児童遊園	野川	前原町	1975年	323	0	市	-	有	15	104%	-	-
84	前原町クスノキ公園	野川	前原町	1995年	105	0	市	-	-	5	105%	-	-
85	ふじのき公園	野川	前原町	1986年	566	0	市	-	有	56	100%	-	-
86	梶野町四丁目子供広場	東小金井	梶野町	1977年	37	0	市	-	-	2	105%	-	-
87	中町一丁目第2子供広場	野川	中町	1975年	45	0	市	-	-	2	107%	-	-
88	前原町二丁目第2子供広場	野川	前原町	1977年	29	0	市	-	-	1	104%	-	-
89	前原町二丁目第3子供広場	野川	前原町	1977年	41	0	市	-	-	2	103%	-	-
90	ピラカンサ広場	武蔵小金井	本町	1977年	82	0	市	-	-	18	103%	-	-
91	クスノキ広場	武蔵小金井	貫井北町	1992年	31	31	市	-	-	1	100%	-	-
92	東町二丁目緑地	東小金井	東町	1994年	52	0	市	-	-	-	-	-	-
93	東町しだれざくら緑地	東小金井	東町	1993年	53	0	市	-	-	-	-	-	-

³⁵ 赤字は推計人数。公園等利用実態調査（H27）の結果より、公園等面積と利用者人数の相関関係について近似式で算出。次頁以降も同様。

No.	名称	地域分類	町名	《参考》									
				供用開始年	面積 (㎡)	借地面積 (㎡)	管理者	トイレ	防火水槽	利用者数 [※] (人)	2015年(短期:2015年→2030年) 利用圏内総人口の増加率	ボランティア活動	団体利用
94	ぶどう緑地	東小金井	東町	1977年	48	0	市	-	-	-	-	-	-
95	東町五丁目緑地	東小金井	東町	1984年	38	0	市	-	-	-	-	-	-
96	二枚橋上緑地	東小金井	東町	1992年	84	0	市	-	-	-	-	-	-
97	堀端緑地	東小金井	梶野町	1995年	77	0	市	-	-	-	-	-	-
98	梶野町雑木緑地	東小金井	梶野町	1995年	684	0	市	-	-	-	-	-	-
99	サルスベリ緑地	東小金井	梶野町	1995年	80	0	市	-	-	-	-	-	-
100	木の実緑地	東小金井	緑町	1998年	63	0	市	-	-	-	-	-	-
101	砂川用水ポケット緑地	東小金井	緑町	1985年	393	140	市	-	-	-	-	-	-
102	仙川緑地	武蔵小金井	緑町	1993年	232	0	市	-	-	-	-	-	-
103	緑町ポケット緑地	武蔵小金井	緑町	1991年	90	0	市	-	-	-	-	-	-
104	四割堰緑地	野川	中町	1988年	40	0	市	-	-	-	-	-	-
105	中町さくら緑地	武蔵小金井	中町	1975年	70	0	市	-	-	-	-	-	-
106	中町マンサク緑地	東小金井	中町	1995年	88	0	市	-	-	-	-	-	-
107	天神橋緑地	野川	中町	1996年	309	0	市	-	-	-	-	-	-
108	中町四丁目緑地	武蔵小金井	中町	2009年	430	0	市	-	-	-	-	有	-
109	はげのうえ竹の子緑地	武蔵小金井	中町	1986年	80	0	市	-	-	-	-	-	-
110	野川サクラ緑地	野川	前原町	1997年	33	0	市	-	-	-	-	-	-
111	ユズ緑地	野川	前原町	1983年	40	0	市	-	-	-	-	-	-
112	西の台緑地	野川	前原町	1987年	52	0	市	-	-	-	-	-	-
113	雑木林緑地	野川	前原町	1993年	47	0	市	-	-	-	-	-	-
114	本町二丁目緑地	武蔵小金井	本町	1988年	82	0	市	-	-	-	-	-	-
115	桜町二丁目緑地	武蔵小金井	桜町	1985年	136	0	市	-	-	-	-	-	-
116	ナツメ緑地	武蔵小金井	桜町	1995年	40	0	市	-	-	-	-	-	-
117	貫井北町カリン緑地	武蔵小金井	貫井北町	1992年	43	0	市	-	-	-	-	-	-
118	玉川上水ポケット緑地	武蔵小金井	貫井北町	1982年	47	0	市	-	-	-	-	-	-
119	三楽緑地	武蔵小金井	貫井南町	1991年	76	0	市	-	-	-	-	-	-
120	貫井南町三丁目緑地	武蔵小金井	貫井南町	1996年	74	0	市	-	-	-	-	-	-
121	緑水郷公園	東小金井	梶野町	2006年	126	0	市	-	有	6	104%	-	-
122	梅の木公園	東小金井	緑町	1997年	297	0	市	-	有	14	104%	-	-
123	緑町コニファー公園	東小金井	緑町	2004年	303	0	市	-	有	5	105%	-	-
124	みどり公園	武蔵小金井	緑町	1999年	324	0	市	-	有	6	105%	-	-
125	ひさかき公園	武蔵小金井	緑町	1985年	181	0	市	-	-	8	110%	-	-
126	タブノキ公園	武蔵小金井	本町	2002年	140	0	市	-	-	6	104%	-	-
127	ゆずりは公園	武蔵小金井	桜町	1989年	474	0	市	-	有	23	91%	有	-
128	木の実公園	武蔵小金井	貫井北町	1995年	235	0	市	-	-	1	110%	-	-
129	リーフィア貫井南公園	野川	貫井南町	2009年	262	0	市	-	有	12	103%	-	-
130	ゆりのき広場	武蔵小金井	本町	1976年	50	0	市	-	-	2	102%	-	-
131	前原町四丁目公園	野川	前原町	2001年	340	0	市	-	-	16	104%	-	-
132	本町さくら公園	武蔵小金井	本町	1976年	288	0	市	-	-	7	101%	-	-
133	本町カツラ公園	武蔵小金井	本町	1995年	460	0	市	-	-	54	101%	-	-
134	貫井南町四丁目第4児童遊園	野川	貫井南町	1978年	265	0	市	-	有	12	101%	-	-
135	サンシュユ公園	野川	貫井南町	1993年	392	0	市	-	有	19	102%	-	-
136	ナツグミ広場	東小金井	東町	1993年	90	0	市	-	-	4	92%	-	-
137	東町ポケット広場	東小金井	東町	1995年	57	0	市	-	-	2	100%	-	-
138	もみじ広場	武蔵小金井	緑町	1977年	73	0	市	-	-	3	106%	-	-
139	緑町五丁目第2子供広場	武蔵小金井	緑町	1983年	49	0	市	-	-	2	105%	-	-
140	楓の木広場	武蔵小金井	貫井北町	1984年	47	0	市	-	-	0	101%	-	-
141	貫井南町一丁目第2子供広場	野川	貫井南町	1984年	93	0	市	-	有	4	102%	-	-

No.	名称	地域分類	町名	《参考》									
				供用開始年	面積 (㎡)	借地面積 (㎡)	管理者	トイレ	防火水槽	2015年1日平均利用者数 [※] (人)	増加率(短期:2015年→2030年)	利用圏内総人口の増加率	ボランティア活動
142	下山谷の森	武蔵小金井	緑町	2014年	1,927	0	市	-	-	-	-	-	-
143	緑町シダレザクラ緑地	武蔵小金井	緑町	1998年	83	0	市	-	有	-	-	-	-
144	かしの木緑地	東小金井	中町	1995年	453	0	市	-	有	-	-	-	-
145	前原町シラカシ緑地	野川	前原町	1999年	233	0	市	-	-	-	-	-	-
146	エゴノキ緑地	武蔵小金井	本町	1988年	32	0	市	-	-	-	-	-	-
147	さるすべり公園	東小金井	梶野町	1998年	106	0	市	-	-	5	105%	-	-
148	四本けやき公園	東小金井	緑町	1976年	196	0	市	-	-	9	105%	-	-
149	緑町三丁目児童遊園	武蔵小金井	緑町	1980年	600	600	市	-	-	29	105%	-	-
150	やまざくら公園	武蔵小金井	緑町	1995年	186	0	市	-	-	9	110%	-	-
151	貫井北町二丁目児童遊園	武蔵小金井	貫井北町	1984年	108	0	市	-	-	2	101%	-	-
152	貫井橋公園	武蔵小金井	貫井北町	2010年	386	0	市	-	有	8	100%	-	-
153	ネムノキ公園	野川	貫井南町	1993年	210	0	市	-	有	10	100%	-	-
154	ムクロジ公園	野川	貫井南町	1995年	232	0	市	-	有	11	99%	-	-
155	貫井南町大けやき公園	野川	貫井南町	1978年	364	0	市	-	有	17	99%	-	-
156	貫井南つつじ公園	野川	貫井南町	2004年	237	0	市	-	有	11	100%	-	-
157	梶野町まつのき広場	東小金井	梶野町	1969年	540	540	市	-	-	26	102%	-	-
158	東町三丁目第2児童遊園	東小金井	東町	1979年	202	0	市	-	-	9	99%	-	-
159	東町いちょう広場	東小金井	東町	1979年	160	160	市	-	-	7	100%	-	-
160	はなもも広場	野川	前原町	1993年	59	0	市	-	-	3	100%	-	-
161	こもれび公園	武蔵小金井	桜町	2011年	209	0	市	-	有	10	96%	-	-
162	貫井南町一丁目第3子供広場	野川	貫井南町	1978年	47	0	市	-	-	2	99%	-	-
163	メグスリノキ公園	野川	前原町	1995年	244	0	市	-	-	11	82%	-	-
164	桜町なかよし公園	武蔵小金井	桜町	2016年	337	0	市	-	-	16	92%	-	-

・D評価

評価値

No.	名称	平均 評価点	《内訳》						
			①面積	②公園 利用圏 の重複 状況	③公園利用 圏人口に対 する利用率 (2015年)	④みどりの ネットワーク との整合 性	⑤防災機 能の数	⑥利用圏内総 人口の増加率 (短期：2015 年→2030年)	⑦団体・ ボランティア の活動状 況
165	中町三丁目暫定広場	3.333	5	-	-	4	1	-	-
166	中町シダレザクラ緑地	2.000	1	-	-	4	1	-	-
167	東町三丁目第2子供広場	1.571	1	1	1	1	1	5	1
168	リンゴ広場	1.571	1	1	1	1	1	5	1
169	クワノキ広場	1.571	1	1	1	1	1	5	1
170	シデザクラ広場	1.571	1	1	1	1	1	5	1
171	中町三丁目子供広場	1.571	1	1	1	1	1	5	1
172	中町三丁目第2子供広場	1.571	1	1	1	1	1	5	1
173	前原町五丁目子供広場	1.571	1	1	1	1	1	5	1
174	前原町さくら広場	1.571	1	1	1	1	1	5	1
175	貫井南町カリン広場	1.571	1	1	1	1	1	5	1
176	ロウバイ広場	1.571	1	1	1	1	1	5	1
177	貫井南町五丁目子供広場	1.571	1	1	1	1	1	5	1
178	貫井南町五丁目第3子供広場	1.571	1	1	1	1	1	5	1
179	ヤマボウシ広場	1.571	1	1	1	1	1	5	1
180	貫井南町四丁目第3子供広場	1.429	1	1	1	1	1	4	1
181	前原町一丁目第2子供広場	1.143	1	1	1	1	1	2	1
182	前原町一丁目台4子供広場	1.143	1	1	1	1	1	2	1
183	七軒家広場	1.143	1	1	1	1	1	2	1
184	大尽の坂広場	1.143	1	1	1	1	1	2	1
185	桜町一丁目第4子供広場	1.143	1	1	1	1	1	2	1
186	アオダモ公園	1.000	1	1	1	1	1	1	1
187	エンジュ緑地	1.000	1	-	-	1	1	-	-
188	緑町一丁目緑地	1.000	1	-	-	1	1	-	-
189	緑町雑木林緑地	1.000	1	-	-	1	1	-	-
190	うめの木緑地	1.000	1	-	-	1	1	-	-
191	ヤマモモ緑地	1.000	1	-	-	1	1	-	-
192	亀久保緑地	1.000	1	-	-	1	1	-	-
193	孟宗竹緑地	1.000	1	-	-	1	1	-	-
194	イチジク緑地	1.000	1	-	-	1	1	-	-
195	緑町ポケット緑地2	1.000	1	-	-	1	1	-	-
196	キンカン緑地	1.000	1	-	-	1	1	-	-
197	こぶし緑地	1.000	1	-	-	1	1	-	-
198	中町雑木緑地	1.000	1	-	-	1	1	-	-
199	ヤマボウシ緑地	1.000	1	-	-	1	1	-	-
200	はなみずきの庭	1.000	1	-	-	1	1	-	-
201	サクラランボ緑地	1.000	1	-	-	1	1	-	-
202	アンズ緑地	1.000	1	-	-	1	1	-	-
203	スモモ緑地	1.000	1	-	-	1	1	-	-
204	ワダスメモリー緑地	1.000	1	-	-	1	1	-	-
205	本町木の実緑地	1.000	1	-	-	1	1	-	-
206	ネムノキ緑地	1.000	1	-	-	1	1	-	-
207	白樫緑地	1.000	1	-	-	1	1	-	-
208	築樋緑地	1.000	1	-	-	1	1	-	-
209	アラカシ緑地	1.000	1	-	-	1	1	-	-
210	貫井北町五丁目緑地	1.000	1	-	-	1	1	-	-
211	貫井南町シャラノキ緑地	1.000	1	-	-	1	1	-	-
212	モクレン緑地	1.000	1	-	-	1	1	-	-
213	マユミ緑地	1.000	1	-	-	1	1	-	-
214	貫井南町サクラ緑地	1.000	1	-	-	1	1	-	-
215	サンシュユ緑地	1.000	1	-	-	1	1	-	-
216	ハナダイコン緑地	1.000	1	-	-	1	1	-	-

参考値（下表の中には評価点の算出に用いていないデータを含む）

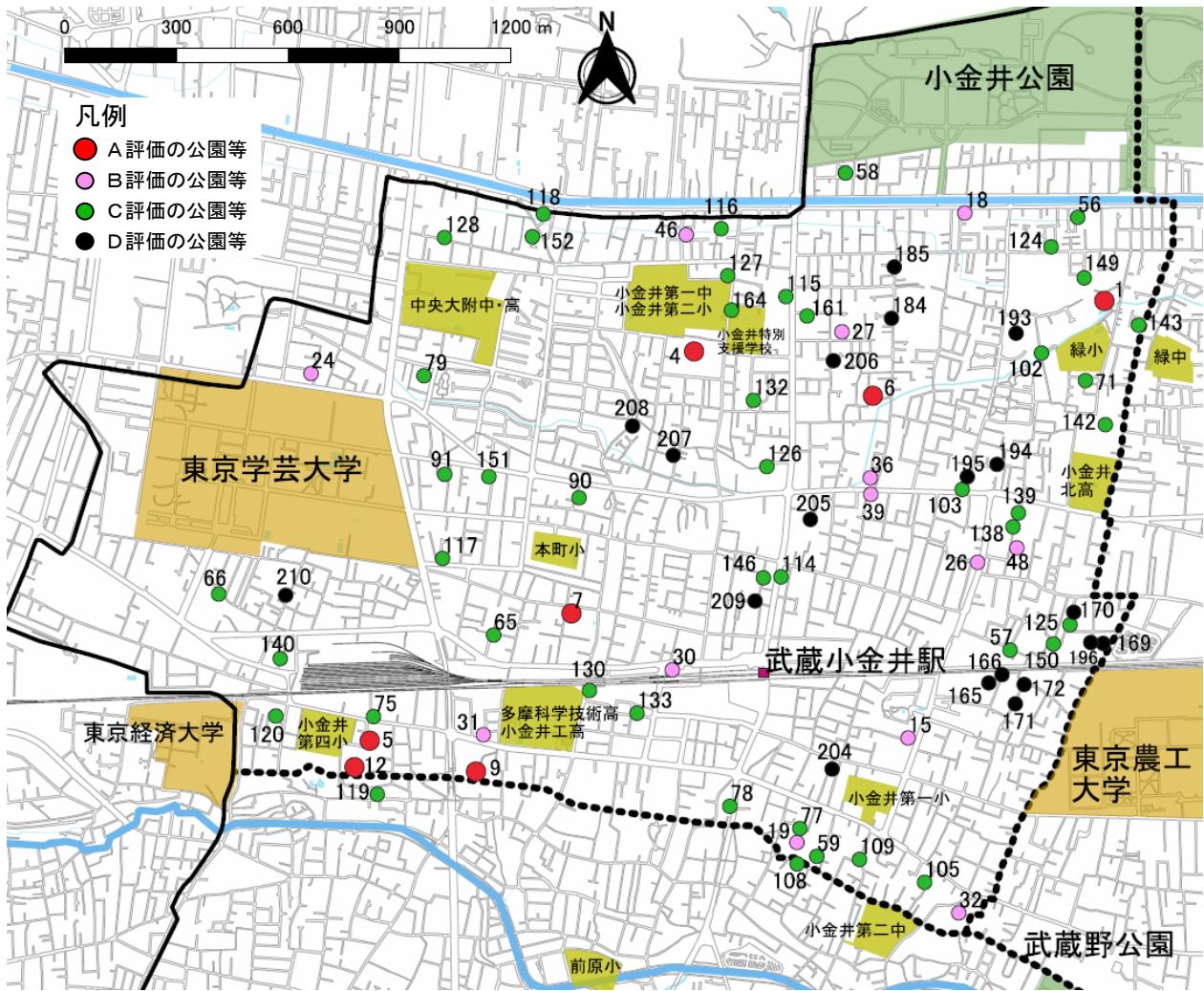
No.	名称	地域分類	町名	《参考》										
				供用開始年	面積（㎡）	借地面積（㎡）	管理者	トイレ	防火水槽	利用者数 ³⁶ （人）	25年一日平均 利用者数 ³⁶ （人）	増加率（短期：2015年→2030年）	利用圏内総人口の	ボランティア活動
165	中町三丁目暫定広場	武蔵小金井	中町	1993年	7,130	0	市	-	-	-	-	-	-	有
166	中町シダレザクラ緑地	武蔵小金井	中町	2010年	63	0	市	-	-	-	-	-	-	-
167	東町三丁目第2子供広場	東小金井	東町	1982年	84	0	市	-	-	4	107%	-	-	
168	リンゴ広場	東小金井	緑町	1993年	43	0	市	-	-	2	106%	-	-	
169	クワノキ広場	武蔵小金井	緑町	1994年	53	0	市	-	-	2	109%	-	-	
170	シデザクラ広場	武蔵小金井	緑町	1997年	44	0	市	-	-	2	109%	-	-	
171	中町三丁目子供広場	武蔵小金井	中町	1978年	75	0	市	-	-	3	107%	-	-	
172	中町三丁目第2子供広場	武蔵小金井	中町	1978年	63	0	市	-	-	3	108%	-	-	
173	前原町五丁目子供広場	野川	前原町	1981年	83	0	市	-	-	4	103%	-	-	
174	前原町さくら広場	野川	前原町	1994年	36	0	市	-	-	2	104%	-	-	
175	貫井南町カリン広場	野川	貫井南町	1998年	53	0	市	-	-	2	102%	-	-	
176	ロウバイ広場	野川	貫井南町	2000年	93	0	市	-	-	4	106%	-	-	
177	貫井南町五丁目子供広場	野川	貫井南町	1975年	69	0	市	-	-	3	102%	-	-	
178	貫井南町五丁目第3子供広場	野川	貫井南町	1979年	66	0	市	-	-	3	103%	-	-	
179	ヤマボウシ広場	野川	貫井南町	1996年	68	0	市	-	-	3	104%	-	-	
180	貫井南町四丁目第3子供広場	野川	貫井南町	1978年	67	0	市	-	-	3	101%	-	-	
181	前原町一丁目第2子供広場	野川	前原町	1976年	40	0	市	-	-	2	98%	-	-	
182	前原町一丁目第4子供広場	野川	前原町	1985年	74	0	市	-	-	3	97%	-	-	
183	七軒家広場	野川	前原町	1988年	90	0	市	-	-	4	97%	-	-	
184	大尽の坂広場	武蔵小金井	桜町	1973年	60	0	市	-	-	3	98%	-	-	
185	桜町一丁目第4子供広場	武蔵小金井	桜町	1976年	35	1	市	-	-	1	96%	-	-	
186	アオダモ公園	野川	貫井南町	1994年	203	0	市	-	-	9	93%	-	-	
187	エンジュ緑地	東小金井	東町	2002年	41	0	市	-	-	-	-	-	-	
188	緑町一丁目緑地	東小金井	緑町	1992年	294	0	市	-	-	-	-	-	-	
189	緑町雑木林緑地	東小金井	緑町	1999年	69	0	市	-	-	-	-	-	-	
190	うめの木緑地	東小金井	緑町	1995年	73	0	市	-	-	-	-	-	-	
191	ヤマモモ緑地	東小金井	緑町	1993年	48	0	市	-	-	-	-	-	-	
192	亀久保緑地	東小金井	緑町	1978年	582	0	市	-	-	-	-	-	-	
193	孟宗竹緑地	武蔵小金井	緑町	1989年	37	0	市	-	-	-	-	-	-	
194	イチジク緑地	武蔵小金井	緑町	1995年	25	0	市	-	-	-	-	-	-	
195	緑町ポケット緑地2	武蔵小金井	緑町	1996年	131	0	市	-	-	-	-	-	-	
196	キンカン緑地	武蔵小金井	緑町	1997年	48	0	市	-	-	-	-	-	-	
197	こぶし緑地	東小金井	中町	1990年	291	0	市	-	-	-	-	-	-	
198	中町雑木緑地	東小金井	中町	1995年	328	0	市	-	-	-	-	-	-	
199	ヤマボウシ緑地	東小金井	中町	1994年	98	0	市	-	-	-	-	-	-	
200	はなみずきの庭	野川	前原町	1991年	44	0	市	-	-	-	-	-	-	
201	サクランボ緑地	野川	前原町	1994年	63	0	市	-	-	-	-	-	-	
202	アンズ緑地	野川	前原町	1993年	37	0	市	-	-	-	-	-	-	
203	スモモ緑地	野川	前原町	1993年	54	0	市	-	-	-	-	-	-	
204	ワダスメモリー緑地	武蔵小金井	本町	1995年	34	0	市	-	-	-	-	-	-	
205	本町木の実緑地	武蔵小金井	本町	2006年	92	0	市	-	-	-	-	-	-	
206	ネムノキ緑地	武蔵小金井	本町	1997年	37	0	市	-	-	-	-	-	-	
207	白樫緑地	武蔵小金井	本町	1993年	404	0	市	-	-	-	-	-	-	

³⁶ 赤字は推計人数。公園等利用実態調査（H27）の結果より、公園等面積と利用者人数の相関関係について近似式で算出。次頁以降も同様。

No.	名称	地域分類	町名	《参考》									
				供用開始年	面積(m ²)	借地面積(m ²)	管理者	トイレ	防火水槽	2015年一日平均利用者数 [※] (人)	増加率(短期:2015年↓2030年)	利用圏内総人口の	ボランティア活動
208	築樋緑地	武蔵小金井	本町	2009年	520	0	市	-	有	-	-	-	-
209	アラカシ緑地	武蔵小金井	本町	2006年	32	0	市	-	-	-	-	-	-
210	貫井北町五丁目緑地	武蔵小金井	貫井北町	1991年	62	0	市	-	-	-	-	-	-
211	貫井南町シャラノキ緑地	野川	貫井南町	1994年	45	0	市	-	-	-	-	-	-
212	モクレン緑地	野川	貫井南町	1995年	40	0	市	-	-	-	-	-	-
213	マユミ緑地	野川	貫井南町	1995年	58	0	市	-	-	-	-	-	-
214	貫井南町サクラ緑地	野川	貫井南町	1975年	70	0	市	-	-	-	-	-	-
215	サンシュユコ緑地	野川	貫井南町	1993年	31	0	市	-	-	-	-	-	-
216	ハナダイコン緑地	野川	貫井南町	2003年	334	0	市	-	-	-	-	-	-

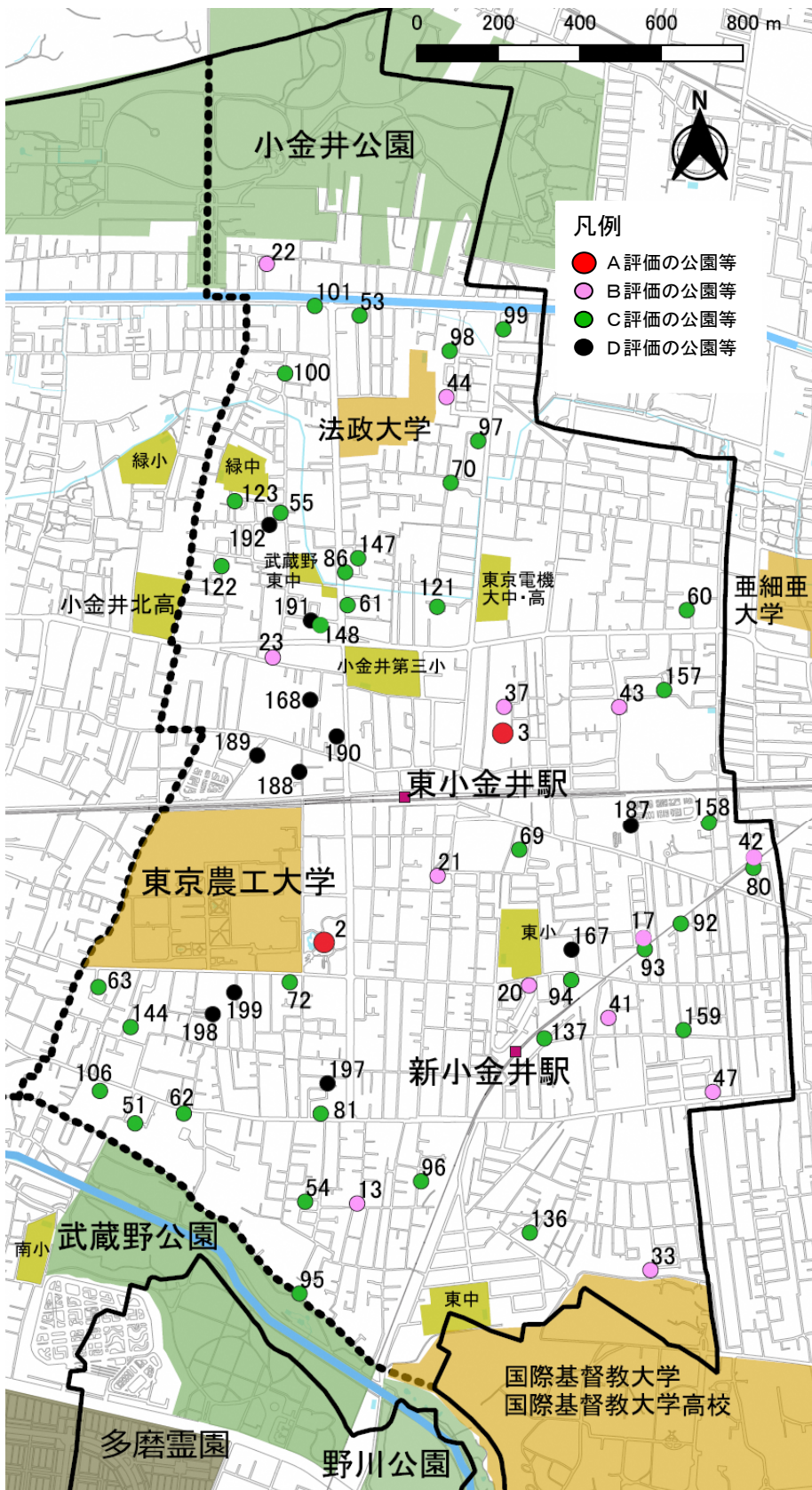
・位置図

武蔵小金井地域



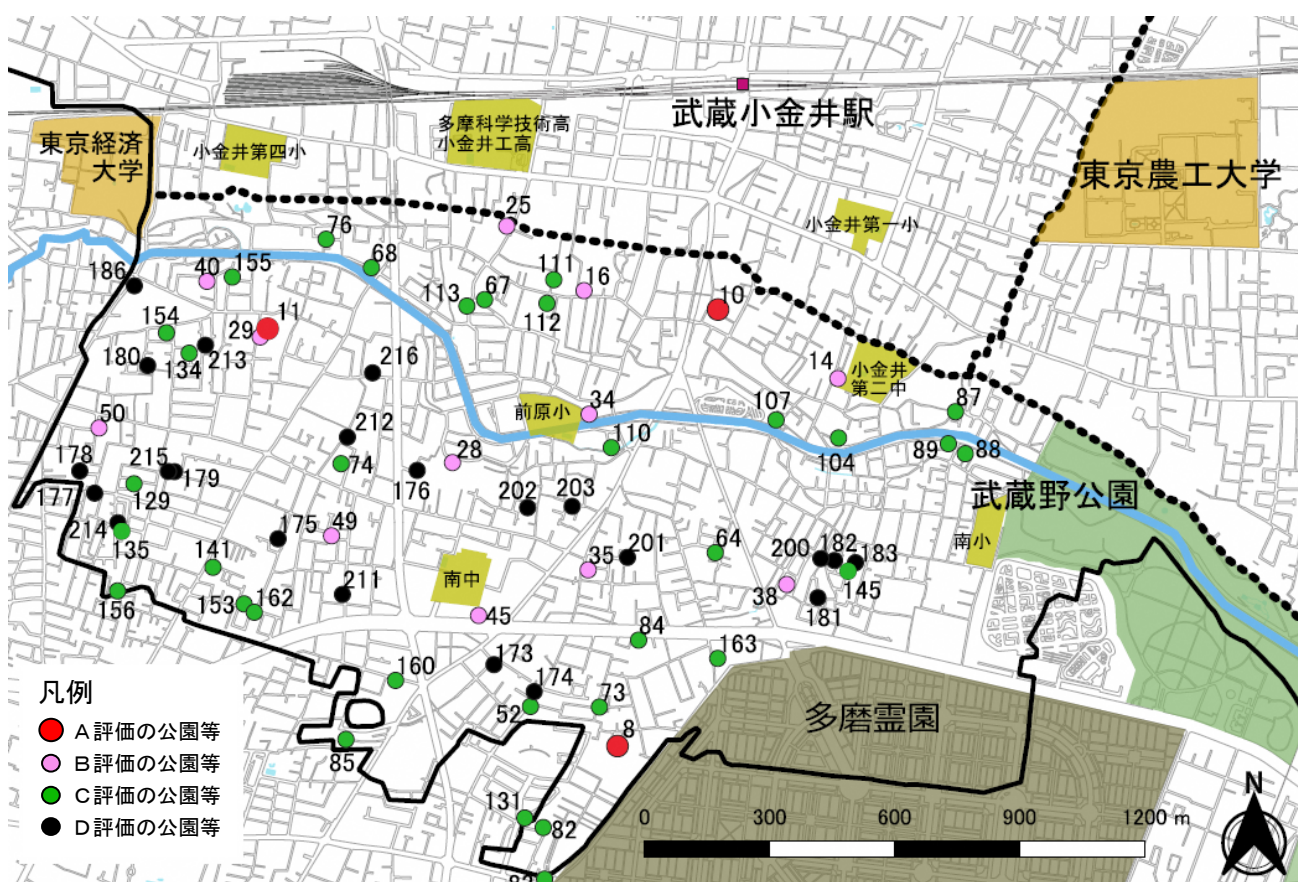
No	評価	名称	No.	評価	名称	No.	評価	名称	No.	評価	名称
1	A	浴恩館公園	57	C	やまもも公園	118	C	玉川上水ポケット緑地	161	C	こもれび公園
4	A	上水公園	58	C	桜町こぶし公園	119	C	三楽緑地	164	C	桜町なかよし公園
5	A	三楽公園	59	C	はげの森緑地	120	C	貫井南町三丁目緑地	165	D	中町三丁目暫定広場
6	A	小長久保公園	65	C	かわせみ公園	124	C	みどり公園	166	D	中町シダレザクラ緑地
7	A	上の原公園	66	C	貫井北町五丁目児童遊園	125	C	ひさかき公園	169	D	クワノキ広場
9	A	滄浪泉園緑地	71	C	緑町さくら公園	126	C	タブノキ公園	170	D	シデザクラ広場
12	A	三楽の森公共緑地	75	C	貫井南町緑の森公園	127	C	ゆずりは公園	171	D	中町三丁目子供広場
15	B	本町ハナミズキ公園	77	C	ハケの上広場	128	C	木の实公園	172	D	中町三丁目第2子供広場
18	B	さくら公園	78	C	前原坂ポケット広場	130	C	ゆりのき広場	184	D	大尽の坂広場
19	B	中町四丁目公共緑地	79	C	ザイフリボク広場	132	C	本町さくら公園	185	D	桜町一丁目第4子供広場
24	B	コウヤマキ公園	90	C	ピラカンサ広場	133	C	本町カツラ公園	193	D	孟宗竹緑地
26	B	緑町竹林緑地帯	91	C	クスノキ広場	138	C	もみじ広場	194	D	イチジク緑地
27	B	桜町公園	102	C	仙川緑地	139	C	緑町五丁目第2子供広場	195	D	緑町ポケット緑地2
30	B	むさこぶらっと公園	103	C	緑町ポケット緑地	140	C	楓の木広場	196	D	キンカン緑地
31	B	貫井南花木公園	105	C	中町さくら緑地	142	C	下山谷の森	204	D	ワダスメモリー緑地
32	B	美術の森緑地	108	C	中町四丁目緑地	143	C	緑町シダレザクラ緑地	205	D	本町木の实緑地
36	B	上山谷緑地公園	109	C	はげのうえ竹の子緑地	146	C	エゴノキ緑地	206	D	ネムノキ緑地
39	B	本町公園	114	C	本町二丁目緑地	149	C	緑町三丁目児童遊園	207	D	白樺緑地
46	B	きりの木公園	115	C	桜町二丁目緑地	150	C	やまざくら公園	208	D	築樋緑地
48	B	はぐくみ公園	116	C	ナツメ緑地	151	C	貫井北町二丁目児童遊園	209	D	アラカシ緑地
56	B	緑町キンモクセイ公園	117	C	貫井北町カリン緑地	152	C	貫井橋公園	210	D	貫井北町五丁目緑地

東小金井地域



No.	評価	名称
2	A	栗山公園
3	A	梶野公園
13	B	アオギリ公園
17	B	東町三丁目児童遊園
20	B	東町シナノキ公園
21	B	東町トチノキ公園
22	B	関野町エノキ公園
23	B	緑町二丁目児童遊園
33	B	シヤラノキ公園
37	B	梶野広場
41	B	もみじの里公園
42	B	パンダ公園
43	B	梶野町くぬぎ公園
44	B	梶野町ハナノキ公園
47	B	やまぼと公園
51	C	ムジナ坂上公園
53	C	雑木林広場
54	C	マルメロ公園
55	C	ナナカマド公園
60	C	もくれん公園
61	C	梶野町四丁目児童遊園
62	C	ヤマボウシ公園
63	C	中町二丁目第2児童遊園
69	C	東町四丁目児童遊園
70	C	梶野町クルミ公園
72	C	中町二丁目児童遊園
80	C	東町二丁目第2児童遊園
81	C	中町二丁目第3児童遊園
86	C	梶野町四丁目子供広場
92	C	東町二丁目緑地
93	C	東町しだれざくら緑地
94	C	ぶどう緑地
95	C	東町五丁目緑地
96	C	二枚橋上緑地
97	C	堀端緑地
98	C	梶野町雑木緑地
99	C	サルスベリ緑地
100	C	木の実緑地
101	C	砂川用水ポケット緑地
106	C	中町マンサク緑地
121	C	緑水郷公園
122	C	梅の木公園
123	C	緑町コニファー公園
136	C	ナツグミ広場
137	C	東町ポケット広場
144	C	かしの木緑地
147	C	さるすべり公園
148	C	四本けやき公園
157	C	梶野町まつのき広場
158	C	東町三丁目第2児童遊園
159	C	東町いちょう広場
167	D	東町三丁目第2子供広場
168	D	リンゴ広場
187	D	エンジュ緑地
188	D	緑町一丁目緑地
189	D	緑町雑木林緑地
190	D	うめの木緑地
191	D	ヤマモモ緑地
192	D	亀久保緑地
197	D	こぶし緑地
198	D	中町雑木緑地
199	D	ヤマボウシ緑地

野川地域



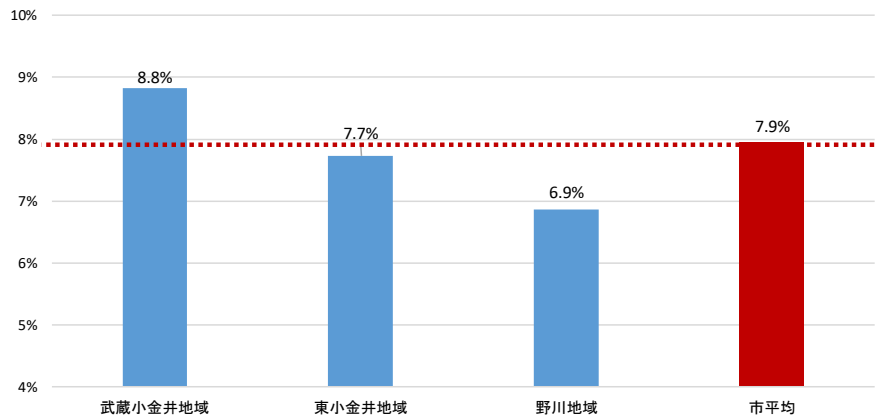
No.	評価	名称	No.	評価	名称	No.	評価	名称
8	A	ぐみの木公園	84	C	前原町クスノキ公園	173	D	前原町五丁目子供広場
10	A	はげの森緑地2	85	C	ふじのき公園	174	D	前原町さくら広場
11	A	貫井けやき公園	87	C	中町一丁目第2子供広場	175	D	貫井南町カリン広場
14	B	中町シダレザクラ公園	88	C	前原町二丁目第2子供広場	176	D	ロウバイ広場
16	B	前原町三丁目公園	89	C	前原町二丁目第3子供広場	177	D	貫井南町五丁目子供広場
25	B	どんぐりの森公共緑地	104	C	四割堰緑地	178	D	貫井南町五丁目第3子供広場
28	B	下弁天子供広場	107	C	天神橋緑地	179	D	ヤマボウシ広場
29	B	貫井けやき広場	110	C	野川サクラ緑地	180	D	貫井南町四丁目第3子供広場
34	B	野川緑地公園	111	C	ユズ緑地	181	D	前原町一丁目第2子供広場
35	B	丸山台公園	112	C	西の台緑地	182	D	前原町一丁目第4子供広場
38	B	前原やなぎ公園	113	C	雑木林緑地	183	D	七軒家広場
40	B	貫井かしのき公園	129	C	リーフィア貫井南公園	186	D	アオダモ公園
45	B	ハナミズキ公園	131	C	前原町四丁目公園	200	D	はなみずきの庭
49	B	貫井南遊歩道公園	134	C	貫井南町四丁目第4児童遊園	201	D	サクラランボ緑地
50	B	なつみかん公園	135	C	サンシュユ公園	202	D	アンズ緑地
52	C	イチョウ公園	141	C	貫井南町一丁目第2子供広場	203	D	スモモ緑地
64	C	前原町ハナミズキ公園	145	C	前原町シラカシ緑地	211	D	貫井南町シャラノキ緑地
67	C	ナツメ広場	153	C	ネムノキ公園	212	D	モクレン緑地
68	C	貫井南町四丁目第2子供広場	154	C	ムクロジ公園	213	D	マユミ緑地
73	C	もみの木公園	155	C	貫井南町大けやき公園	214	D	貫井南町サクラ緑地
74	C	かきの木公園	156	C	貫井南つつじ公園	215	D	サンシュユ緑地
76	C	貫井もちのき公園	160	C	はなもも広場	216	D	ハナダイコン緑地
82	C	モッコク公園	162	C	貫井南町一丁目第3子供広場			
83	C	前原町四丁目児童遊園	163	C	メグスリノキ公園			

②地域別の評価結果

指標 1. 公園・緑地等面積率

公園・緑地等面積率は市平均の 7.9% に対し³⁷、武蔵小金井地域は高くなっていますが、野川地域は低くなっています³⁸。

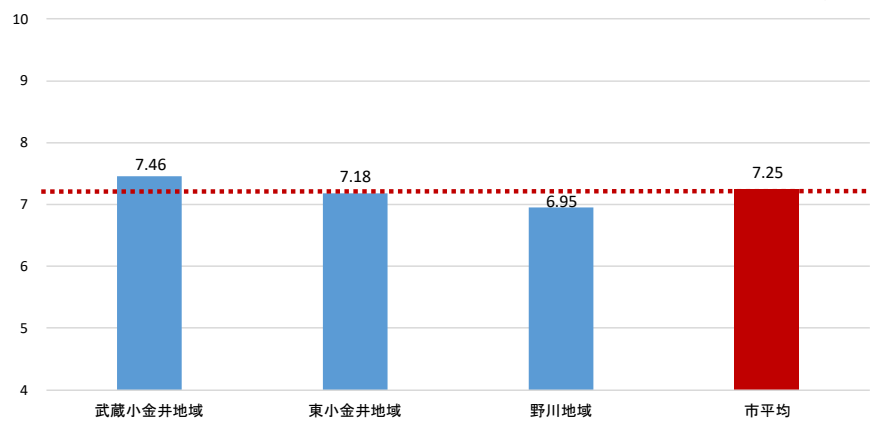
図 4-1 指標 1. 公園・緑地等面積率（単位：%）



指標 2. 住民一人当たりの公園・緑地等面積

住民一人当たりの公園・緑地等面積は市平均の 7.25 m² (2015 年 10 月 1 日現在) に対し³⁹、武蔵小金井地域はやや高く、野川地域はやや低くなっていますが、公園・緑地等面積率(指標 1)ほどの差はみられません。

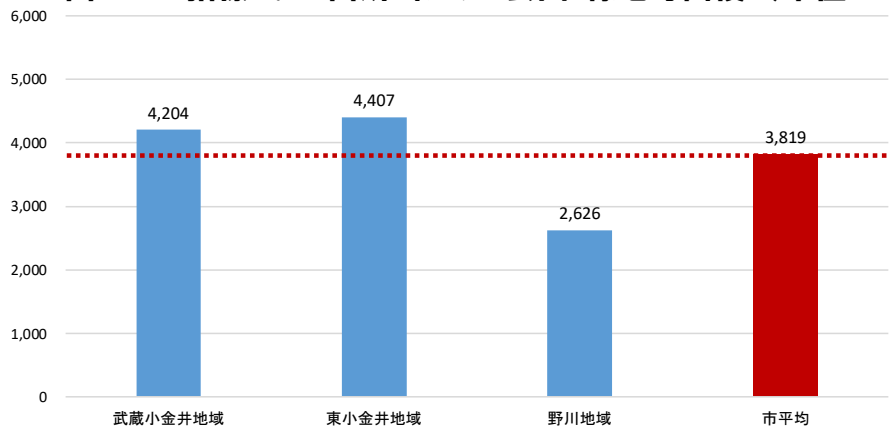
図 4-2 指標 2. 住民一人当たりの公園・緑地等面積（単位:m²/人）



指標 3. 一箇所当たりの公園・緑地等面積

一箇所当たりの公園・緑地等面積は市平均の 3,819 m² に対し、武蔵小金井地域と東小金井地域はやや高くなっており、野川地域は低くなっています⁴⁰。

図 4-3 指標 3. 一箇所当たりの公園・緑地等面積（単位:m²）



³⁷ 平成 30 年度東京都公園調書では 7.5% (平成 30 年 4 月 1 日現在) であるが、集計方法が異なるため値に差が生じている (東京都公園調書では 129 箇所、総面積 42,290 m² を対象に計算されている)。

³⁸ 国分寺崖線には複数地域に跨る公園・緑地等が多い中、たまたま野川地域よりの公園・緑地等が少なかったため、野川地域の公園・緑地等面積は低くなっている。今回は野川地域の指標値は低くなったが、ここではあくまで参考値とすべきである。また野川地域には農地も多く、公園・緑地等以外のもどりも多くある (次ページ参照)。

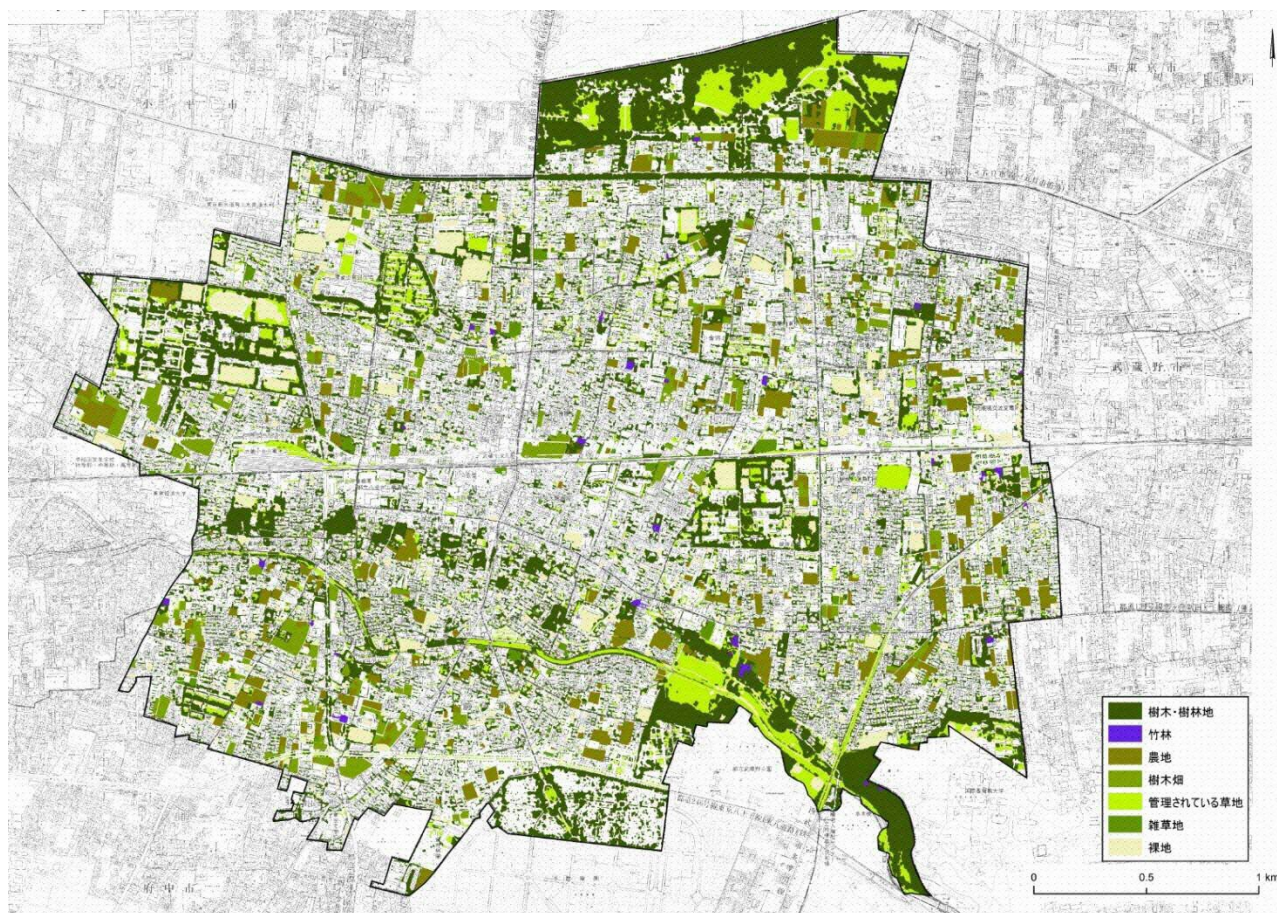
³⁹ 平成 30 年度東京都公園調書では一人当たり 6.8 m² (平成 30 年 4 月 1 日現在、人口 124,163 人。「東京都の人口(推計)平成 30 年 4 月 1 日現在」(東京都総務局統計部)より) であるが、集計方法が異なるため値に差が生じている (東京都公園調書では 129 箇所、総面積 42,290 m² を対象に計算されている)。

⁴⁰ 注 15 と同様

※公園・緑地等以外のみどり

一般にみどりは公園・緑地等以外にも農地や水辺も含まれ、野川地域には公園・緑地等の面積は少なくとも農地や水辺空間の面積は多くあります。

図 4-4 (参考) 緑被分布図 ※再掲

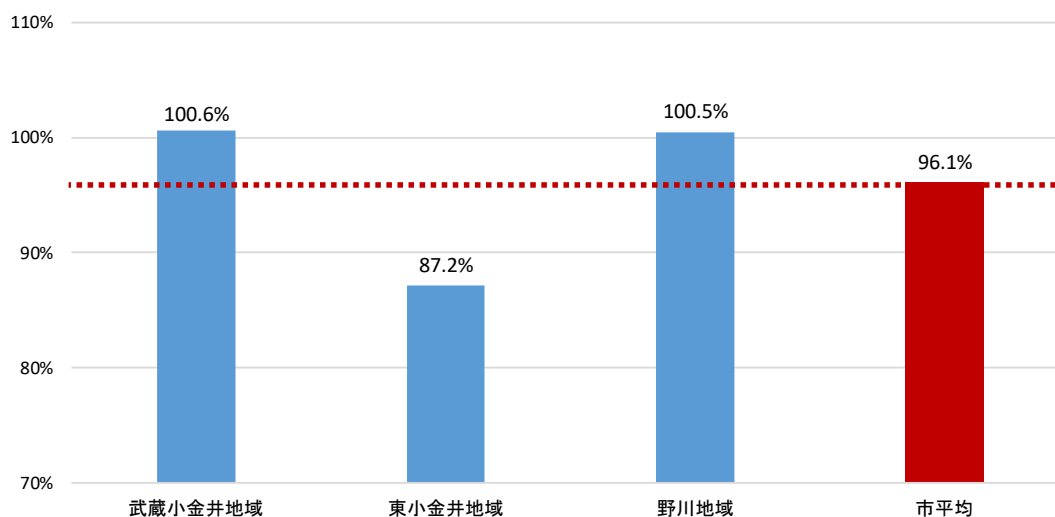


小金井市緑の基本計画 (平成 23 年 3 月) より

指標4. 総人口増減率（短期：2015年→2030年）

短期（2030年までの概ね10年間程度）の総人口の増減率は市平均の96.1%に対し、武蔵小金井地域と野川地域では現状維持、東小金井地域では1割程度減少すると見込まれます。

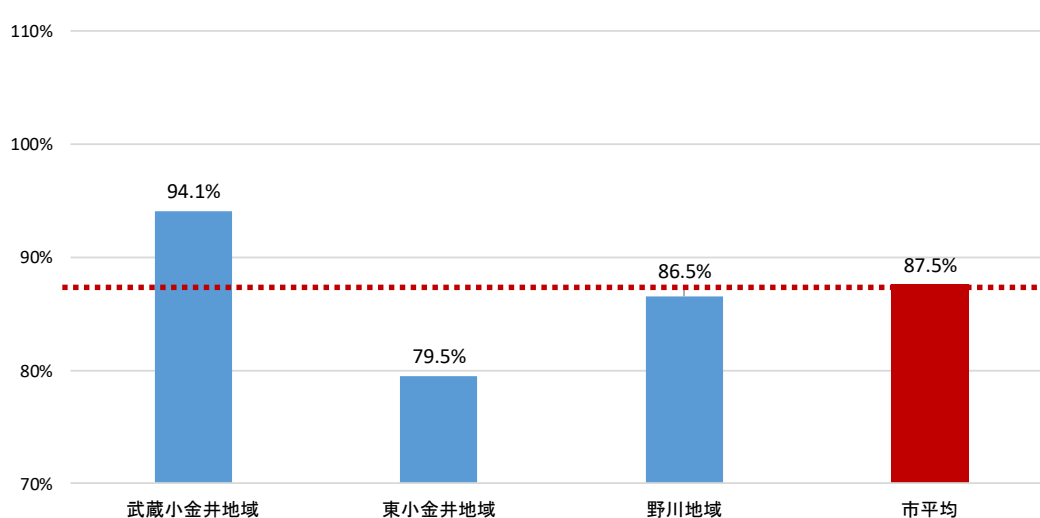
図4-5 指標4. 総人口増減率(短期:2015年→2030年) (単位:%)



指標5. 総人口増減率（長期：2015年→2050年）

長期（2050年までの概ね30年間程度）の総人口の増減率は市平均の87.5%に対し、武蔵小金井地域では94.1と比較的減少幅がいずれの地域も同程度でほぼ地域差はありません。

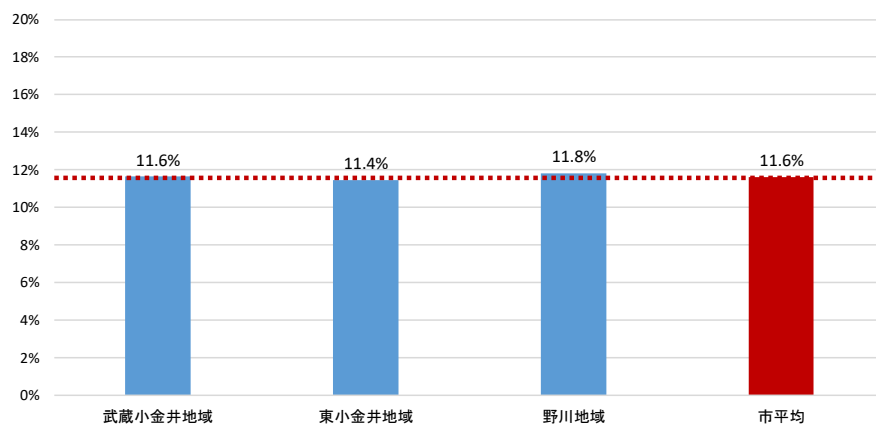
図4-6 指標5. 総人口増減率(長期:2015年→2050年) (単位:%)



指標6. 年少人口率(2015年)

年少人口率は市平均の11.6%に対し、いずれの地域も同程度でほぼ地域差はありません。

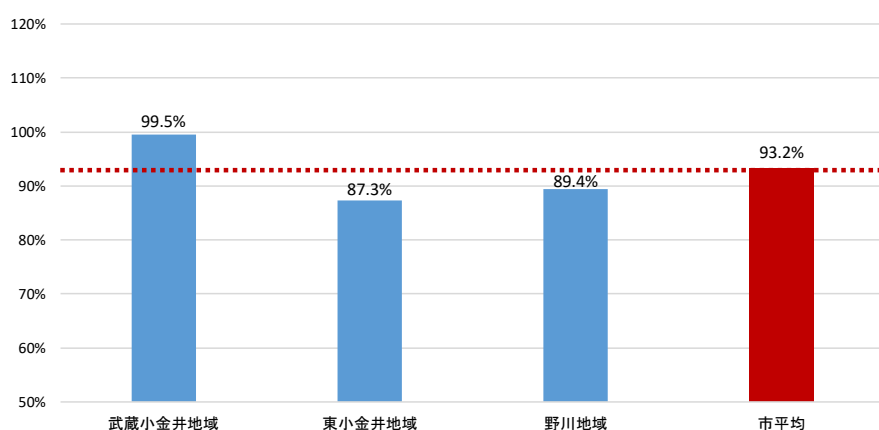
図4-7 指標6. 年少人口率(2015年)(単位:%)



指標7. 年少人口増加率(短期:2015年→2030年)

短期(2030年までの概ね10年間程度)の年少人口の増減率は市平均の93.2%に対し、武蔵小金井地域ではやや高く現状維持となっており、東小金井地域や野川地域では減少幅がやや高くなっています。

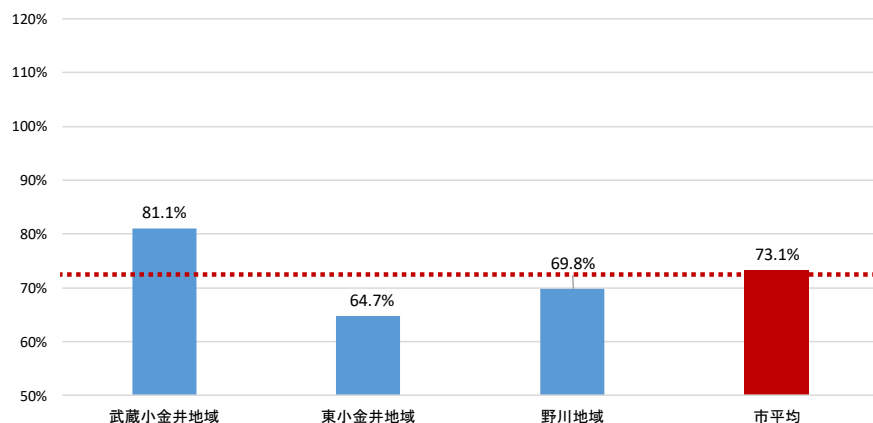
図4-8 指標7. 年少人口増減率(短期:2015年→2030年)(単位:%)



指標8. 年少人口の増加率(長期:2015年→2050年)

長期(2050年までの概ね30年間程度)の年少人口の増減率は市平均の73.1%に対し、武蔵小金井地域では減少幅が比較的少なく81.1%、東小金井地域や野川地域では減少幅が大きくなっています。

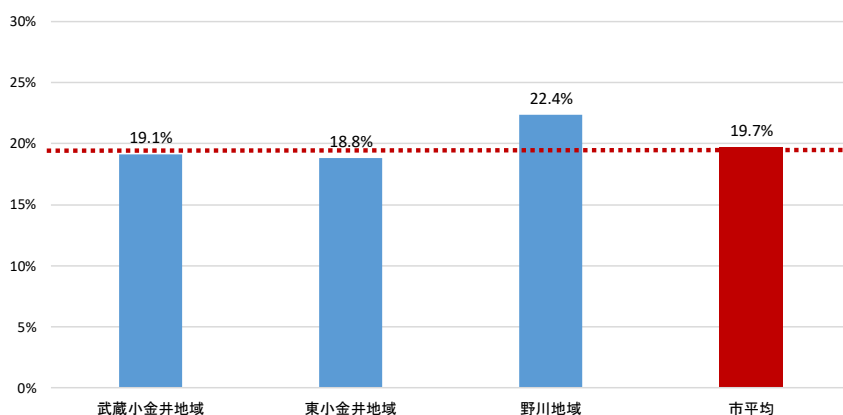
図4-9 指標8. 年少人口増減率(長期:2015年→2050年)(単位:%)



指標 9. 老年人口率 (2015 年)

老年人口率は市平均の 19.7% に対し、野川地域では 22.4% とやや高く、高齢化が進んでいます。

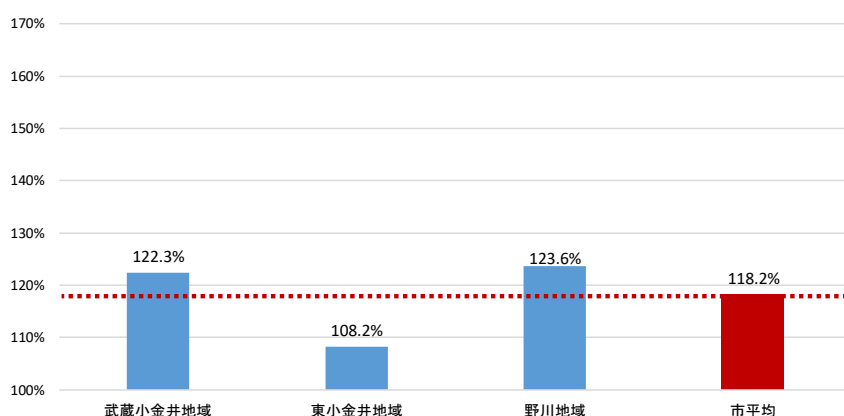
図 4-10 指標 9. 老年人口率(2015 年) (単位:%)



指標 10. 老年人口の増減率 (短期: 2015 年→2030 年)

短期 (2030 年までの概ね 10 年間程度) の老年人口の増減率は全市平均の 118.2% に対し、武蔵小金井地域や野川地域ではやや高く、東小金井地域ではやや低くなっています。

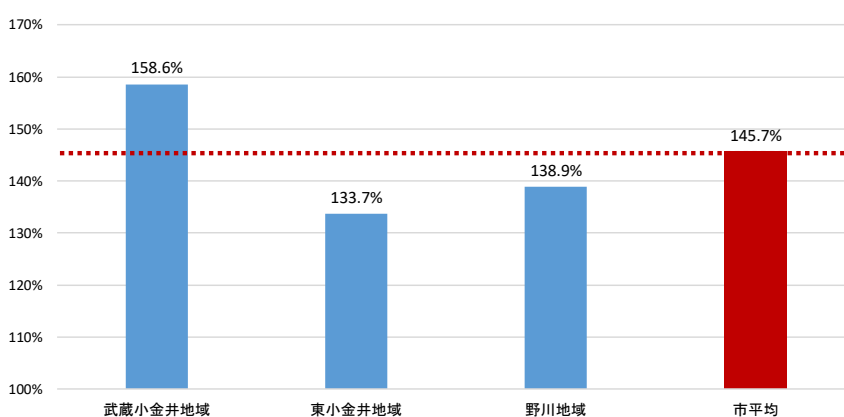
図 4-11 指標 10. 老年人口増減率(短期:2015 年→2030 年) (単位:%)



指標 11. 老年人口の増減率 (長期: 2015 年→2050 年)

長期 (2050 年までの概ね 30 年間程度) の老年人口の増減率は全市平均の 145.7% に対し、いずれの地域も高齢化は進行していきますが、とくに武蔵小金井地域は 158.6% と高く、高齢化が早く進行していくと考えられます。

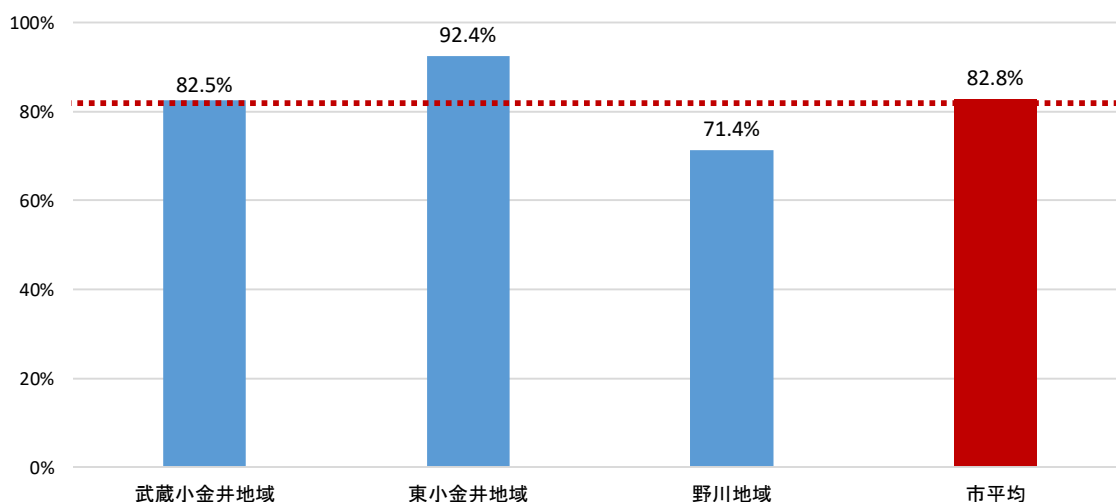
図 4-12 指標 11. 老年人口増減率(長期:2015 年→2050 年) (単位:%)



指標 12. 2,500 m²以上の大きな公園・緑地等が利用できる地域の面積割合

2,500 m²以上の大きな公園・緑地等が利用できる地域の面積割合は市平均の 82.8% に対し、東小金井地域は 92.4% と高く、比較的充足していますが、野川地域は 71.4% と低く、不足しています。

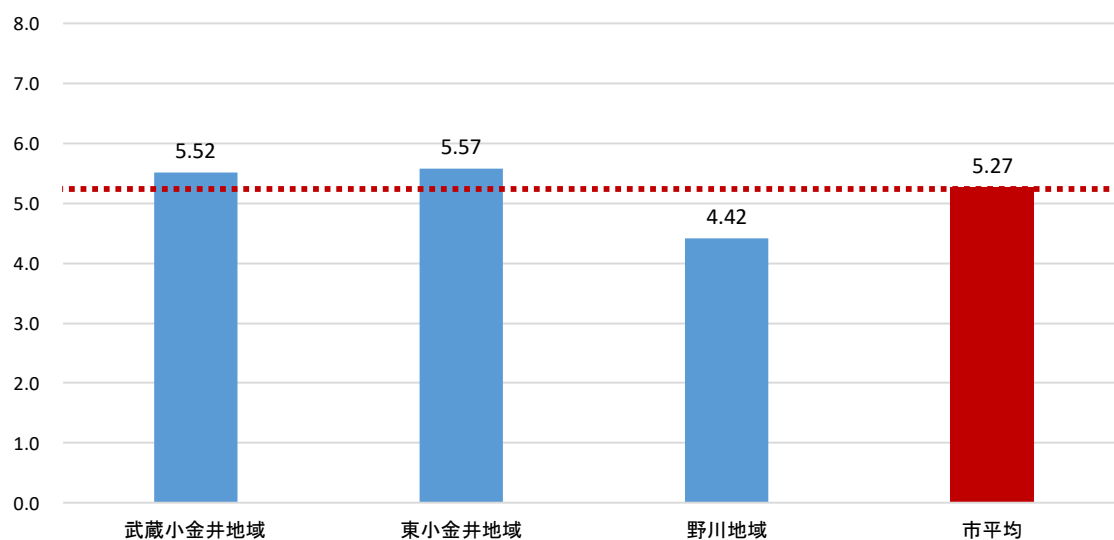
図 4-13 指標 12. 2,500 m²以上の大きな公園・緑地等が利用できる地域の面積割合（単位：%）



指標 13. 公園・緑地等利用圏の重複度

公園・緑地等利用圏の重複度は市平均の指標値 5.27 に対し、野川地域は 4.42 と低く、公園・緑地等が密集しており、効率的な配置がなされていないことがわかります。

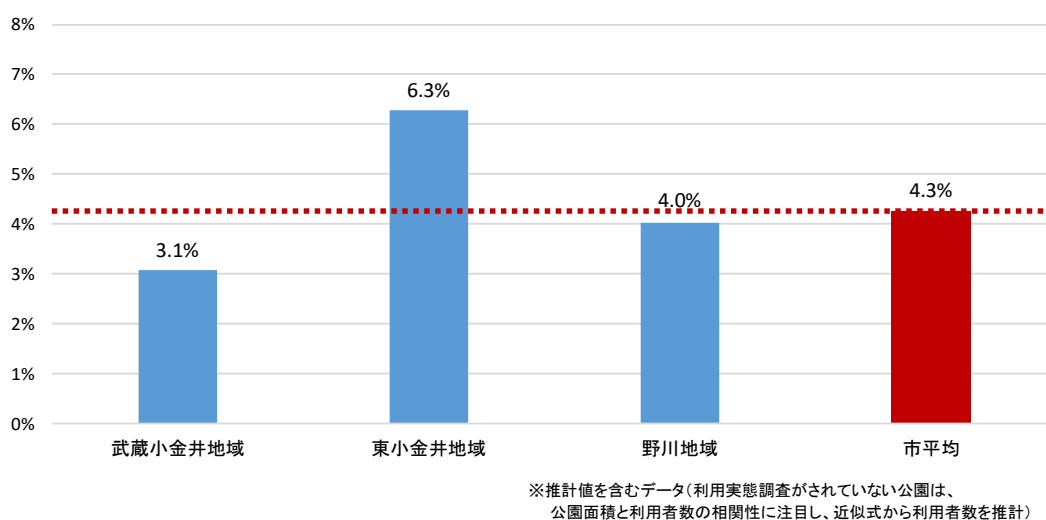
図 4-14 指標 13. 公園・緑地等利用圏の重複度



指標 14. 公園・緑地等利用圏人口に対する利用率

公園・緑地等利用圏人口に対する利用率⁴¹は市平均の 4.3% に対し、武蔵小金井地域は 3.1% と低く、東小金井地域は 6.3% と高くなっています。

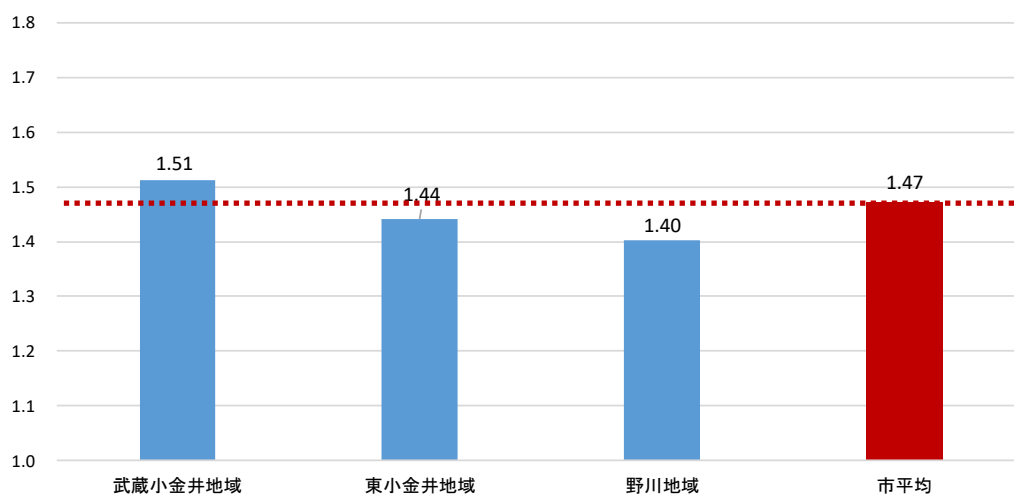
図 4-15 指標 14. 公園・緑地等利用圏人口に対する利用率（単位：%）



指標 15. 公園・緑地等の平均接道数

公園・緑地等の平均接道数は市平均の 1.47 本に対し、野川地域では 1.40 本とやや低く、アクセスが良くない公園・緑地等がやや多く分布していると考えられます。

図 4-16 指標 15. 公園・緑地等の平均接道数（単位：本）



⁴¹ 利用率を導出する際に使用している公園利用者数のデータは、53 公園については公園等利用実態調査 (H27) から、3 箇所の都立公園については東京都の公園マネジメントプランから得られた実績値を基にしているが、その他の公園・緑地等については公園・緑地等面積を基にした推測値であるため、ここでの指標値はあくまでも参考値とすべきである。

指標 16. みどりのネットワークとの整合性

みどりのネットワークとの整合性は市平均の 46.4%に対し、武蔵小金井地域は 52.6%、東小金井地域は 52.2%と高くなっています。一方で野川地域はみどりのネットワークと整合性のある公園・緑地等が多いものの、市の南側エリアには整合性のない公園・緑地等も多いため、35.1%と低くなっています。

図 4-17 指標 16. みどりのネットワークとの整合性（単位：%）

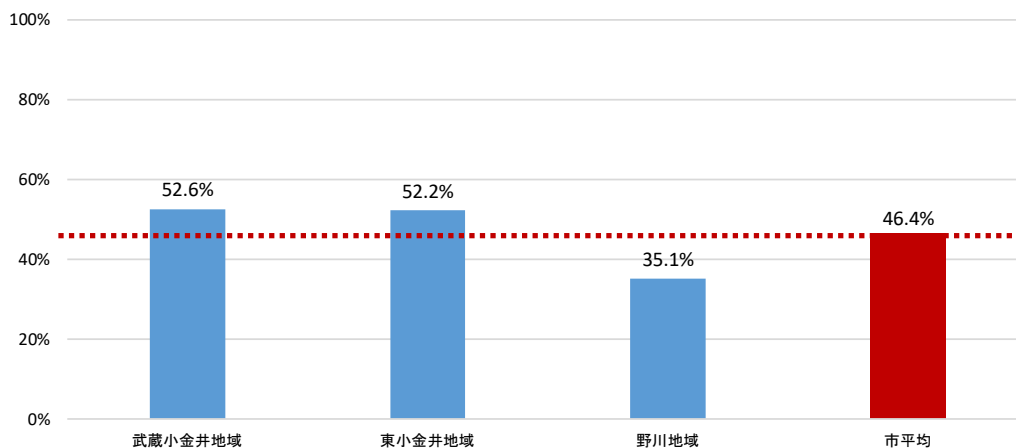


図 4-18 (参考)みどりのネットワークとの整合性のある公園・緑地等の分布 ※再掲

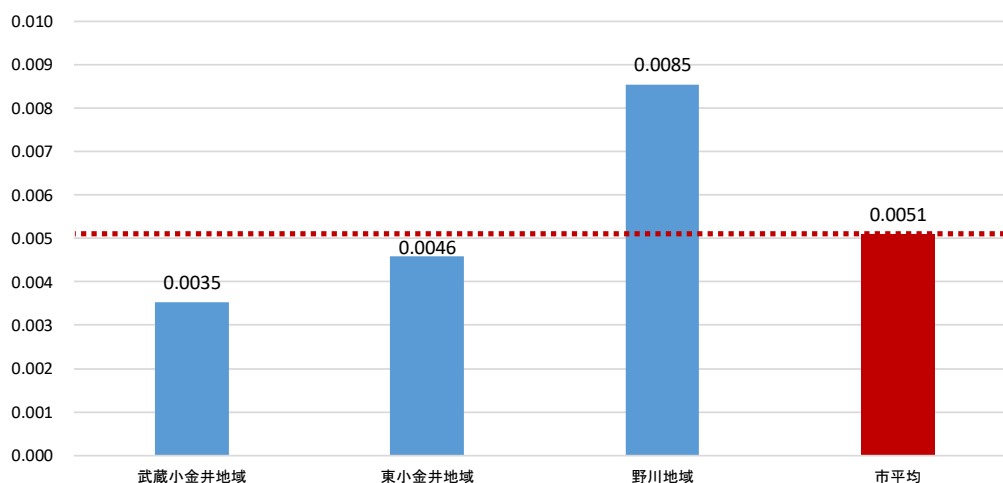


※みどりの将来像は「小金井市緑の基本計画」を基に凡例を一部加工したもの
 ※公園・緑地等の分布は平成 30 年 5 月時点

指標 17. 水辺空間（野川または玉川上水）との近傍性

水辺空間との近傍性は市平均の指標値に対し、武蔵小金井地域は低くなっている一方で、野川地域は野川に近いこともあり指標値が高くなっています。

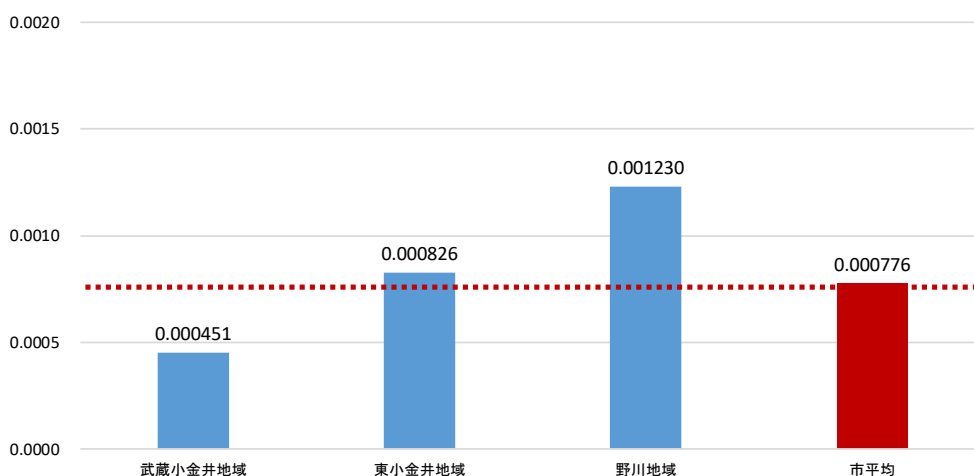
図 4-19 指標 17. 水辺空間(野川または玉川上水)との近傍性



指標 18. 住民一人当たりの公園・緑地等の防災機能指数

住民一人当たりの公園・緑地等の防災機能指数は市平均に対し、野川地域では高く、公園・緑地等における防災機能が比較的充実しています⁴²。

図 4-20 指標 18. 住民一人当たりの公園・緑地等の防災機能指数

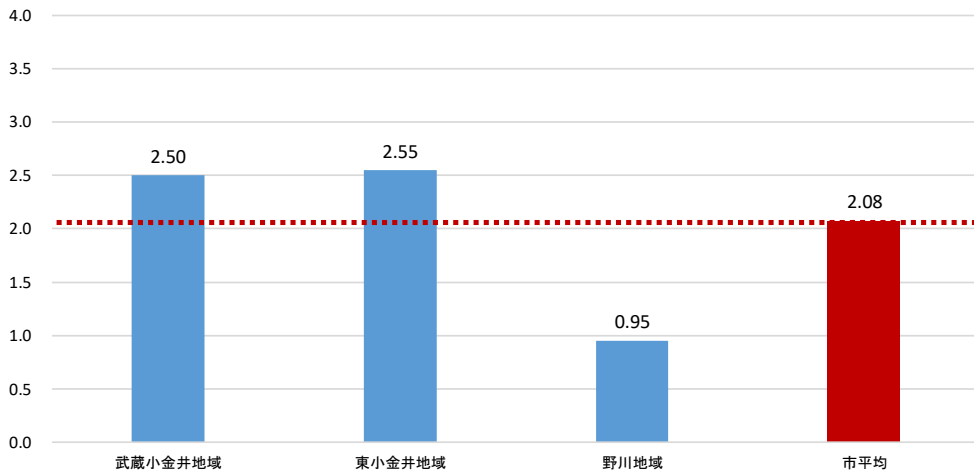


⁴²公共施設・民間施設等にも防災設備は配備されているため、今回の指標は地域内に防災機能が不足していることを意味するものではない。あくまで地域内の公園・緑地等に限った防災機能の水準についての指標である。

指標 19. 公園・緑地等利用圏内に存在する平均集客施設数

公園・緑地等利用圏内に存在する平均集客施設数は市平均の 2.08 か所に対し、武蔵小金井地域と東小金井地域はやや高くなっており、人口以上に多くの方が公園・緑地等を利用する可能性が高い一方で、その分、防災機能の強化が求められます。一方で野川地域では 0.95 か所と半分以下となっており、住民以外の公園利用者が少ない可能性が高く、地域に根差した公園の活性化が求められます。

図 4-21 指標 19. 公園・緑地等利用圏内に存在する平均集客施設数（単位：か所）

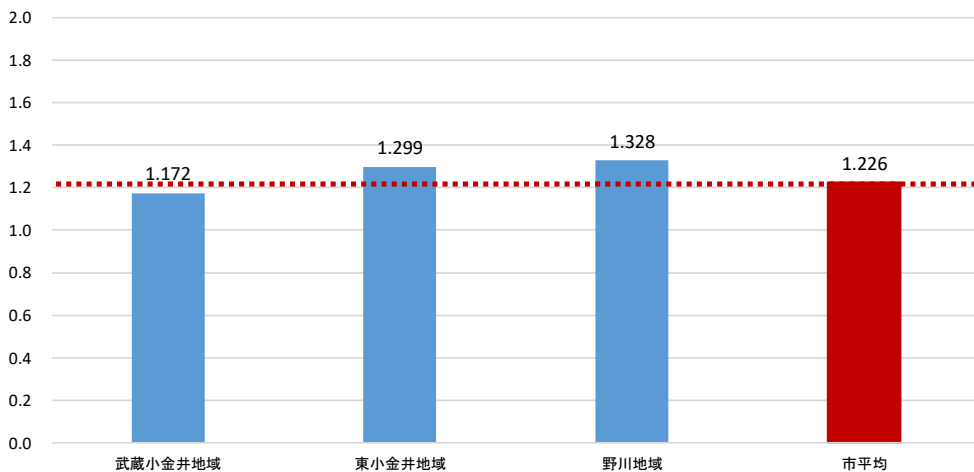


指標 20. 休息・レクリエーション機能指数の平均値

休息・レクリエーション機能指数の平均値は市平均の指標値に対して、武蔵小金井地域でやや低く、東小金井地域、野川地域でやや高くなっています。

図 4-22 指標 20. 休息・レクリエーション機能指数の平均値

図4-20 指標20. 休息・レクリエーション機能指数の平均値



(3) 評価結果のまとめ

①公園等の評価結果まとめ

市が管理する 216 か所の公園等について以下のように整理されます⁴³。

A評価には 12 か所の公園等が分類され、地域の核となる重要な公園等であると考えられますが、武蔵小金井地域での割合が高くなっています。

B評価には 38 か所の公園等が分類され、地域に必要な公園等であると考えられますが、東小金井地域での割合が高くなっています。

C評価には 114 か所の公園等が分類され、現状維持を図る公園等ですが、東小金井地域での割合が高くなっています。

D評価には 52 か所の公園等が分類され、土地利用転換を含めた有効な利活用検討を図る必要がありますが、野川地域での割合が高くなっています。

表 4-23 評価別の公園等数の内訳

評価	全市	地域別内訳		
		武蔵小金井地域	東小金井地域	野川地域
A	12 か所 (6%)	7 か所 (8%)	2 か所 (3%)	3 か所 (4%)
B	38 か所 (18%)	13 か所 (15%)	13 か所 (21%)	12 か所 (17%)
C	114 か所 (53%)	45 か所 (54%)	45 か所 (58%)	33 か所 (47%)
D	52 か所 (24%)	19 か所 (23%)	19 か所 (18%)	22 か所 (31%)
計	216 か所 (100%)	84 か所 (100%)	62 か所 (100%)	70 か所 (100%)

※市が管理する公園・緑地のみを抜粋

表 4-24 評価別の公園等の位置づけ

評価	位置づけ
A	地域の核となるような重要な公園等であり、理想的な公園像に向けて、重点的に公園等のあり方を誘導していく公園・緑地
B	地域に必要な公園等として、地域ニーズを踏まえながら管理・活用を図る公園等
C	都市のオープンスペースとして貴重な公園等であり、環境機能や防災機能の維持・活用を図る公園等
D	現状で管理・活用が非効率な公園等であり、有効な利活用について今後一から検討し直すことが求められる公園等

⁴³ 評価については検討の参考にするものであり、具体的施策の展開に際しては地域の意向等を踏まえ、柔軟な運用を図る。

②地域別の評価結果まとめ

項目	武蔵小金井地域	東小金井地域	野川地域
公園・緑地等の量	・土地の面積に占める割合は高いが、人口も多いため、一人当たりの公園・緑地等面積は市の平均程度。【指標 1、2】	・土地の面積に占める割合も一人当たりの公園・緑地等面積も平均程度。【指標 1、2】	・土地の面積に占める割合は低いが、人口が少ないため一人当たりの公園・緑地等面積は平均に近い。【指標 1、2】
人口総数	・人口減少は他地域と比べ最も緩やかに進行する。【指標 4、5】	・人口減少は比較的早く進行する。【指標 4、5】	・人口減少は比較的緩やかに進行する。【指標 4、5】
人口構成	・他地域と比べて少子化の進行は遅いが、高齢者数の伸びは長期的に著しい。【指標 6～11】	・他地域と比べて現状で少子化の進行は早い、高齢者数の伸びは緩やかである。【指標 6～11】	・他地域と比べて現状で高齢化が最も進んでいて、今後も進行していく。【指標 6～11】
公園・緑地等の質	・一か所当たりの面積はやや広い。【指標 4】	・一か所当たりの面積は比較的広い。【指標 4】	・一か所当たりの面積は狭い。【指標 4】 ・利用圏が重複している公園・緑地等が多い（比較的密集している）。【指標 13】
公園・緑地等の利用しやすさ	・大きな公園・緑地等を利用しやすい地域は 8 割程度。【指標 12】 ・利用圏人口に対する利用率はやや低い。【指標 14】	・大きな公園・緑地等を利用しやすい地域は 9 割程度。【指標 12】 ・利用圏人口に対する利用率は高い。【指標 14】	・大きな公園・緑地等を利用しやすい地域は 7 割程度でやや少ない。【指標 12】 ・接道本数の平均値はやや低い（アクセスしにくい）。【指標 15】
環境機能	・水辺空間との近傍性は低い。【指標 17】	・みどりのネットワークとの整合性、水辺空間との近傍性ともに平均程度。【指標 16、17】	・みどりのネットワークとの整合性は低い。【指標 16】 ・水辺空間との近傍性は高い。【指標 17】
防災機能	・集客施設が多く、避難所としての公園の重要性が高い。【指標 19】	・集客施設が多く、避難所としての公園・緑地等の重要性が高い。【指標 19】	・地域住民一人当たりに対して防災機能は高い。【指標 18】
休息・レクリエーション機能	・公園の休息・レクリエーション設備はやや不足。【指標 20】	・公園の休息・レクリエーション設備は比較的充実。【指標 20】	・公園の休息・レクリエーション設備は比較的充実。【指標 20】

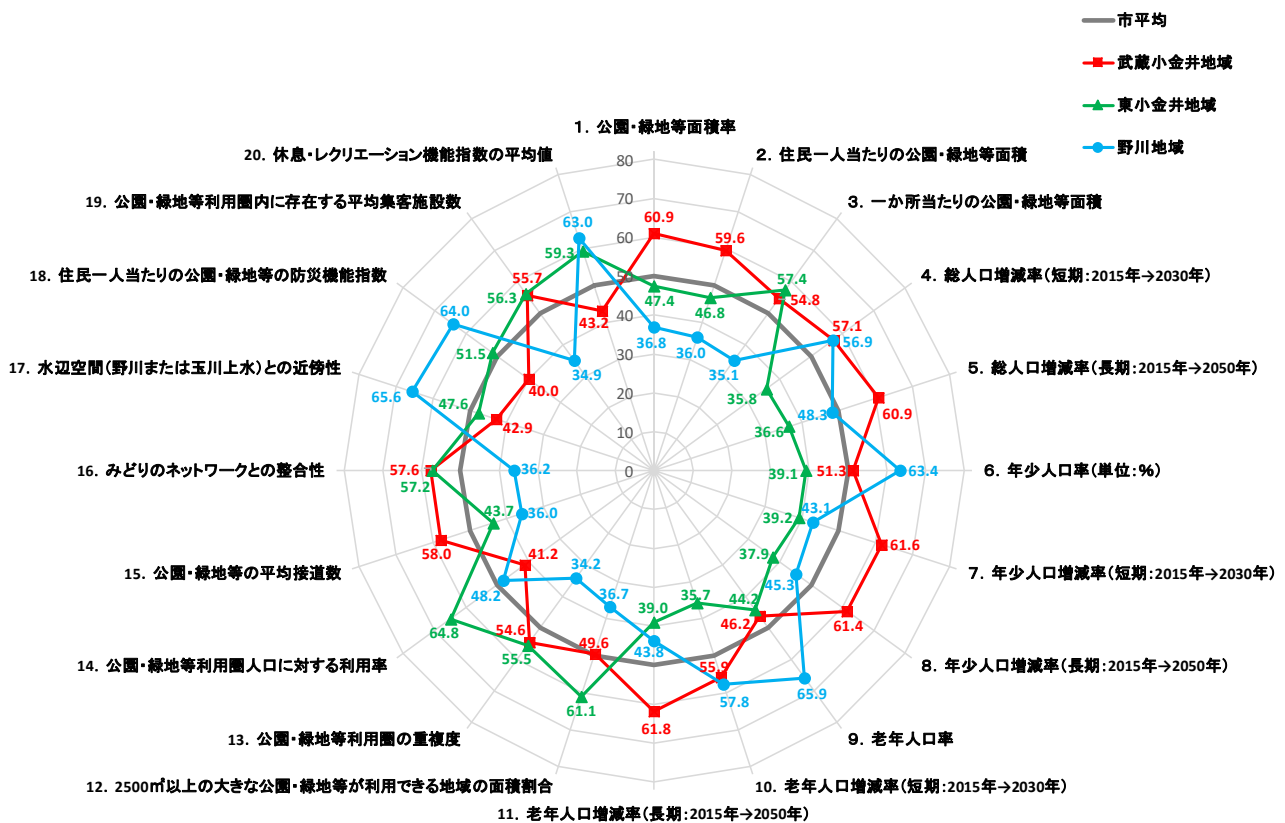
各指標について偏差値を算出する⁴⁴と以下になります。

武蔵小金井地域では公園・緑地等そのものの面積は多いですが、人口が多いため一人当たりの公園・緑地等面積は平均程度となっています。また集客施設も多いため、住民以外の利用も想定した公園整備の必要があります。

東小金井地域は平均的な指標が多くなっており、公園の利用率が高く、大きな公園・緑地等利用できる地域も多く、市内では比較的理想的な公園・緑地等の利活用が進んでいると考えられます。

野川地域は公園・緑地等の面積が小さく、利用圏の重複も多く、接道も含め配置が非効率的になっていると考えられます。集客施設は少なく、公園が地域住民に利用されていると考えられることから、野川への近さという資源と防災機能の高さを活かし、地域密着型の公園整備を進める必要があります。

図 4-25 各地域の公園・緑地等の評価(市平均を 50 とした場合の偏差値)



⁴⁴ レーダーチャート内の偏差値のうち「指標 2. 住民一人当たりの公園・緑地等面積」、「指標 4. 総人口増加率(短期:2015年→2030年)」、「指標 5. 総人口増加率(長期:2015年→2050年)」、「指標 6. 年少人口率」、「指標 7. 年少人口増加率(短期:2015年→2030年)」、「指標 8. 年少人口増加率(長期:2015年→2050年)」、「指標 10. 老年人口増加率(短期:2015年→2030年)」は、実際には大きな差ではないため(前頁までのそれぞれの棒グラフを参照)、参考値とすべきである。

第5章 課題のまとめ

5-1. 市全体を取り巻く課題

人口や公園・みどり等の現況、公園等の評価、利用実態分析、市民意向などを踏まえ、本市全体の公園等を取り巻く環境には以下の5つの課題があります。

課題1 地域資源や公園等の特徴を活かした魅力の向上

本市には国分寺崖線や野川、都市農地といった自然がある一方で、浴恩館をはじめとした文化財もあり、このような歴史・文化・自然といった地域資源を活かした公園整備を進めることで魅力的な公園等の環境が創出されます。

課題2 人口構成・利用者層に合わせた機能配置

本市では大小公園の偏りがみられ、人口の分布や構成に合わせた公園等の配置を進める必要があります。また老若男女それぞれにとって使いやすい公園等が分布するように、ターゲットを想定した公園整備と機能分配による配置を検討する必要があります。

課題3 多様化するニーズに対応した機能分担

公園等の多面的な機能を発揮するため、特定の地域に偏らない機能分担が求められます。防災機能や広場等のレクリエーション機能、ベンチやトイレ等の休息機能については市全体を鑑みて効率的な配置を検討していく必要があります。

課題4 市民目線による利用のしやすさの向上

本市では市民によるボランティア活動が盛んであり、公園整備についても市民の関心は一定程度あるため、公園施設整備・植樹・維持管理等における市民意見の反映に取り組み、ルール共有、情報発信に努めていくことがより良い公園等につながると考えます。また、現状で利用率の低い公園等や使いにくい小さな公園等については、活性化や土地利用転換の検討を進めることによって利用しやすい公園等を創出する必要があります。

課題5 増加する公園等の維持管理の負担への対応

今後、人口減少に伴う財政縮減が図られることが見込まれることから、公園等の維持管理については効率的に行う必要があります。行政と地域・ボランティアと意思疎通や情報共有を図ったり、民間活力の活用によって、公民連携で公園等の維持管理に努めることが必要です。

5-2. 地域別の課題

本市を武蔵小金井地域、東小金井地域、野川地域の三地域の区分で分けたときに、各地域の公園等の整備状況には特徴があり、それぞれに課題があります。

武蔵小金井地域の課題

①多様な主体の利用を想定した公園整備

人口が多く、集客施設も多いため、地域内外を含め、多様な人々が来訪すると考えられます。大学や民間のオープンスペースの配置を考慮し、公園整備の必要性の検討が求められます。

②公園利用率の向上

人口の母数が多いこともありますが、地域で全般的に利用率が低くなっています。民間施設や公共施設と公園等の適切な機能分担を図り、魅力的な公園等の整備が求められます。



東小金井地域の課題

①機能の均等配置

市内を代表する栗山公園や梶野公園に対し、新小金井駅周辺の公園等には機能の不足が生じており、将来人口を見据えた均等な機能配分を図る必要があります。

②地域運営モデルの構築

公園等の利用率が高く、梶野公園をはじめとして市内では比較的理想的な公園等の利活用が進んでおり、モデル地域として公園等の地域運営の在り方を先導する役割が期待されます。そのためにもサポーター会議のような協議の場づくり等、ソフト面の支援・強化が求められます。

野川地域の課題

①非効率な公園配置の是正

公園等の面積が小さく、利用圏の重複も多く、接道も含め配置が非効率になっています。土地利用転換や集約による利用しやすい公園等の整備が求められます。

②地域密着型の公園整備

人口の母数が少なく、集客施設も少ないことから野川地域の公園等は地域住民が中心となって利活用されていると考えられます。野川や国分寺崖線の自然や歴史、農のある風景等地域資源、防災機能の高さも活かしながら地域主体での管理・利活用を推進することが望ましいと考えられます。

第6章 基本方針

6-1. 基本理念

これからの公園等の整備にあたって以下のように基本理念を定めます。

基本理念

小金井市民の住みよさ、定住につながる“質の高い”公園整備

小金井市は、新宿から30分以内という通勤圏にあって、生活利便性が高く、持家需要が高いベッドタウンとして発展してきました。近年も人口は増加しており、住みやすいまちとして今後もまちの発展が期待できます。長期総合計画においても、「みどりが萌える・子どもが育つ・きずなを結ぶ 小金井市」を将来像として掲げ、市民の幸せと住みよさの向上に向けた取組みが進められています。小金井市の特徴でもある転入者の住宅取得のしやすさや緑化等に関する活発な市民活動などの強みを活かし、公園等が魅力的な住宅地としてのステータスの向上につなげます。そのためには、市内や地域の公園等の役割を明確にし、居住地として選ばれる都市の形成を目指し、その実現に向けて次の3つの公園等の基本的な役割を果たすことを目指します。

公園等の3つの基本的な役割

役割Ⅰ 地域の魅力の活用

地域の自然や歴史を活かし、市民の誇りとシティプロモーション(※)につながる公園整備

役割Ⅱ 多世代交流の機会創出

子どもから高齢者までが利用しやすく、地域ニーズに応じた機能性をもった公園整備

役割Ⅲ 市民の主体的な活動の場の提供

市民が地域の公園等を応援できる仕組みをつくり、市民主体で持続的に管理・活用できる公園整備

公園等の質のレベルアップ

市民の生活環境と魅力の向上

居住地として選ばれる都市環境の形成

※シティプロモーション…市を持続的に発展させるために、市の魅力を市内外に効果的に発信し、市民の愛着度を高め、対外的な知名度を向上させること。

6-2. 基本方針

本市の公園等を取り巻く課題を踏まえ、基本理念のもとに基本方針とそれに付随する4つの施策方針を以下のように定めます。

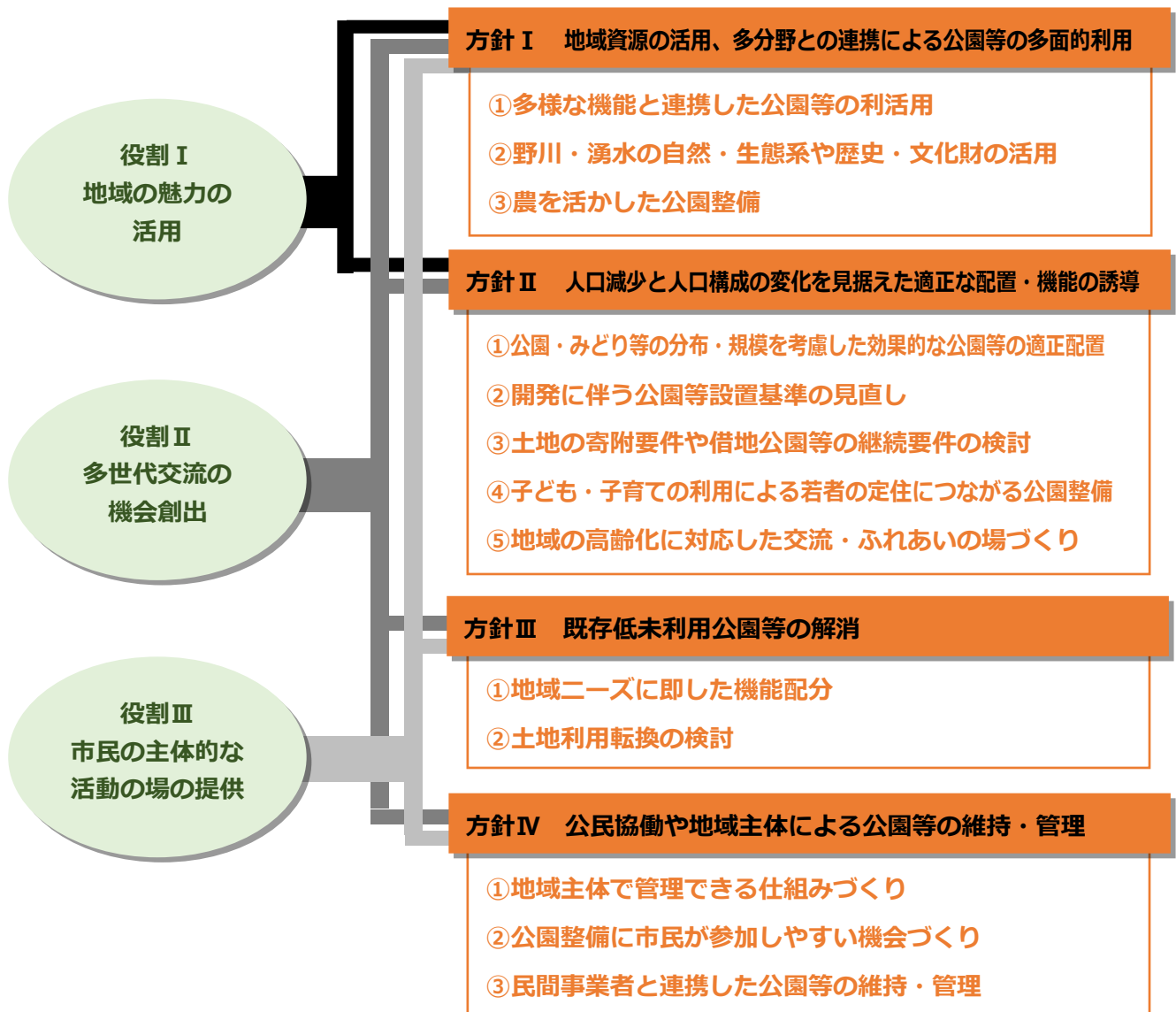
基本方針

現在の公園等の総量は維持しつつ、質の向上を図る

今後の人口減少や、小規模公園等・低未利用公園等が存在する現状を踏まえた施策を展開し、地域資源を活用したり、他分野との連携によって公園等の魅力を向上させたり、市民・地域・行政の協働による管理・活用を推進することによって、限られた資源を有効に活用し、効率的に公園等の質の向上を図ります。またそのために以下の4つの方針のもと、施策を展開していきます（詳細は次頁以降）。

公園の基本的な役割

4つの施策方針



6-3. 取組の方向性

方針 I 地域資源の活用、多分野との連携による公園等の多面的利用

公園等の多面的な機能を発揮させ、自然や文化財などの地域資源を活用しながら、魅力的な公園整備を推進します。

①多様な機能と連携した公園等の利活用

交流の場づくり・地域イベントの場づくりを推進するほか、防災設備や機能の維持と定期的な活用のための機会を創出し、オープンスペースや緑の提供だけに留まらない公園等の多様な機能を活用します。

【施策イメージ】

市民が公園等を借りやすいしくみづくりや、イベントの開催の支援 等



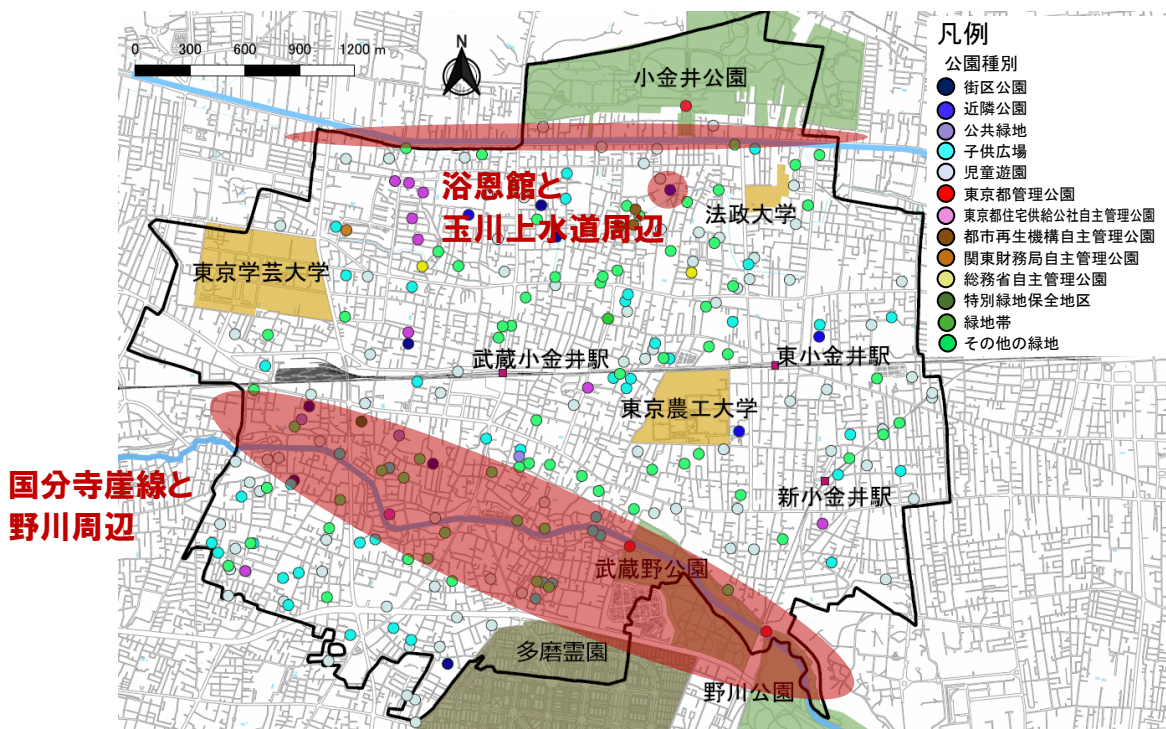
②野川・湧水の自然・生態系や歴史・文化財の活用

国分寺崖線や野川や玉川上水など、豊かな小金井の自然のネットワークに配慮し、公園緑化によるみどりの連続性の創出や、自然・歴史の学習の場として活用することで、癒しや地域愛の醸成のための象徴的な空間としての整備・活用を図ります。

【施策イメージ】

子ども自然体験教室や歴史文化ガイドツアーの開催支援 等

図 6-1 重点エリア(野川・湧水の自然・生態系や歴史・文化財の活用)

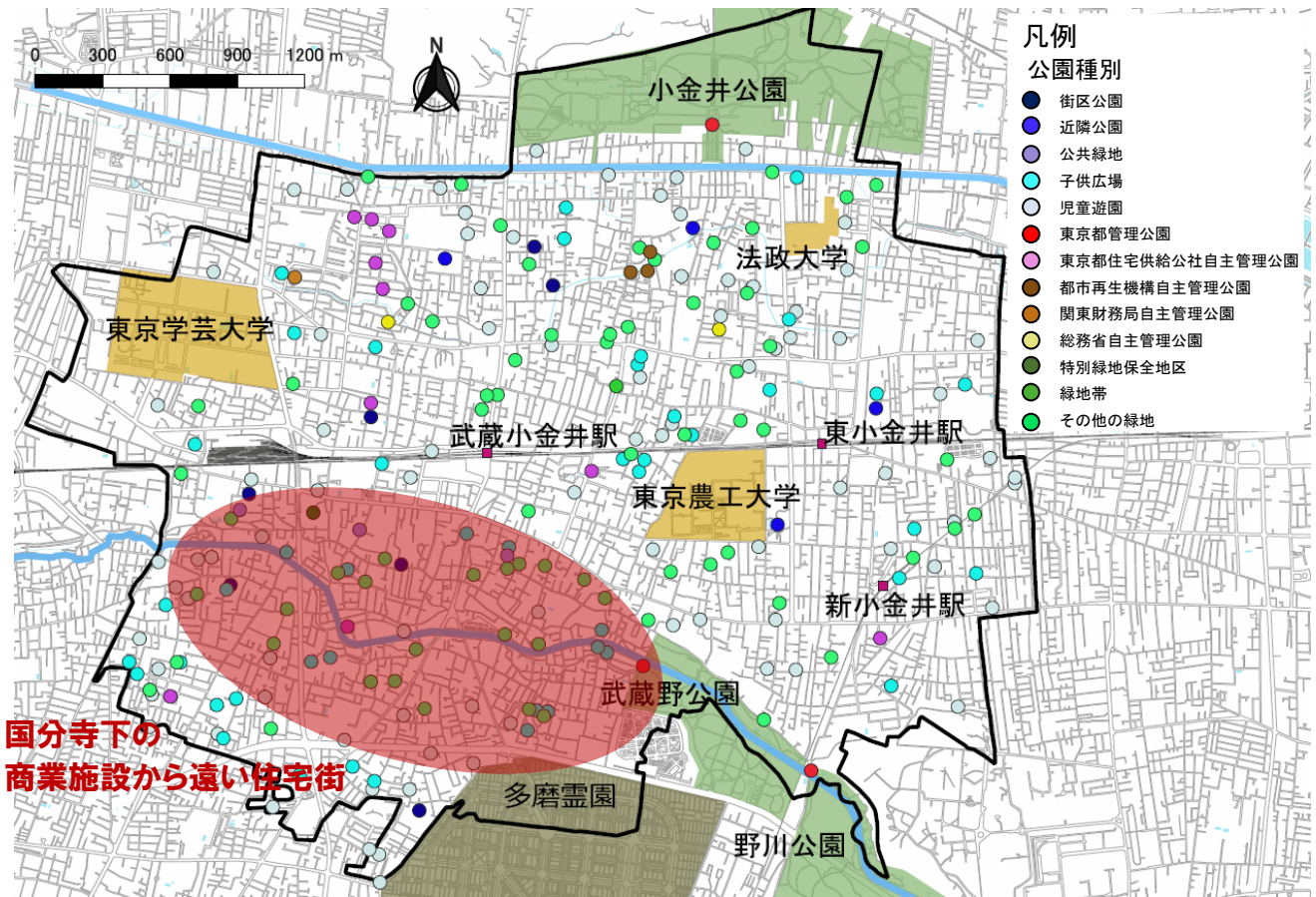


③農を活かした公園整備

市内の都市農業の振興と関連して、公園で農業・菜園をテーマに交流や体験ができる場づくりや、農産物・野菜を活用した直売所等のイベントを、買い物弱者対策など多様な目的で推進します。

【施策イメージ】
公園マルシェの
開催支援 等

図 6-2 重点エリア(農を活かした公園整備)



方針Ⅱ 人口減少と人口構成の変化を見据えた適正な配置・機能の誘導

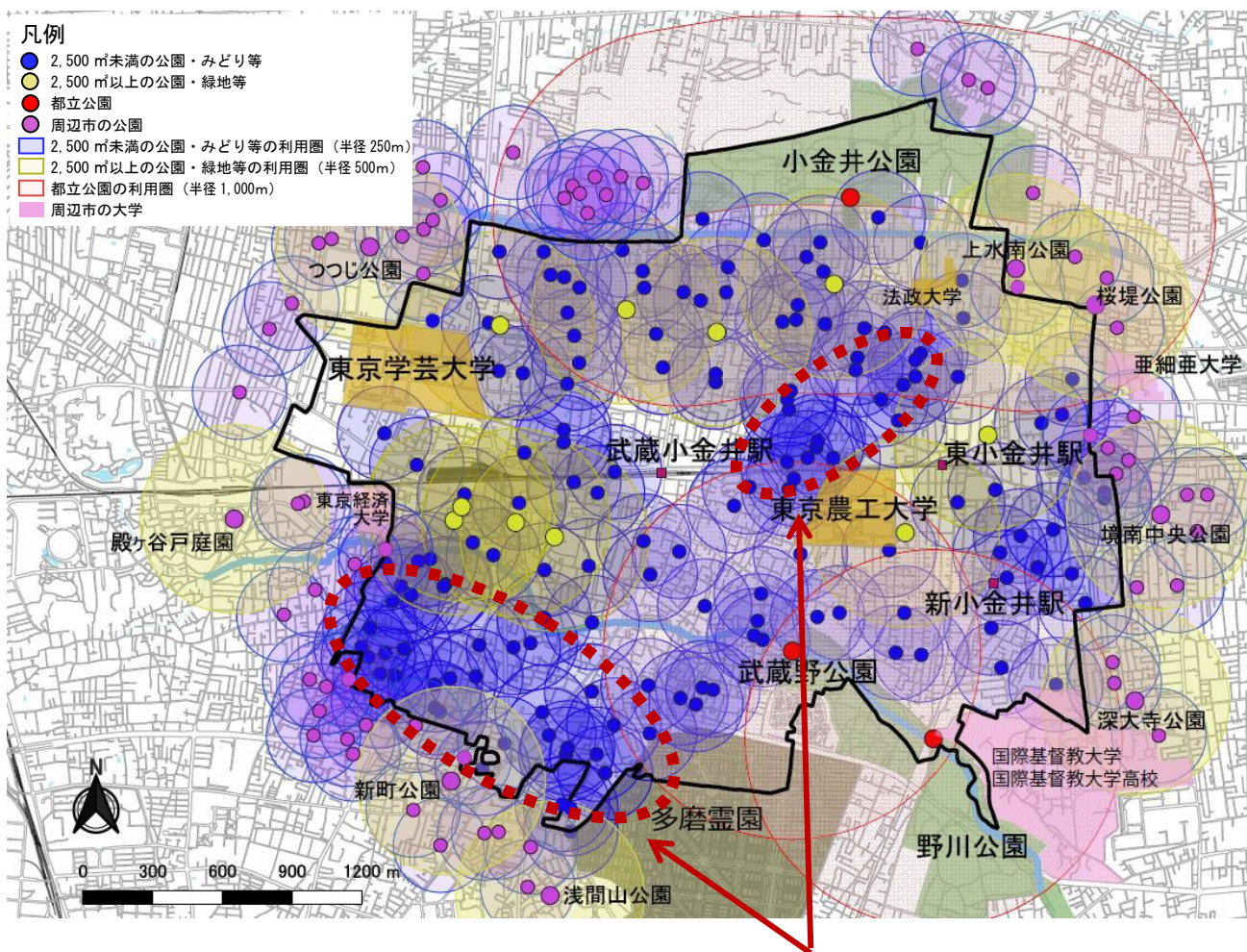
現状と将来の人口分布と構成を踏まえ、現在の公園等の分布・規模について、効率的に利活用がなされるように公園・緑地の配置を適正に誘導し、子どもからお年寄りまで、幅広い世代にとって利用しやすい公園整備を目指します。

①公園等の分布・規模を考慮した効果的な公園等の適正配置

市全体と地域ごとの将来の人口・構成分布を考慮し、市が管理する公園等のみならず、都立公園、民間が管理する公園、隣接市の公園、大学及び寺社等のオープンスペースも含めて、総合的に配置を検討します。特に小規模公園等が密集するエリアの解消が必要です。

【施策イメージ】
規模別に公園等配置計画の作成 等

図 6-3 重点エリア(公園・みどり等の分布・規模を考慮した効果的な公園等の適正配置)



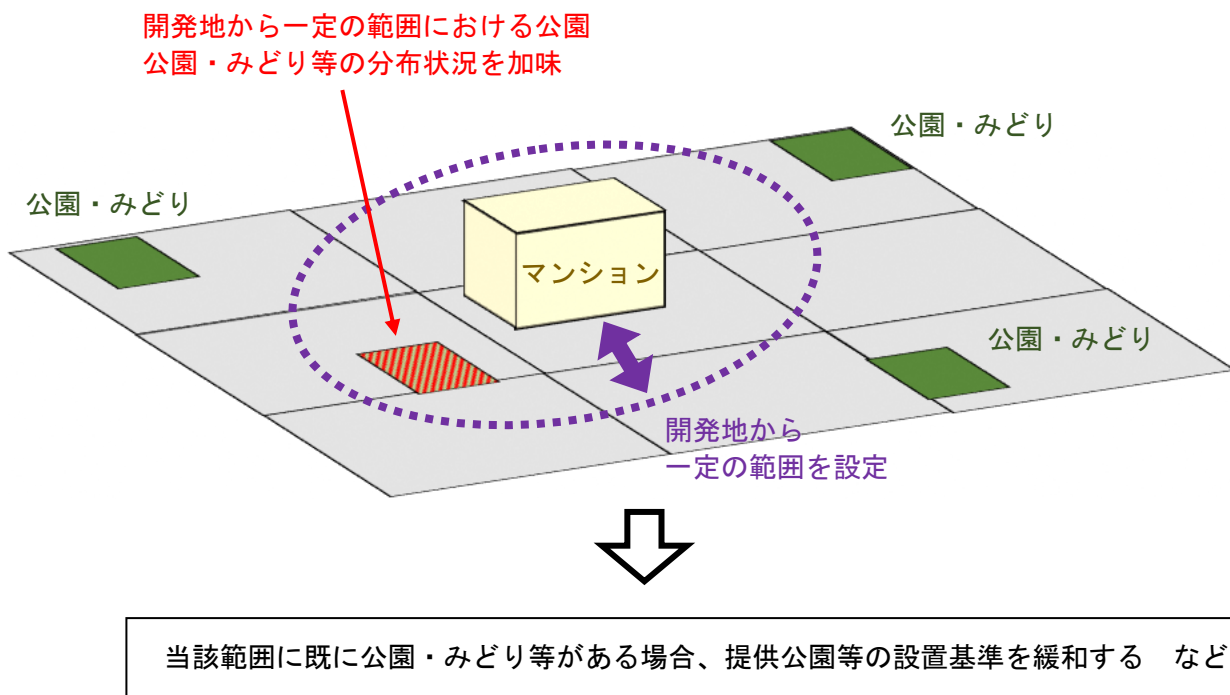
小規模公園等の密集地帯

②開発に伴う公園等設置基準の見直し

開発に伴う公園等の設置について、地域の公園等の総量をみながら、周辺の同種の公園等の利用実態や周辺環境と照らし合わせて、設置基準の見直しを検討します。また、中高層建築物等の建築事業に伴い発生する新規の提供公園等については、原則、自主管理の公園又は緑地もしくは公園協力金⁴⁵への転換を進めるよう検討します。

【施策イメージ】
開発に伴う公園等設置基準の緩和 等

図 6-4 開発に伴う公園等設置基準の見直しイメージ



⁴⁵ 「公園協力金」とは市が開発指導要綱で定めているもので、現状では通常、開発行為や中高層建築行為等の際に、「事業施工面積に対して一定割合の公園等の整備を事業者を求める」が、場合により「新たな公園等の整備に代えて市への金銭納付を事業者を選択させる」ことができる仕組みのこと。市は納付された金銭を活用して既存の公園等の整備費等に充てて質の向上を図ることができる。

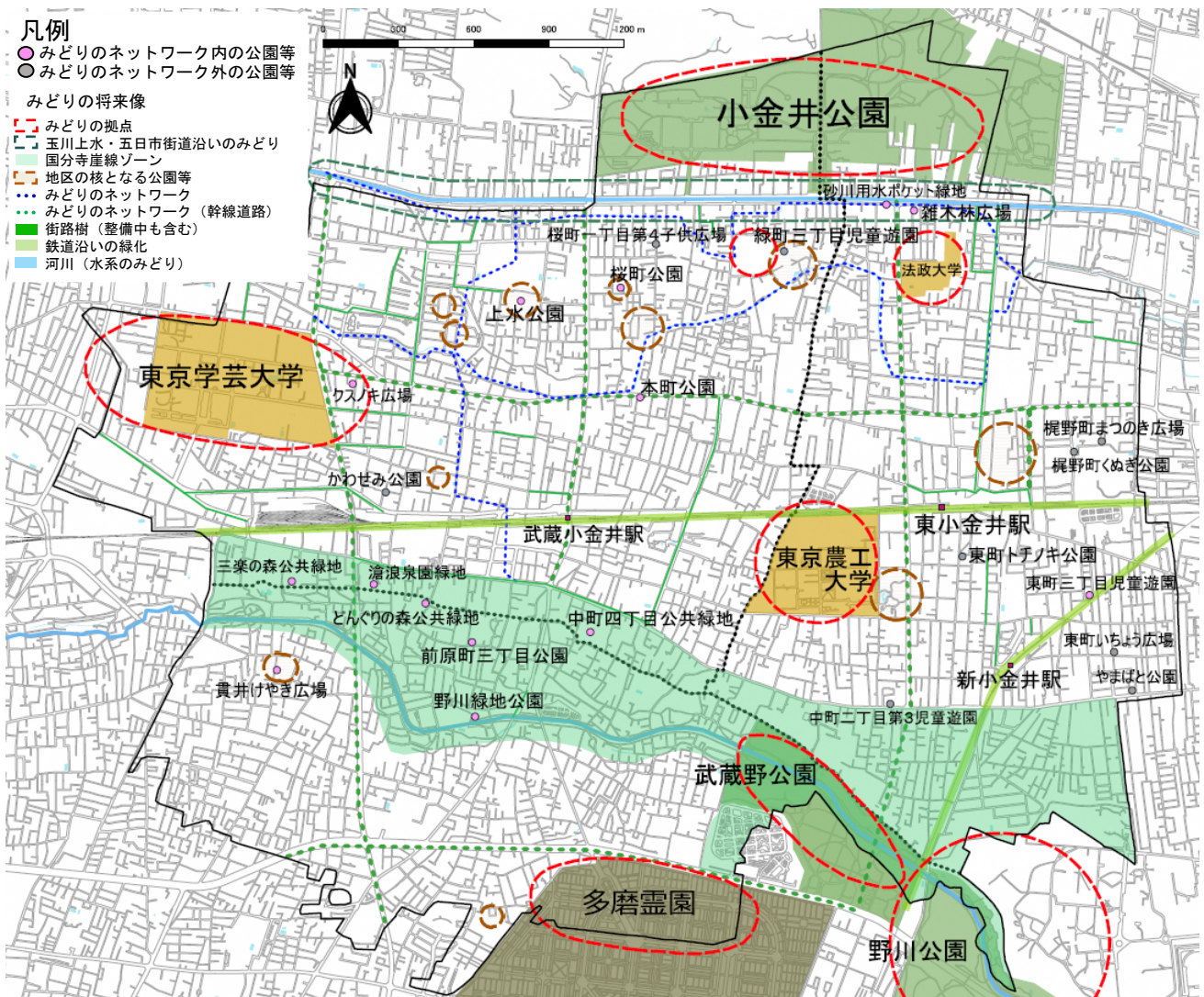
③土地の寄附要件や借地公園等の継続要件の検討

将来にわたって計画的な維持・管理を行うために、土地の寄附を受ける場合の要件を周辺の公園整備状況を考慮し、土地の接道状況や面積について検討します。

また、借地公園等について、みどりのネットワークとの整合性や周辺の公園・みどり等の分布を加味したうえで、現況が真に保全すべき緑等と認められる場合に限り契約を継続することを検討します。

【施策イメージ】
公園等用地の寄附の
受入れ要件の設定 等

図 6-5 みどりのネットワークと借地公園等の整合性



④子ども・子育ての利用による若者の定住につながる公園整備

子どもが安全・安心に公園等を利用できるようにするため、子どもの利用が多く想定される公園等については、子どもや学校や保育所等と連携した公園整備や配置検討を行います。ボール遊びがしやすい公園環境の整備のために、ボール遊びモデル公園等の設置の検討やルールブックの作成・周知を行います。具体的な対象は、子どもの人口が多い地域や子どもが集まる施設周辺の公園等を想定します。

【施策イメージ】

遊具デザインを子どもの
投票により設置
ボール遊びがしやすい
公園環境の整備
等



⑤地域の高齢化に対応した交流・ふれあいの場づくり

増加する高齢者にとって利用しやすくするため、高齢者の利用が多く想定される公園等については、子どもから高齢者までふれあい・遊べる機会づくりと、高齢者の健康増進のために必要な公園整備をします。具体的な対象は高齢者が多い地域や病院や老人ホームといった医療・福祉施設等の近くにある公園等を想定します。

【施策イメージ】

高齢者の活躍の場づくりと
しての花壇の整備や、健康
増進のための健康器具の設
置 等



方針Ⅲ 既存低未利用公園等の解消

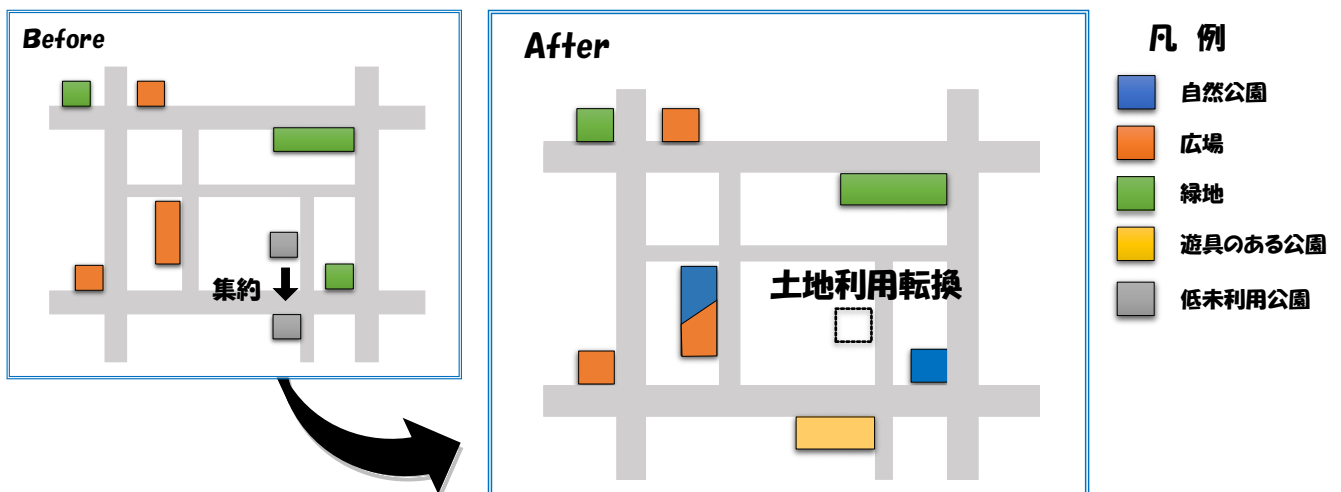
今後の高齢化や人口減少に伴う財政縮減のもとで、効率的な公園整備を推進するため、低未利用な公園等を整理しつつ、既存公園等の質の向上を図ります。

①地域ニーズに即した機能配分

効率的な公園等の維持・管理のため、地域のニーズに即した公園整備を行います。そのため、例えば遊具やベンチ等の設備が不足している場合には地域内・地域間でのバランスをみながら設置し、市内に散在する低未利用の公園等については、機能再配分により利用しやすい公園等の整備を検討します。

【施策イメージ】
公園等機能の配置計画の作成 等

図 6-7 機能再配分イメージ



②土地利用転換の検討

利用実態や周辺環境なども加味して利活用の可能性が今後も低いと考えられる公園等については、土地利用転換し、代わりに、より広い公園等の創出や、既存公園等で利用率の高い公園等の整備環境の充実を図ります。

検討対象については地域の公園・みどり等の量や、人口動向、防災やレクリエーション等の多面的機能の過不足、みどりのネットワークの連続性等を考慮しながら選定してきます。

【施策イメージ】
土地利用転換対象の検討と転換手法の検討 等

方針Ⅳ 公民協働や地域主体による公園等の維持・管理

地域目線・市民目線での公園整備のため、地域主体で管理できる仕組みづくりや、市民が公園整備に参加しやすい機会づくりを行います。民間事業者と連携した公園等の維持・管理に向けた仕組みづくりを検討します。

①地域主体で管理できる仕組みづくり

公民協働での公園等の維持・管理体制の構築のため、美化サポーター制度等、地域ボランティアの活動を支援します。

【施策イメージ】

ボランティアへの補助・支援の充実、制度についての普及啓発促進

②公園整備に市民が参加しやすい機会づくり

潜在的なボランティア発掘や利用者同士の開放的な関係づくりのため、公園等ごとにワークショップや利用団体の話し合う場を設けつつ、市と市民の間でのコミュニケーション増進のための情報共有・発信を強化します。

【施策イメージ】

梶野公園サポーター会議のように公園利用者が集まり、利活用法やルールについて話し合う機会づくりを支援

③民間事業者と連携した公園等の維持・管理

面積が広く利用者が多い公園等については、収益施設と公園等を一体にした指定管理者制度の活用が期待できることから、民間活力の導入を検討し、公園等の活性化と市の財政負担の軽減を図ります。

【施策イメージ】

栗山公園健康運動センターと栗山公園を合わせた指定管理者制度の導入



第7章 基本方針の推進に向けて

7-1. 推進方策

本方針を推進していくために次の6項目について重点的に取り組みます。

推進方策 1. 機能配分・土地利用転換等による低未利用公園等の整理方法

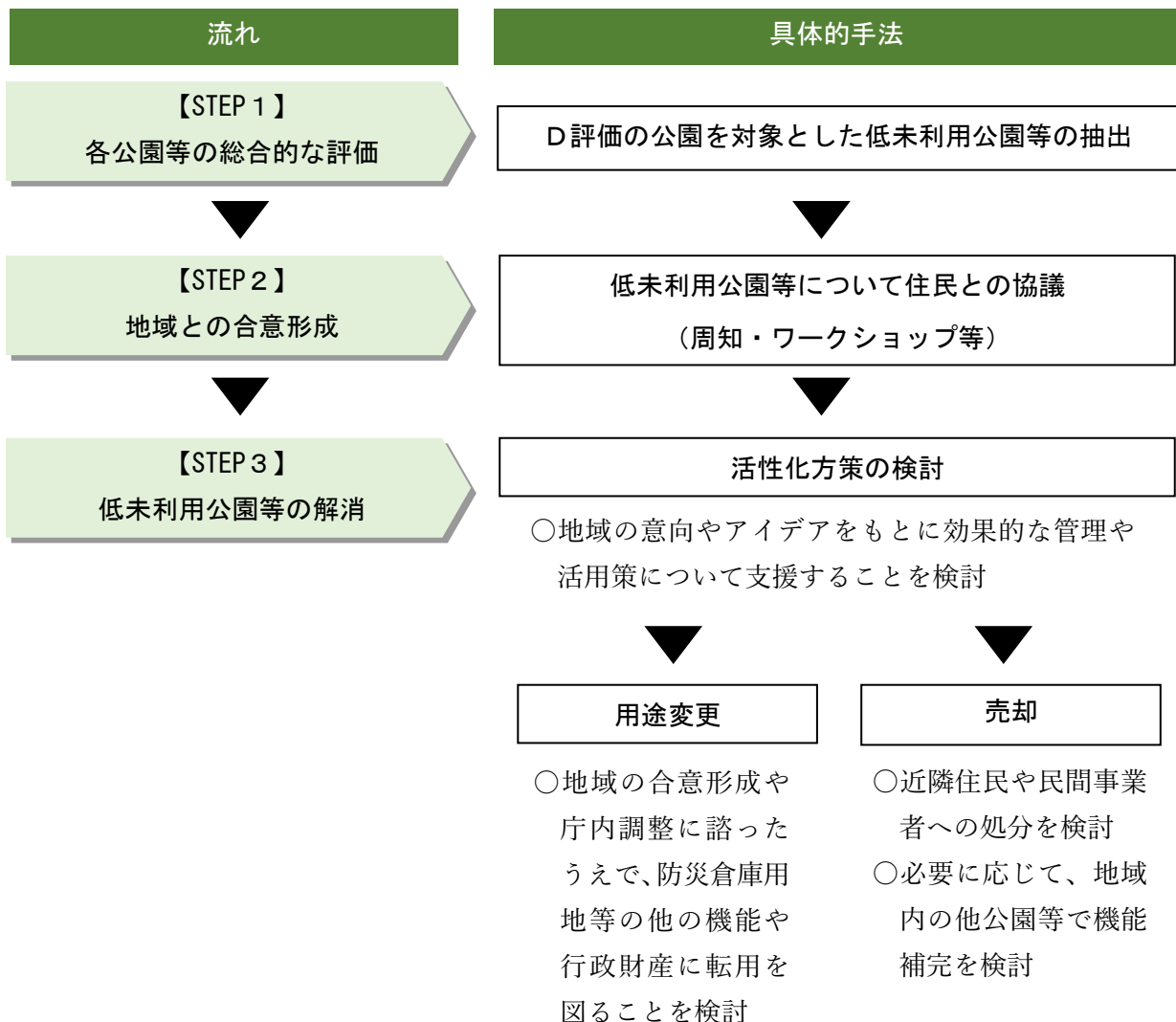
【関連施策】○方針Ⅲ：①地域ニーズに即した機能配分 ②土地利用転換の検討

○方針Ⅳ：②公園整備に市民が参加しやすい機会づくり

市内の公園等について総合的な評価をしたのち、機能性が低い公園等については土地利用転換を含めた整理を検討します。

整理にあたっては周辺住民の合意形成を図りながら、用途変更や売却を進め、公園事業費を捻出するとともに機能性の高い公園等の整備を検討します。

図 7-1 低未利用公園の整理の流れ



推進方策 2. 既存公園等の機能の長寿命化と配置の検討方法

- 【関連施策】○方針Ⅱ：①公園・みどり等の分布・規模を考慮した効果的な公園等の適正配置
 ④子ども・子育ての利用による若者の定住につながる公園整備
 ⑤地域の高齢化に対応した交流・ふれあいの場づくり

既存公園等について効率的に機能を発揮させたり、行財政運営との関連で、各設備について偏在の是正や地域ニーズに即した整備を図ります。

具体的には遊具やトイレ、ベンチ、水道などの設備については劣化状況を踏まえ、ライフサイクルコストを考慮して必要な保全を行います。投入できる財政量に応じて、代替施設の配置や地域間のバランスを考慮しながら総量と配置を適正化し、地域ニーズに即した公園整備を進めます。公園灯については周辺の街路灯などの代替設備を考慮しながら、安全性を担保できる必要量について効率的な配置を進めます。樹木についてはみどりのネットワークとして重要な公園等について優先的に整備を図り、利用者数の多い公園等についても利用者の安全性の確保の上、適切に管理し、良質な緑を育成していきます。

整備にあたってはA評価の公園等を中心にしつつ、安全上の必要性や誘致圏として効果の高いか所を優先します。

図 7-2 既存公園等の機能の長寿命化と配置検討の流れ

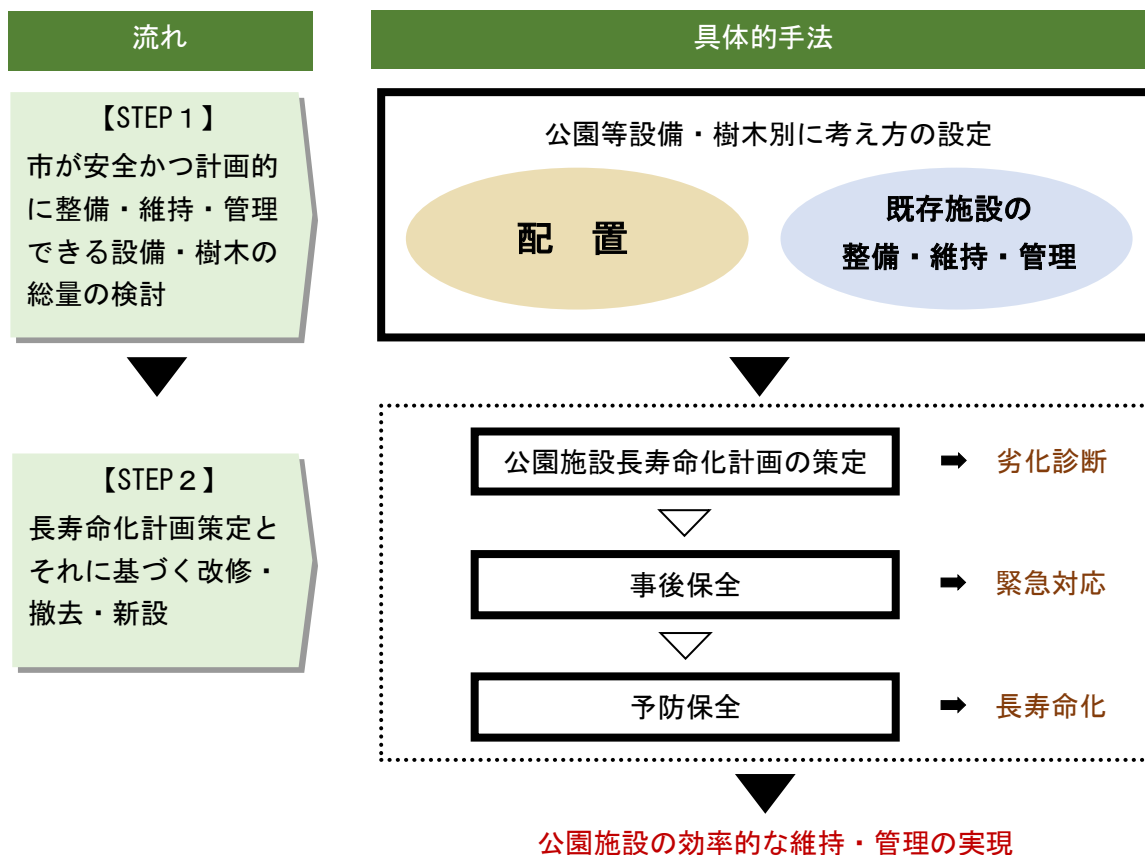


表 7-3 各公園等の設備・樹木の配置及び整備・維持・管理の考え方

	配置の考え方	既存施設の整備・維持・管理の考え方
トイレ	誘致圏 500mで、かつ概ね面積 1,000 m ² 以上の公園等を基本に、周辺の公共施設や民間施設のトイレ等設置状況を勘案のうえ設置する。	概ね週 2 回程度の定期清掃を行い衛生的な環境を保つ。 施設の更新を要する場合には、多目的化、洋便器化等を検討する。
遊具	一般遊具は誘致圏 250mで、かつ概ね面積 180 m ² 以上の公園等、複合遊具・健康遊具は誘致圏 500mで、かつ概ね面積 500 m ² 以上の公園等を基本とし、利用者の意向等も勘案のうえ設置する。	遊具定期点検等の結果により、基準を満たさない遊具について優先的に整備・改修を行ない、総量を維持する。ただし、A 評価以外の公園等については、利用圏の重複状況、利用者数及び利用者ニーズを考慮し、撤去についても検討する。
水道	誘致圏 500mで、かつ概ね面積 300 m ² 以上の公園等を基本とする。	衛生的で安全な利用に供されるよう維持管理に努める。ただし、A 評価以外の公園等については、利用圏の重複状況、利用者数及び利用者ニーズを考慮し、撤去についても検討する。
ベンチ	近隣の住環境を考慮のうえ、誘致圏 250 mで、かつ概ね面積 90 m ² 以上の公園に 1 基以上を基本とする。	安全で適正な利用に供されるよう、劣化状況に応じ改修等を行なう。ただし、A 評価以外の公園等で、ベンチが近隣環境の悪化を著しく招く場合は、利用者や地域住民の意向を確認のうえ、移設・撤去を検討する。
公園灯	周辺道路の街灯の配置、利用状況、防犯的必要性を考慮し、一定の明るさを確保するよう適正な量と配置を検討する。新設に際してはLED灯を原則とする。	既設の公園灯については原則点灯するよう維持・管理を行ない、入れ替えを要する場合はLED灯による設置を原則とする。
樹木	市内を東西に伸びる緑の帯（野川、国分寺崖線、玉川上水）を南北につなぐみどりのネットワークを公園等が担うよう、生態系を考慮して樹木等の植樹を検討する。	安全面の確保を最優先に、大木や老木は植え替えによる新陳代謝を検討する。 外部から公園内の見通しを良くするために、A 評価の公園等を優先に目線の高さの枝や植栽を除去する。

推進方策 3. 提供公園等の設置緩和に向けた開発基準の見直し

【関連施策】○方針Ⅱ：②開発に伴う公園等設置基準の見直し

開発行為等（宅地造成等）に伴う公園等の設置については、3,000 m²以上の開発行為の場合は、都市計画法施行令第25条のただし書きに基づき、「周辺に相当規模の公園、緑地又は広場がある」場合、公園等の設置に替え、公園協力金への転換を進めるよう要綱等の改正を検討します。また、2,000 m²以上 3,000 m²未満の開発行為の場合は、新たに公園・緑地の設置又は公園協力金の負担を課すよう要綱等の改正を検討します。

中高層建築物等の建築事業に伴う公園等の設置については、原則自主管理とし、地域の公園・みどり等の総量をみながら、周辺の同種の公園・緑地等の利用実態や周辺環境と照らし合わせて、整備の必要性について都度検討し、公園等の設置から公園協力金への転換を進めるよう要綱等の改正を検討します。

表 7-4 開発指導要綱改正の方向性

現状			改正の方向（案）		
	条件	基準		条件	基準（案）
開発行為	3,000 m ² 以上	開発区域面積の6%以上の公園又は緑地を設置し、市に無償提供。 ※公園協力金への代替不可	→	3,000 m ² 以上	周辺に相当規模の公園、緑地又は広場がある場合、公園協力金を納付。ない場合は6%以上の公園又は緑地を設置し、市に無償提供又は自主管理。
	3,000 m ² 未満	なし		→	2,000 m ² 以上 3,000 m ² 未満
中高層建築物等	3,000 m ² 以上	開発区域面積の6%以上の公園又は緑地を設置し、市に無償提供。 ※公園協力金への代替可	→	3,000 m ² 以上	公園又は緑地を設置する場合は開発区域面積の6%以上の公園又は緑地を設置し、自主管理。 ※公園協力金への代替可
	1,000 m ² 以上 3,000 m ² 未満	開発区域面積の3%以上の公園又は緑地を設置し、自主管理。		→	1,000 m ² 以上 3,000 m ² 未満

推進方策 4. 既存公園等の配置を踏まえた寄附・借地公園等の継続検討

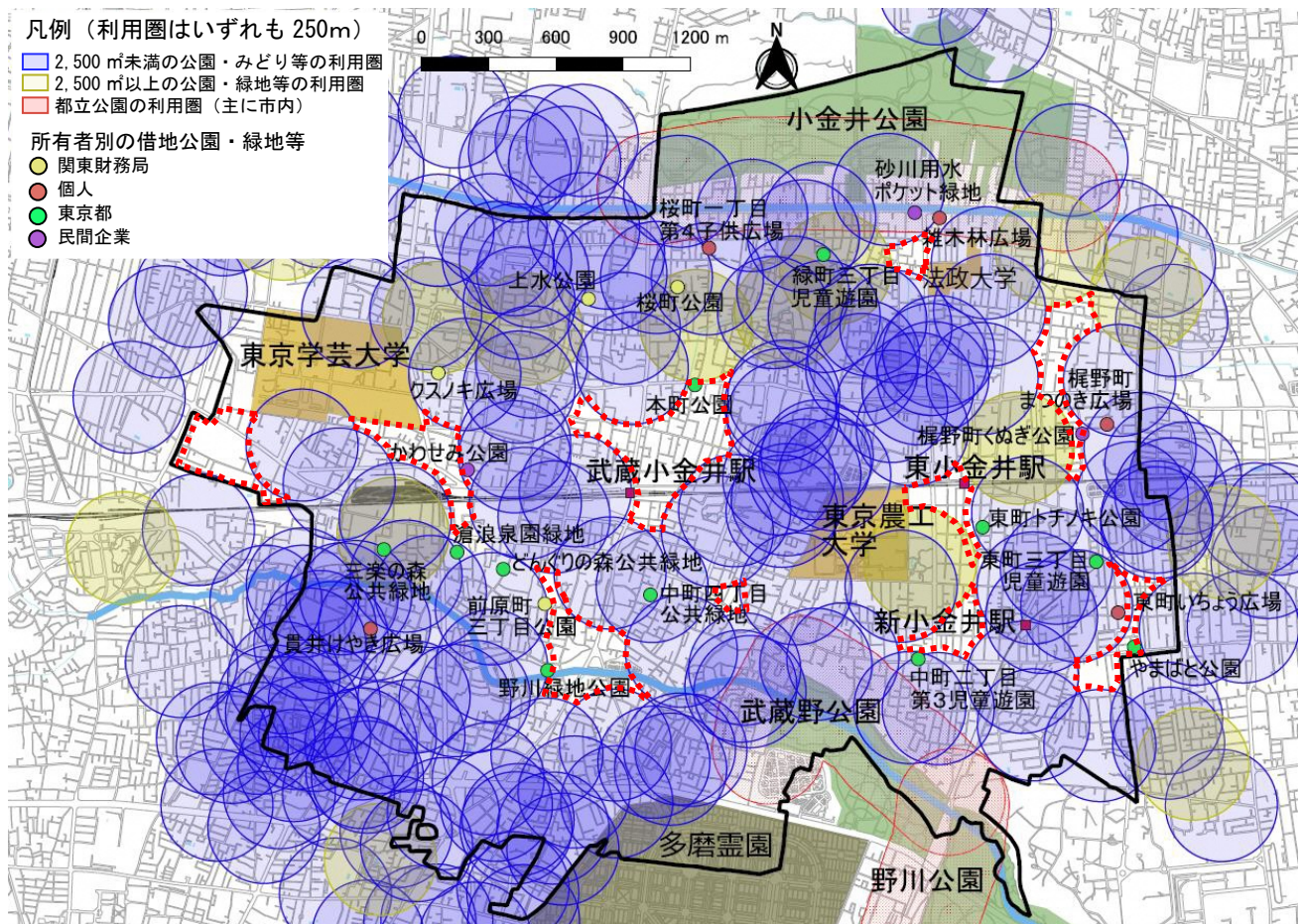
【関連施策】○方針Ⅱ：③土地の寄附要件や借地公園等の継続要件の検討

公園等の用地の寄附の受け入れや借地公園等の継続に関して、要綱により基準を明確化します。

周辺の公園・みどり等の配置状況を考慮し、原則、公道に接道している面積が 300 m²以上の土地についてのみ寄附を受けること又は借地公園等として継続するものとします。なお、「緑の基本計画」において「みどりのネットワーク」として位置づけられている場所等で、市長が特に緑の確保をすべきと認める場合には、寄附の受け入れや借地公園等として継続することを検討します。

既存の借地公園等についても、周辺の公園等の配置状況及びみどりのネットワークを考慮し、契約更新の有無を検討します。

図 7-5 半径 250m 圏域に公園・みどり等(借地公園を除く)があるエリア



で囲まれたエリアは公園等(借地公園を除く)が 250m 圏内にないエリア

推進方策 5. 地域資源の活用・連携による新たな公園等の設置方法

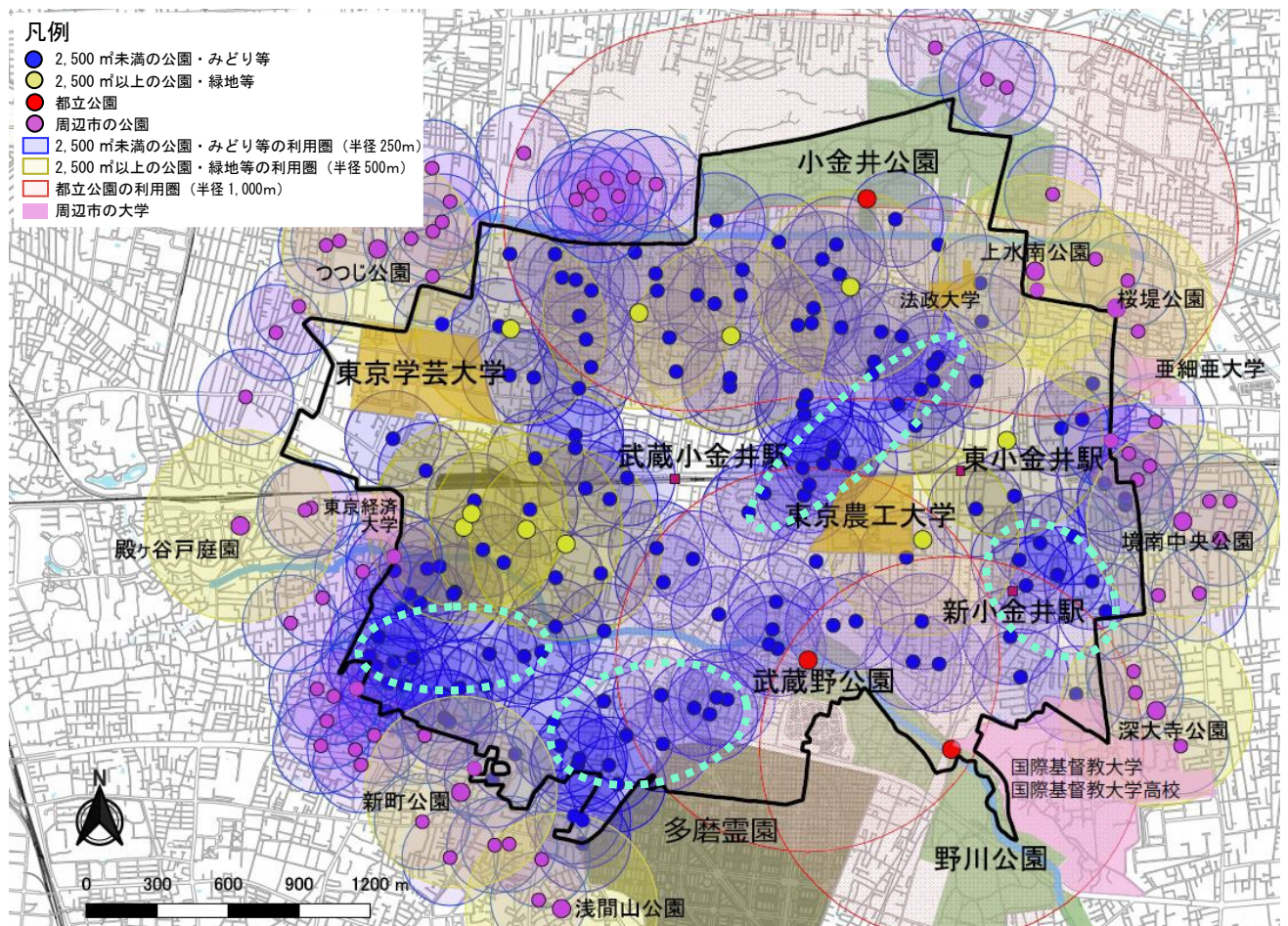
【関連施策】○方針Ⅰ：①多様な機能と連携した公園等の利活用 ③農を活かした公園整備

○方針Ⅱ：①公園・みどり等の分布・規模を考慮した効果的な公園等の適正配置

小さな公園等が密集しているエリアでは、低未利用のものについては利用を促すほか、地域の意向に応じて整理・集約し、一定規模の公園等の整備・改修を検討します。特に武蔵小金井駅周辺では民間のオープンスペースを活用するなど、メリハリのある公園配置と機能分担を検討します。

公園等の整備にあたっては、整備後の利活用を想定し、地域資源を活かした複合的機能（農業や商業、社会福祉との連携）との連携を検討します。国分寺崖線下の野川地域では、農のある景観を保全すると同時に、移動直売所の拠点として買い物支援サービスの拠点化を検討します。

図 7-6 公園・みどり等利用圏(市外の公園・大学含む) ※再掲



で囲まれたエリアは2,500㎡未満の小さな公園等が多く、かつ2,500㎡以上の大きな公園・緑地等が少ないエリア

推進方策 6. 地域や民間事業者による管理方法

- 【関連施策】○方針Ⅳ：①地域主体で管理できる仕組みづくり
 ②公園づくりに市民が参加しやすい機会づくり
 ③民間事業者と連携した公園等の維持・管理

地域主体で管理できる仕組みづくりや、市民が公園整備に参加しやすい機会をつくるために、地域住民が管理するモデル公園等を設け、花壇・植栽等の整備・管理の計画づくりや利活用ためのルールづくりと運営の実践を、地域のコミュニティが核となって実践します。具体的には先行モデルである梶野公園を見本に、地域住民の意向を踏まえながら候補となる公園等を検討していきます。

候補地が確定した場合は、市が主催して公園連絡会議を設置し、全市的に利用ルールの共有やイベント等の周知、その他管理の在り方（ボランティア制度等）に関する市と市民、あるいは市民同士の意見交換を定期的に行います。

また、同時に民間活力を公園等の維持管理に導入することを検討します。具体的には公園等の政策における民間活力の活用のあり方を十分に検討したうえで、都市公園のスケールメリット⁴⁷のある公園等におけるPPP/PFI⁴⁸の導入についてサウンディング調査⁴⁹を活用し、民間事業者の意向の把握を行います。

図 7-7 市と地域・民間事業者が連携した公園等の管理における役割分担

地域	市	民間事業者
方法 1：公園連絡会議の設置 市→地域 ①公園連絡会議の主催 地域→市 ②公園等の管理・活用に関する要望提出 市→地域 ③関係者調整後、要望の実現化		方法 3：指定管理者制度の導入の検討 市→民間 ①対象公園等の検討及びサウンディングによる意向把握 民間→市 ②指定管理者への立候補 市→民間 ③選定後、事業者に管理を委託
方法 2：モデル公園の設置 市→地域 ①モデル公園等の管理者募集 地域→市 ②管理団体設立、応募 市→地域 ③管理者のサポート、支援		方法 4：開発公園等の民間の自主管理 市→民間 ①開発指導要綱等改正 民間→市 ②要綱に基づき自主管理公園等の設置又は公園協力金の納付

⁴⁷ 経済学や経営学の用語の一つで「規模の経済」と訳され、規模を大きくすることで1つあたりのコストを下げることである。公園施策においては、例えば、公園等と周辺施設を一体とした指定管理制度や、複数の小規模公園をまとめて包括指定管理制度を導入することで、一つの公園単体では維持管理費の削減や非効率な管理がなされやすい状況の改善を図ることを指す。

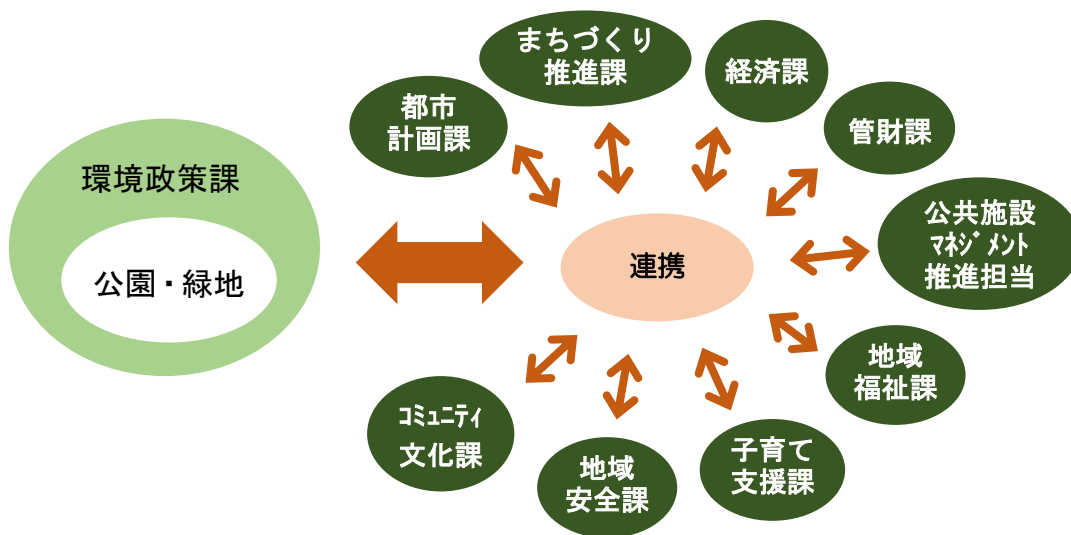
⁴⁸ PPP（パブリック・プライベート・パートナーシップ）とは官民が連携して公共サービスの提供を行うことであり、民間事業者が事業の計画段階から参加して、設備は官が保有したまま、運営等を民間事業者に任せる民間委託等を含む手法を指す。PFI（プライベート・ファイナンス・イニシアティブ）は、PPPの代表的な手法の一つで、官が基本的な事業計画をつくり、公共施設等の設計、建設、維持管理及び運営に、民間の資金と経営ノウハウを活用し、民間主体で効率的かつ効果的な公共サービスの提供を図るという考え方。

⁴⁹ 市と民間事業者が、事業検討の段階で事業内容や事業スキーム等に関して、民間事業者から広く意見や新たな提案を求め、公募による対話を通じて市場性の把握等を行う手法。対象事業の検討を進展させるための情報収集を目的として行われる。

7-2. 庁内の連携

小金井市において多様なニーズに対応する公園等に関する施策を推進するためには、関連分野と連携・協力することが重要です。そのため全庁的な取組を進めるとともに関連部局と施策内容等の調整を行うなど連携を強化し、必要に応じた対応を協議しながら、着実な実施を目指します。

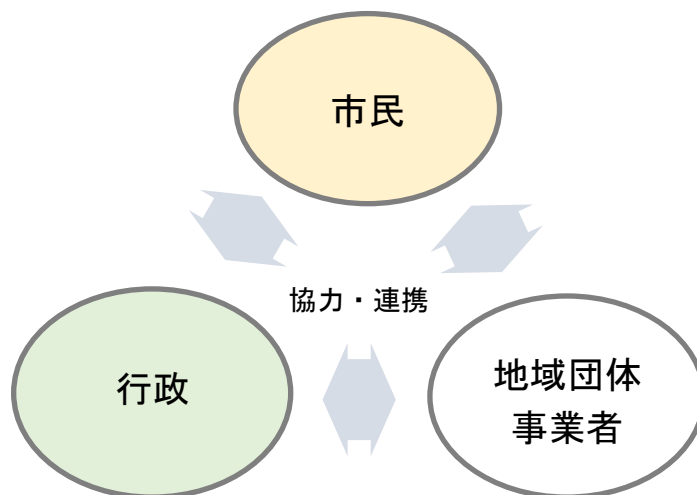
図 7-8 庁内の連携イメージ



7-3. 市民参加の推進

市民に対しては、施策の推進のため、広報やホームページ等を活用して本計画の周知を図り、計画の実現に向けた協力を呼びかけていきます。また、公園等の施策に関する情報提供を積極的に行うとともに、市民の意見を施策の効果的な推進に反映し、市民ニーズや社会経済情勢の変化に応じて柔軟な施策検討を行います。さらに、地域の特性に応じた住まい・まちづくりを行うにあたり、地域コミュニティにおける市民活動の重要性が高まっていることから、市民団体等とのパートナーシップを築きながら支援を進めていきます。

図 7-9 市民参加の推進イメージ



資料編

1. 検討会議等

(1) 庁内検討会議の開催

本方針の策定にあたっては庁内の各部署から担当者を招聘し検討委員会を開催した。

①委員（11名）

	役職
委員長	環境部長
委員	公共施設マネジメント推進担当課長
委員	地域安全課長
委員	管財課長
委員	コミュニティ文化課長
委員	経済課長
委員	環境政策課長
委員	地域福祉課長
委員	子育て支援課長
委員	都市計画課長
委員	まちづくり推進課長

②開催概要

回次	開催日程	議題
第1回	平成30年10月31日	・公園等整備基本方針の策定について ・公園の現状と課題
第2回	平成30年11月28日	・基本方針の方向性について ・基本理念・基本方針について
第3回	平成31年 1月17日	・基本方針（案）について

(2) 緑地対策審議会の開催

本方針の策定にあたっては例年開催している緑地対策審議会にて検討を行った。

①委員（9名）

	氏名	区分	備考
会長	犀川 政稔	学識経験者	国立大学法人東京学芸大学名誉教授
副会長	宮下 清栄	学識経験者	法政大学教授
委員	竹内 高広	学識経験者	東京都多摩環境事務所自然環境課長
委員	橋本 尚幸	学識経験者	農業委員会会長職務代理
委員	串田 光弘	緑化団体等に属する者	環境市民会議委員
委員	渡辺 栄	緑化団体等に属する者	みどり剪定サークル
委員	小山 美香	公募市民	
委員	津々良 明石	公募市民	
委員	矢向 潤	公募市民	

②開催概要

回次	開催日程	議題
第1回	平成30年 8月24日	・公園等整備基本方針の策定について ・公園の現状と課題
第2回	平成30年11月 9日	・基本方針の方向性について ・基本理念・基本方針について
第3回	平成31年 1月30日	・基本方針（案）について

2. 市民参画

(1) 市民ワークショップの開催

市民参画の一環として市民意向の把握のため、公募により集まった市民や議員、剪定や花壇ボランティア等によりワークショップを実施した。

①実施概要

回次	開催日程	場所	参加人数	テーマ
第1回	平成30年 9月21日	小金井市 商工会館	20名	小金井の公園の“魅力と課題”を発見し、みんなで共有しよう！
第2回	平成30年10月11日	小金井市 商工会館	15名	公園でしたいことについて、みんなで共有しよう！
第3回	平成30年11月12日	小金井市 商工会館	18名	小金井の公園を魅力的にするためのルールや役割分担を考えよう！

②実施の様子



3. 例規等

開発に伴い整備する公園等の設置基準は、平成 30 年 12 月時点では以下のようになっています。

(1) 都市計画施行令（抜粋）

<p>都市計画法施行令 第二十五条</p>	<p>(第六号)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3,000 m²以上 50,000 m²未満の開発行為では、開発区域面積の 3 %以上の公園、緑地又は広場を設置。ただし、非住宅系の用途の場合、周辺に相当規模の公園、緑地又は広場が存する場合は除く。 <p>(第七号)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 50,000 m²以上の開発行為では、1 か所 300 m²以上、かつ、開発区域面積の 3 %以上の公園を設置。ただし非住宅系の用途の場合は緑地又は広場でも可能。
<p>都市計画法施行令 第二十九条</p>	<p>(第二項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第二十五条第六号の技術的細目に定められた制限の緩和は、次に掲げるところによるものであること。 <ul style="list-style-type: none"> イ 開発区域の面積の最低限度について、10,000 m²を超えない範囲で行うこと。 ロ 地方公共団体が開発区域の周辺に相当規模の公園、緑地又は広場の設置を予定している場合に行うこと。

(2) 小金井市まちづくり条例（「小金井宅地開発等の手引き」より抜粋）

	面積基準	管理等	金銭代替措置
<p>開発行為等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 都市計画法第 4 条第 1 2 項に規定する開発行為で、事業施行面積が 500 m²以上のもの。 ・ 宅地造成等規制法第 2 条第 2 号に規定する宅地造成で、事業施行面積が 500 m²以上のもの。 	<p>開発区域面積が 3,000 m²以上の場合、開発区域面積の 6 %以上</p>	<p>用地施設共に市に帰属。</p>	<p>なし</p>
<p>中高層建築物等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 建築敷地面積が 1,000 m²以上を必要とする建設事業。 ・ 高さが 10m を超える建築物（第一種、第二種低層住居専用地域においては、軒高 7m 以上または地上 3 階以上の建築物）。ただし、2 世帯住宅など自己の居住の用に供する住宅を除く。 ・ 計画戸数が 20 戸以上かつ地上 3 階以上の共同住宅の建築物。 	<p>開発区域面積が 1,000 m²以上 3,000 m²未満の場合、開発区域面積の 3 %以上</p> <p>開発区域面積が 3,000 m²以上の場合、開発区域面積の 6 %以上</p>	<p>一般公開とし、管理は自主管理とする。</p> <p>市に無償提供。</p>	<p>なし</p> <p>公園協力金に代えることができる。</p>



小金井市公園等整備基本方針（平成31年3月）

問合せ先 小金井市環境部環境政策課緑と公園係

住 所 〒184-8504 東京都小金井市本町六丁目6番3号

連絡先 TEL：042-387-9860 / FAX：042-383-6577

E-mail：s040199@koganei-shi.jp

ホームページ <http://www.city.koganei.lg.jp>